

*IBM Digital Data Exchange* の資料

**IBM**

---

# 目次

<b>IBM Digital Data Exchange</b> .....	<b>1</b>
IBM Digital Data Exchange の資料.....	1
はじめに.....	1
管理.....	8
使用.....	20
IBM Digital Data Exchange API .....	61
API の使用.....	61
Digital Data Exchange API データ・フィールド・リファレンス.....	68
その他の連絡先情報.....	78
サポート.....	79
商標.....	81
製品資料に関するご使用条件.....	81
プライバシー・ポリシーに関する考慮事項.....	82

# IBM Digital Data Exchange

---

Digital Data Exchange は、ページ・タグの構成とデプロイメントを簡素化する単一のインターフェースを提供します。この単一のインターフェースは、IT チームまたは Web 開発チームでのタグ管理の負担を軽減し、マーケティング・グループや一般のビジネス・グループを実現するのに役立ちます。

Digital Data Exchange は、ページ・タグの構成とデプロイメントを簡素化する単一のインターフェースを提供します。この単一のインターフェースは、IT チームまたは Web 開発チームでのタグ管理の負担を軽減し、マーケティング・グループや一般のビジネス・グループを実現するのに役立ちます。

## IBM Digital Data Exchange の資料

---

### はじめに

Digital Data Exchange アプリケーションは、ページ・タグの構成およびデプロイメントを簡素化する単一のインターフェースを提供します。この単一インターフェースにより、IT 開発チームまたは Web 開発チームのタグ管理の負担が軽減されます。

実行できる作業のいくつかを以下に示します。

- タグのパフォーマンスの監査など、IBM® のタグ、認定パートナーのタグ、およびその他のベンダー・タグの管理をします。
- オプションで、サード・パーティーの JavaScript およびコード・スニペットを起動するようにページ・グループ・ルールを構成します。
- 類似の Web サイト・ページをページ・グループにグループ化し、それぞれのページ・グループで実行されるタグを指定します。
- ページ・グループのタグがいつ実行されるかを決定するルールをセットアップします。
- ページ・グループをテスト環境またはプロダクション環境にデプロイします。
- ページ・グループのテスト・デプロイメントを実行し、オプションで、テスト目的でタグ・データをテスト・サーバーに送信します。
- タグをプロダクションにデプロイする前に、テスト結果を使用して、ページ上でのタグの動作のトラブルシューティングまたは微調整を行います。
- 特定のベンダーのすべてのタグを無効にする、あるいは再度有効にします。
- バージョン履歴を使用して、バージョンを比較したり、以前デプロイしたページ・グループ・コードのバージョンにロールバックしたりします。
- 選択したデータを IBM Digital Analytics Digital Data Exchange API から抽出します。

### タグを使用したデータ収集

データ収集のために Digital Data Exchange の Web サイトをタグ付けすることは重要な作業です。タグ付け、タグ標準、固有ページ識別子、ページ上でのタグの配置用のデータを入手するためのさまざまなメソッドについて理解しておく必要があります。

IBM Digital Analytics の実装については、[https://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SSPG9M/Analytics/implementing\\_container.html?lang=en](https://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SSPG9M/Analytics/implementing_container.html?lang=en) を参照してください。

### タグ付けでのデータの識別

Digital Data Exchange は、Web サイトのデータをタグ・シンジケーションで使用可能にするために、さまざまなメソッドを提供しています。メソッドには、JavaScript オブジェクト、HTML、URL、定数、Cookie、セッション・ストレージまたはローカル・ストレージ、および「未割り当て」などがあります。

すべてのタグがすべてのメソッドをサポートしているわけではありません。Digital Data Exchange でタグを構成すると、その特定のタグの種類でサポートされるメソッドが、「メソッド」ドロップダウン・リストで選択可能な選択項目に反映されます。

タグ付けのデータを特定する際に使用できる一部のメソッドの例を以下に示します。この例では、IBM Digital Analytics ページ・ビュー・タグを、必須パラメーターであるページ ID パラメーターおよびカテゴリー ID を指定して使用します。

### JavaScript オブジェクトの例

JavaScript オブジェクト名に入力される値は、タグ構成内の「オブジェクト名」フィールドに入力されているとおりに、ページ上に存在している必要があります。IBM Digital Analytics 標準値は、ページ ID は `digitalData.page.pageInfo.pageID` で、カテゴリー ID は `digitalData.page.category.primaryCategory` です。

タグ・フィールド	メソッド	オブジェクト名
* ページ ID	JavaScriptObject	<code>digitalData.page.pageInfo.pageID</code>
* カテゴリー ID	JavaScriptObject	<code>digitalData.page.pageInfo.primaryCategory</code>
検索用語	JavaScriptObject	<code>digitalData.page.pageInfo.onsiteSearchTerm</code>
検索結果の数	JavaScriptObject	<code>digitalData.page.pageInfo.onsiteSearchResults</code>
ページ属性 1 から 50	JavaScriptObject	<code>digitalData.page.attributes.exploreAttributes</code>
ページ追加フィールド 1 から 15	JavaScriptObject	<code>digitalData.page.attributes.extraFields</code>

### HTML の例

HTML は、Web サイトからのデータを Digital Data Exchange が読み取るための 2 つの異なるフォーマットをサポートします。1 番目の方法では、開始タグと終了タグの間の HTML オブジェクト名が読み取られます。

ページ ID のサンプル・コード:

```
<p><div id ="pageID">phHome</div></p>
```

pageID 値は、「タグ・フィールドの編集」ウィンドウの「HTML 属性名」フィールドに必ず設定する必要があります。この値は、各タグ・フィールドで固有である必要があります。

カテゴリー ID と属性名のサンプル・コード:

```
<p><div id="categoryID" catValue="HOME PAGE"/></p>
```

オプションの属性名、catValue は、「タグ・フィールドの編集」ウィンドウで設定します。この値は、HTML タグから収集されます。例: `catValue="HOME PAGE"`。

コードに属性名の値を指定しないと、データは送信されません。例: `catValue=""`。

タグ・フィールド	メソッド	オブジェクト名
* ページ ID	HTML	pageID
* カテゴリー ID	HTML	categoryID [catValue]
検索用語	JavaScriptObject	<code>digitalData.page.pageInfo.onsiteSearchTerm</code>
検索結果の数	JavaScriptObject	<code>digitalData.page.pageInfo.onsiteSearchResults</code>
ページ属性 1 から 50	JavaScriptObject	<code>digitalData.page.attributes.exploreAttributes</code>
ページ追加フィールド 1 から 15	JavaScriptObject	<code>digitalData.page.attributes.extraFields</code>

## URL の例

URL 方式では、タグ構成で指定されたパラメーターを検出するために URL が解析されます。次に、検出されたパラメーターからタグ・パラメーターが取得されます。例えば、URL パラメーター `pageId` および `categoryId` が指定された以下の URL が必要となります。

```
http://www.mysite.com/?pageId=pgHome&categoryId=HOME%20PAGE
```

## 定数の例

この方式は、すべてのタグでシンジケートされる定数値を指定します。

IBM Digital Analytics では、定数値は「カテゴリー ID」についてのみサポートされています。

## 「未割り当て」の例

このメソッドは、タグ・パラメーターを JavaScript NULL に設定し、それをタグ・パラメーターとして渡します。必須フィールドでは「未割り当て」方式を使用できません。

## IBM Digital Analytics タグ標準

ベスト・プラクティスとして、Web サイトが JavaScript を使用してデータを収集する場合は、IBM Digital Analytics (W3C Customer Experience Digital Data Layer) タグ標準を採用してください。

Digital Data Exchange は、W3C Customer Experience Digital Data Layer タグ標準を全面サポートしています。デフォルトでは、すべての IBM Digital Analytics および 認定パートナーのタグが、これらの IBM 標準を使用するように構成されます。Web サイトで IBM 標準を使用してデータを表示する場合は、タグを追加構成する必要なく、すべてのタグが機能します。この方法でデータを表示することをお勧めします。

これらの標準がクライアント Web サイトによって準拠されている場合、Digital Data Exchange は特定のタグに関連付けられた名前付きパラメーター (データ・フィールド) を自動的にかつ正確に収集することができます。

IBM Digital Analytics のタグ標準について詳しくは、「Customer Experience Digital Data Layer v1.0 Final Report」 (<http://www.w3.org/2013/12/ceddl-201312.pdf>) を参照してください。

## タグ付きページ上でのタグの配置

Digital Data Exchange のタグは、Digital Data Exchange ツール内で構成されます。Digital Analytics タグ・パラメーターに選択した方法によっては、データが正しく処理されるようにターゲット Web ページでオブジェクトを宣言することが必要な場合があります。

Digital Data Layer は、Web ページの `<head>` セクションに組み込まれます。

Digital Data Exchange タグは、ページ内/サイト・エレメントとの訪問者の対話に対応して呼び出されることもあります。

例えば、Digital Analytics タグ・パラメーターに `JavaScriptObject` メソッドを使用する場合は、ターゲット Web ページの HTML で特定の JavaScript オブジェクトを宣言する必要があります。

```
digitalData = {
  pageInstanceID: 'Standard Page',
  page: {
    pageInfo: {
      pageID: 'Shopping Cart',
      onsiteSearchTerm: "",
      onsiteSearchResults: ""
    },
    category: {
      primaryCategory: 'Checkout'
    },
    attributes: {
      exploreAttributes: "",
      extraFields: ""
    }
  }
};
```



```
</script>
</head>
```

パラメーター	必須	説明
クライアント ID	必須	IBM が割り当てた 8 桁の固有のアカウント・コードで、単一の分析データウェアハウスおよびレポート・インスタンスに関連付けられています。
データ収集方式	必須	ブール値の true または false。true は「クライアント管理対象」ファースト・パーティーを示します。false は、「IBM 管理対象」ファースト・パーティーまたは「サード・パーティー」を示します (該当する場合)。
データ収集ドメイン	必須	IBM Digital Analytics データ収集要求用のターゲット・ドメイン。 「データ収集方式」が false の場合: データ収集ドメインを IBM 管理対象ファースト・パーティー・データ収集ドメインに設定します。例: (<1stpartydcd>.thesite.com)。 「データ収集方式」が true の場合: データ収集ドメインを data.coremetrics.com に設定します。 ヨーロッパ・データ・センターは、data.de.coremetrics.com プロダクション・データ収集ドメインを使用します。
Cookie ドメイン	必須	クライアント管理対象 Cookie のドメイン。 Cookie ドメインを、タグ付けされたページを提供するドメインの第 2 レベル・サイト・ドメイン (thesite.com) に設定します。固有に識別するサイト・ドメイン値の前に追加のドメイン・レベルがある場合、Cookie ドメインが 3 番目以降のレベルである可能性があります。例: thesite.co.uk。 • 「データ収集方式」が false の場合: IBM Digital Analytics 訪問者 Cookie および訪問 Cookie は、IBM 管理対象データ収集ドメイン下で設定します (<1stpartydcd>.thesite.com)。その他の IBM Digital Analytics Cookie は、「Cookie ドメイン」で設定されます。 • 「データ収集方式」が true の場合: すべての IBM Digital Analytics Cookie が「Cookie ドメイン」で設定されます。

### データ・タグ要求および複数の IBM Digital Analytics クライアント ID

セミコロンで区切られた ID 値リストを指定することで、データ・タグを複数のクライアント ID にコピーできます。指定する ID は、すべてプロダクション ID またはテスト ID でなければなりません。テスト ID とプロダクション ID の混用は許可されていません。複数のサイトからタグを送信しようとしていて、その各サイトが専用の「集約」ID にタグのコピーも行う場合、リストで最初に指定されている ID を「集約」ID にする必要があります。「集約」ID は、複数のサイトからコピーされるデータ・タグをレポートします。

- タグ要求をサイト #1 から「集約」ID およびサイト固有の ID #1 に送信する例を次に示します。ここで、99999999 は「集約 ID」で、11111111 はサイト固有の ID です。

```
cmSetClientID("99999999;11111111",true,"data.coremetrics.com","site1.com");
```

- さらにサイト #2 から「集約」ID およびサイト固有の ID #2 (ID 22222222) に送信する例:

```
cmSetClientID("99999999;22222222",true,"data.coremetrics.com",  
"site2.com");
```

要求を 2 つ以上の ID にコピーするとサーバー呼び出し数の合計が増加します (1 に、指定した ID の数を乗じた数)。上の例では、ページから送信される各タグが 2 つの ID にコピーされるため、評価されるサーバー呼び出しの合計が 2 倍になります。

IBM Digital Analytics のアカウント、販売、およびプロビジョニングを担当するチームは、「集約」データ収集のために契約されている ID がある場合には、その ID と各 ID ごとに契約されている月単位のミリオン・サーバー・コールの量に関する具体的な情報を提供できます。

### 訪問 Cookie および訪問者 Cookie

訪問および訪問者アクティビティのトラッキングを容易にするために、IBM Digital Analytics は訪問 Cookie および 訪問者 Cookie を使用します。

アカウントが IBM Digital Analytics 用にプロビジョンされていない場合、この情報は適用されません。

- **訪問 Cookie:** 訪問 Cookie は、現在のブラウザ訪問の存続期間の間のみ存在します。訪問 Cookie は、最初のタグを Web サイトから受信してから、1) 訪問者が対象のブラウザのブラウザ・ウィンドウをすべて閉じるか、2) ブラウザー訪問からデータ収集タグを受信せずに 30 分を超えて経過するまで存在します。Web サイトへの各訪問者は、1 つ以上の訪問に関連付けられる場合があります。
- **訪問者 Cookie:** 訪問者 Cookie は、訪問者がすべてのブラウザ・ウィンドウを閉じた後も残ります。各訪問者 Cookie には、IBM Digital Analytics が複数の訪問にわたってサイトに戻る訪問者を特定するために参照する Cookie ID が含まれています。

訪問者 Cookie および訪問 Cookie に加えて、特定の実装および IBM Digital Analytics のバージョンによっては、追加の訪問ベースの Cookie がいくつか設定されていることがあります。追加の訪問 Cookie は、他の IBM Digital Analytics アプリケーションによって設定されていることもあります。

### IBM Digital Data Exchange サービス・ドメイン

IBM Digital Data Exchange の機能をすべて使用するには、複数のドメインに対して、企業ネットワークへのインバウンドおよびアウトバウンド・アクセスを許可する必要があります。さらに、開発、QA、および他の社内ネットワーク・チームで使用するブラウザで、JavaScript の実行および次のリストのドメインによって設定される Cookie を許可します。

Digital Data Exchange ツール、レポート、およびデータ収集機能を社内ネットワークで正しく機能させるには、以下のドメインにネットワークへのインバウンドおよびアウトバウンド・アクセスを許可してください。

- testdata.coremetrics.com
- test.coremetrics.com
- data.coremetrics.com
- welcome.coremetrics.com
- itt.coremetrics.com
- tmscdn.coremetrics.com
- 使用中の IBM Managed データ収集ドメイン

ヨーロッパ・データ・センターのサービス・ドメイン:

- data.de.coremetrics.com
- testdata.de.coremetrics.com
- welcome.de.coremetrics.com
- ftp.de.coremetrics.com

IBM Digital Data Exchange は、これらのドメインに関連付けられた IP アドレスを予告なしに変更することがあるため、IP によってこれらのドメインに確実にアクセスできるようにすることは不可能です。

## Digital Data Exchange でのナビゲーション

Digital Data Exchange でのナビゲートは、とても実行しやすい作業です。タグ、資産、ベンダー、デプロイメント、API、および管理に簡単にアクセスできます。さらに、ライセンス交付を受けている他の任意の IBM Digital Analytics アプリケーションに切り替えることができます。

## ユーザー・インターフェースでのナビゲーション

### タグ

タグでは、すべての基本タグとカスタム・タグにアクセスできます。ユーザーは、保存された(ユーザー作成)タグ・ビューやデフォルト(システム作成)タグ・ビューを使用してタグにアクセスすることもできるし、「IBM タグ」、「認定パートナーのタグ」、あるいは「その他のタグ」の各セクションの下で、ベンダー別にタグを検索することもできます。

### 資産

資産では、ページ・グループ、コード・スニペット、セグメントなど、Web サイトのタグ付けをサポートするさまざまなオブジェクトにアクセスできます。

### ベンダー

ベンダーでは、ベンダー関連の機能にアクセスできます。これには「すべての認定パートナー」リストが含まれ、このリストには各パートナーのカテゴリ、タイプ、および Web サイトの URL が表示されます。また、ここから各パートナーの管理設定およびタグ設定にアクセスできます。「ベンダー」セクションには、ベンダー設定およびベンダー監査レポートも含まれます。

### デプロイメント

デプロイメントでは、ページ・テスト、デプロイメント・バージョンの比較とロールバック、およびデプロイメント履歴など、デプロイメント関連の機能にアクセスできます。これには「ベンダーの有効化」が含まれ、特定のベンダーのすべてのタグを有効または無効にできます。

### API

API では、API 構成、保存されたフィード、使用状況レポートなどの API 機能にアクセスできます。Digital Data Exchange API は、IBM Digital Analytics のお客様のみ使用可能です。

### 管理

管理では、ベンダー・マッピング、グローバル設定、変更レポート、およびベンダー監査用設定などの管理機能にアクセスできます。

## アプリケーション・ヘッダー

インターフェースの上部にあるメニューには、現在のアプリケーションの標準オプションへのリンクおよびライセンス交付を受けたすべての IBM Digital Analytics アプリケーションへのリンクがあります。

### アプリケーション・トグル

このドロップダウン・メニューでは、ライセンス交付を受けた他の IBM Digital Analytics アプリケーションにアクセスできます。アプリケーションの名前をクリックして現行ウィンドウ内でそのアプリケーションに切り替えるか、あるいは「開く」をクリックして新規ウィンドウまたはブラウザー・タブ内でそのアプリケーションを起動します。一部のオプションは、IBM Digital Analytics アプリケーションに対するアクセス権限がある場合に限り表示されます。

### アドミン

このリンクは、管理権限を持つユーザーに対してのみ表示されます。このリンクをクリックして管理コンソールを開始し、ユーザーやユーザー・グループ、およびそれらの権限を管理します。詳しくは、「IBM Digital Analytics ユーザー・ガイド」の『管理』セクションを参照してください。

### ヘルプ

「このページのヘルプ」をクリックして現行ページの「ヘルプ」トピックを開きます。どの「ヘルプ」トピックからでも、「ヘルプ」システムの完全な目次を開いたり、すべてのトピックにわたって検索やナビゲートを行ったりすることができます。

「製品資料」をクリックすると、このアプリケーションに関するすべての資料にアクセスできるページが開きます。

### フィードバック

このリンクを使用して、「技術サポート」または「プロダクト管理」にフィードバックを E メールで送信します。

## サポート

このリンクをクリックして、サポート・センターにアクセスします。サポート・センターのアカウントを取得していない場合は、アカウントを作成するステップが示されます。

## ログアウト

「ログアウト」をクリックしてアプリケーションからログアウトします。

## 管理

Digital Data Exchange システム管理者として、システム要件、ユーザー管理、ロールと権限、グローバル設定、Java オブジェクトとライブラリー、および変更レポートについてよく理解している必要があります。システム管理者には、「管理」権限が割り当てられます。

### システム要件

IBM Digital Data Exchange を実行するには、特定のバージョンのソフトウェアおよびブラウザと必要最小メモリー容量が必要です。

以下のシステム要件を維持してください。

- ソフトウェア: Adobe Flash Player V10 または V11
- メモリー: 1 GB 以上の RAM
- ブラウザー: Microsoft Internet Explorer v7 から v11、Mozilla Firefox v12 以降、または Google Chrome v14 以降。ブラウザは、Digital Data Exchange のページ・テスト機能を使用する都合上、HTML5 に対応したものである必要があります。上記のブラウザ・バージョンがサポートされますが、これらすべてのバージョンが HTML5 要件を満たしているとは限りません。

### JavaScript オブジェクトおよびライブラリー

JavaScript オブジェクトを使用して Web サイト・ページでタグ付けのデータを特定する場合、データを正しく処理するには、digitalData オブジェクトまたは webanalytics オブジェクトを宣言しなければならないことがあります。

JavaScriptObject メソッドを使用してタグ・パラメーター・データ収集を行っている場合、digitalData オブジェクトまたは webanalytics オブジェクトを宣言して、データを表示する必要があります。

また、JavaScriptObject メソッドを使用して IBM Digital Data Exchange で固有ページ識別子を指定している場合は、各ページで以下のオブジェクトを宣言する必要があります。

```
var digitalData = {pageInstanceID: "pagegroup123"};
```

または

```
var WebAnalytics = {Page: {PageIdentifier: "pagegroup123"}};
```

ここで、pagegroup123 は、Digital Data Exchange で定義したページ・グループに関連付けられた固有の PageIdentifier 値です。

アカウントが IBM Digital Analytics 用にプロビジョンされている場合は、一連の IBM Digital Analytics データ・タグを使用して、サイトからデータを収集できます。これらのタグは、IBM Digital Analytics がホストする eluminate.js ライブラリー・ファイル、またはローカルにホストされている cmcustom.js または cmdatatagutils.js ライブラリー・ファイルで定義されています。

タグ関数定義は、実装によって異なることがあります。cmcustom.js ライブラリー・ファイルがある場合はそのコンテンツを表示して、特定の実装をサポートするために、変更された標準関数または導入された新しい関数を確認してください。別個の eluminate.js ファイルおよび cmdatatagutils ファイルをホストしている場合は、cmdatatagutils ファイルのコンテンツを表示して、実装のタグ定義を調べてください。

### JavaScript タグ標準

IBM Digital Analytics には、さまざまなタグの種類に対する命名標準があります。これらの標準がクライアント Web サイトによって準拠されている場合、Digital Data Exchange はそれぞれの特定のタグに関連付けられた名前付きパラメーター (データ・フィールド) を自動的にかつ正確に収集することができます。

それぞれのタグの種類について詳しくは、[https://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SSPG9M/Analytics/implementing\\_container.html?lang=en](https://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SSPG9M/Analytics/implementing_container.html?lang=en) を参照してください。

タグの種類/ パラメーター 名	デジタル・データ・オブジェクト標準	Web 分析名 (レガシー)
<b>コンバージョン・イベント</b>		
コンバージョン・イベント ID	digitalData.event[n].eventInfo.eventName	webanalytics.events.event.eventid
コンバージョン・イベント・アクションの種類	digitalData.event[n].eventInfo.eventAction	webanalytics.event.actiontype
コンバージョン・イベント・カテゴリー	digitalData.event[n].category.primaryCategory	webanalytics.events.eventcategory
コンバージョン・イベント・ポイント	digitalData.event[n].eventInfo.eventPoints	webanalytics.events.eventpoints
コンバージョン・イベント属性 1 から 50	digitalData.event[n].attributes.exploreAttributes	webanalytics.events.event.attributes
コンバージョン・イベント追加フィールド 1 から 5	digitalData.event[n].attribute	webanalytics.events.event.extrafields
<b>エレメント</b>		
エレメント ID	digitalData.component[n].componentInfo.componentID	webanalytics.elements.element.elementid
エレメント・カテゴリー	digitalData.component[n].category.primaryCategory	webanalytics.elements.element.elementcategory
エレメント属性 1 から 50	digitalData.component[n].attributes.exploreAttributes	webanalytics.elements.element.attributes
<b>注文</b>		
注文 ID	digitalData.transaction.transactionID	webanalytics.order.orderid
注文小計	digitalData.transaction.total.basePrice	webanalytics.order.ordersubtotal
注文の送料	digitalData.transaction.total.shipping	webanalytics.order.shippingcharges
登録 ID	digitalData.transaction.profile.profileInfo.profileID	webanalytics.order.registrationid
登録者の都市 (Registrant City)	digitalData.transaction.profile.address.city	webanalytics.order.address.city

タグの種類/ パラメーター 名	デジタル・データ・オブジェクト標準	Web 分析名 (レガシー)
登録者の都道府県名 (Registrant State/ Province)	digitalData.transaction.profile.address. state_province	webanalytics.order.address.state_province
登録者の郵便番号 (Registrant Zip/Postal Code)	digitalData.transaction.profile.address.postalcode	webanalytics.order.address.postalcode
注文属性 1 から 50	digitalData.transaction.attributes. exploreAttributes	webanalytics.order.attributes
注文追加フィールド 1 から 15	digitalData.transaction.attributes.extraFields	webanalytics.order.extrafields
<b>ページ・ビュー</b>		
ページ ID	digitalData.page.pageInfo.pageID	webanalytics.page.pageid
カテゴリー ID	digitalData.page.category.primaryCategory	webanalytics.page.categoryid
検索用語	digitalData.page.pageInfo.onsiteSearchTerm	webanalytics.page.searchterm
検索結果の数	digitalData.page.pageInfo.onsiteSearchResults	webanalytics.page.searchresults
ページ属性 1 から 50	digitalData.page.attributes.exploreAttributes	webanalytics.page.attribute
ページ追加フィールド 1 から 15	digitalData.page.attributes.extraFields	webanalytics.page.extrafields
<b>プロダクト・ビュー</b>		
プロダクト ID	digitalData.product[n].productInfo.productID	webanalytics.product.productid
プロダクト名	digitalData.product[n].productInfo.productName	webanalytics.product.productname
カテゴリー ID	digitalData.product[n].category.primaryCategory	webanalytics.product.categoryid
プロダクト属性 1 から 50	digitalData.product[n].attributes.exploreAttributes	webanalytics.product.attributes
バーチャル・カテゴリー	digitalData.product[n].category.virtualCategory	webanalytics.product.virtualcategory
<b>登録</b>		
登録 ID	digitalData.user[0].profile[0].profileInfo.profileID	webanalytics.registrant.registrationid

タグの種類/ パラメーター 名	デジタル・データ・オブジェクト標準	Web 分析名 (レガシー)
登録者の E メール・アド レス (Registrant Email Address)	digitalData.user[0].profile[0].profileInfo. profileEmail	webanalytics.registrant.email
登録者の都市 (Registrant City)	digitalData.user[0].profile[0].address.city	webanalytics.registrant.address.city
登録者の都道 府県名 (Registrant State/ Province)	digitalData.user[0].profile[0].address. state_province	webanalytics.registrant.address.state_provinc e
登録者の郵便 番号 (Registrant Zip/Postal Code)	digitalData.user[0].profile[0].address.postalco de	webanalytics.registrant.address.postalcode
登録者の国 (Registrant Country)	digitalData.user[0].profile[0].address.country	webanalytics.registrant.address.country
登録属性 1 から 50	digitalData.user[0].profile[0].profileInfo. exploreAttributes	webanalytics.registrant.attributes
<b>ショッピング・アクション 5</b>		
プロダクト ID	digitalData.cart.item[n].productInfo.productID	webanalytics.cart.products.productid
プロダクト名	digitalData.cart.item[n].productInfo. productName	webanalytics.cart.products.productname
プロダクト数	digitalData.cart.item[n].quantity	webanalytics.cart.products.quantity
プロダクト単 価 (Product Unit Price)	digitalData.cart.item[n].price	webanalytics.cart.products.baseprice
カテゴリー ID	digitalData.cart.item[n].category.primaryCateg ory	webanalytics.cart.products.categoryid
ショップ 5 属性 1 から 50	digitalData.cart.item[n].attributes. exploreAttributes	webanalytics.cart.products.attributes
ショップ 5 追加フィール ド 1 から 15	digitalData.cart.item[n].attributes.extraFields	webanalytics.cart.products.extrafields
<b>ショッピング・アクション 9</b>		
プロダクト ID	digitalData.transaction.item[n].productInfo. productID	webanalytics.order.products.productid

タグの種類/ パラメーター 名	デジタル・データ・オブジェクト標準	Web 分析名 (レガシー)
プロダクト名	digitalData.transaction.item[n].productInfo. productName	webanalytics.order.products.productname
プロダクト数	digitalData.transaction.item[n].quantity	webanalytics.order.products.quantity
プロダクト単 価 (Product Unit Price)	digitalData.transaction.item[n].price	webanalytics.order.products.baseprice
登録 ID	digitalData.transaction.profile.profileInfo. profileID	webanalytics.order.products.registrationid
注文 ID	digitalData.transaction.transactionID	webanalytics.order.products.orderid
注文小計	digitalData.transaction.total.basePrice	webanalytics.order.products.ordersubtotal
カテゴリー ID	digitalData.transaction.item[n].category. primaryCategory	webanalytics.order.products.categoryid
ショップ 9 属性 1 から 50	digitalData.transaction.item[n].attributes. exploreAttributes	webanalytics.order.products.attributes
ショップ 9 追加フィール ド 1 から 15	digitalData.transaction.item[n].attributes. extraFields	webanalytics.order.products.extrafields

### JavaScript ライブラリー

Digital Data Exchange が Web サイト・ページを評価するときに、以下の方法で JavaScript ライブラリーがロードされます。

Web サイト・ページで固有ページ識別子が検出された後、ページ・グループ・ルールとタグ・ルールが Digital Data Exchange にデプロイされた順序で実行されます。

ページ・グループ・ルールとタグ・ルールが満たされると、必要な JavaScript ライブラリーがロードされ、データがシンジケートされます。

ページ・グループ・ルールが満たされないと、ライブラリーはロードされません。同じ JavaScript ライブラリーを必要とする複数のタグが実行される場合、ライブラリーは、タグの初回のシンジケーションのために 1 回のみロードされます。

#### head.js をロードするかの制御

CM\_DDX.headScripts 構成パラメーターを使用して、ページ・グループ・ルールおよびタグ・ルールが満たされるかどうかにかかわらず、Web ページの <Head> セクションのタグをロードするかどうかを制御できます。

このパラメーターの可能な値は、TRUE および FALSE です。デフォルトでは、このパラメーターの値は TRUE に設定され、head.js ファイルのロードを指示します。このパラメーターを FALSE に設定することで、head.js ファイルのロードをオフにできます。

次の例は、あるページの <Head> セクション内におけるこのパラメーターの配置を示しています。eluminate.js の後で cmSetClientID の前にあります。

```
<head>
<script type="text/javascript" src="//libs.coremetrics.com/eluminate.js">
</script>
<script type="text/javascript">CM_DDX.headScripts=false;
cmSetClientID("99999999",true,"data.coremetrics.com","thesite.com");
</script>
</head>
```

## eluminate.js ライブラリー・ファイル

IBM Digital Data Exchange は、サイトのタグ付けをサポートするために、`eluminate.js` という 1 つのライブラリー・ファイルを提供します。この Digital Data Exchange-minor 変更ファイルは、データ収集イメージ要求を Digital Data Exchange に送信するために適切なパラメーター・データを指定して呼び出すことができる関数セットを定義した JavaScript コードを提供します。Digital Data Exchange を実装するすべてのページにこのファイルを組み込む必要があります。

Digital Data Exchange を使用してタグをデプロイしている場合、Digital Data Exchange JavaScript ライブラリーがタグ・コンテナーにより自動的にページに組み込まれます。そのパスは、Digital Data Exchange 内の「**グローバル設定**」に定義されます。

注:

1. Digital Data Exchange は、組み合わされた単一のホスト・ライブラリー・ファイル (`//libs.coremetrics.com/eluminate.js`) を 2010 年 4 月に提供し始めました。この日付より前に完了した実装は、ローカルにホストされた別個の `eluminate.js` ライブラリー・ファイルおよび `cmdataatagutils.js` ライブラリー・ファイルを使用している場合があります。
2. ホストされないライブラリーを使用している場合は、Digital Data Exchange がホストするライブラリー (バージョン「4.7.5H」以降) にアップグレードするまで引き続きライブラリーをページの `body` セクションに含めてください。アップグレードするには、IBM サポートに連絡してください。

## eluminate.js

`eluminate.js` ファイルは Digital Data Exchange タグ付けテクノロジーのコア機能を定義し、一部が縮小化および難読化されています。タグ関数定義は、難読化も縮小化もされていません。`eluminate.js` ファイルは、Digital Data Exchange トラッキングを必要とするすべてのページの `Head` セクションに含められます。

```
<head>
<script type="text/javascript" src="//libs.coremetrics.com/eluminate.js">
</script>
<script type="text/javascript">
cmSetClientID(...);
</script>
</head>
```

## cmcustom.js

特定の実装には、デフォルトのデータ収集関数のオーバーライドまたは新しい関数の導入といったカスタマイズが含まれている場合があります。このカスタム・ファイルの `cmcustom.js` は、IBM サポートから提供され、自社の組織でローカルにホストされます。特定のカスタマイズの詳細については、このファイルの内容を参照してください。

このファイルは以下のように、すべてのページで Digital Data Exchange がホストする「`eluminate.js`」ライブラリーの組み込みのすぐ後に組み込まれます。

```
<head>
<script type="text/javascript" src="//libs.coremetrics.com/eluminate.js">
</script>
<script type="text/javascript" src="//thesite.com/cmcustom.js">
</script>
cmSetClientID(...);
</script>
</head>
```

ヨーロッパ・データ・センターの `eluminate` ファイル・ロケーション

ヨーロッパ・データ・センターのユーザー向け `eluminate.js` ファイルは、次の場所にあります:

`libs.de.coremetrics.com/eluminate.js`

```
<script type="text/javascript"
src="//libs.de.coremetrics.com/eluminate.js">
```

## 変更レポート

変更レポートには、選択した一定期間にクライアント ID が実行した操作のリストが表示されます。このレポートを表示するには、実行者のユーザー・アカウントに「管理」権限が割り当てられている必要があります。

変更レポートに記録される操作には、以下のものが含まれます。

- ページ・グループの更新
- 設定の更新
- ページ・グループのデプロイメント
- テスト環境またはプロダクション環境へのデプロイメント

記録される各操作は、以下により識別されます。

- 操作の日時
- 操作対象オブジェクトの種類
- 説明
- 操作を実行したユーザーの名前

以下を実行できます。

- 日付範囲が含まれる「期間」を使用して、レポート内のデータをフィルタリングします。「レポート・オプション」をクリックして、カレンダー・オプションおよびフィルター・オプションにアクセスすることもできます。
- 特定の項目を検索するには、「テーブル内を検索」に検索テキストを入力します。各列を昇順または降順にソートするには、各列見出しの隅にある矢印をクリックします。
- 変更レポートをダウンロードするには、「監査レポートのダウンロード」を使用します。

「管理」 > 「変更レポート」をクリックすると、このレポートにアクセスできます。

データがこのレポートからパージされることはありません。

## ユーザー管理

IBM Digital Analytics のユーザー管理は、システム管理者により処理されます。

IBM Digital Analytics ユーザー・アカウントの作成、更新、または削除を行うには、実行者のユーザー・アカウントに「管理」ロールが割り当てられている必要があります。

## ロールと権限

Digital Data Exchange で実行できるタスクは、アカウント・プロビジョニング、ユーザーのロール、およびそのロールに対して付与された権限によって決まります。一般に、ある領域またはタスクの権限を明示的に保持していない場合は、ユーザー・インターフェースの関連するセクションにアクセスできません。オブジェクトを表示できるが変更できないということもあります。

次の表は、Digital Data Exchange で使用できる権限のリストです。1 人のユーザーに複数の権限を割り当てることができます。

表 1: ロールと権限.	
権限	説明
タグ	タグ権限を持つユーザーは、すべてのタグの詳細を表示でき、また、アプリケーションの「タグ」セクション下で使用可能なすべてのアクション (置換の作成を含む) を実行できます。

表 1: ロールと権限. (続く)

権限	説明
ページ・グループ	<p>ページ・グループ権限を持つユーザーは、すべてのページ・グループの詳細を表示でき、また、アプリケーションの「ページ・グループ」セクションにあるすべてのアクションを実行できます。ただし、次のアクションを除きます。</p> <p>拡張機能権限に関連付けられている機能。ページ・グループ権限を持つが拡張機能権限を持たないユーザーは、正規表現、コード・スニペット、およびベンダーの JavaScript 機能を表示できますが、これらを編集、保存、変更することはできません。そのようなユーザーは、ページ・グループの他のユーザーが保存した、拡張機能構成を編集したり削除したりすることはできません。また、コード・スニペットをページ・グループに追加したりコード・スニペットを変更したりすることもできません。</p>
デプロイ	<p>デプロイ権限を持つユーザーは、ページ・グループをテスト環境とプロダクション環境の両方にデプロイすることができます。また、デプロイ権限は、ユーザーがプロダクション内のベンダー・タグを無効または有効にしたり、あるいはプロダクション・バージョンを戻したりするためにも必要です。</p>
管理	<p>管理権限を持つユーザーは、アプリケーションの「管理」セクション下で使用可能なすべてのアクションを実行できます。</p>
拡張機能	<p>拡張機能権限を持つユーザーは、正規表現、コード・スニペット、およびベンダーの JavaScript 機能の編集、保存、および削除をすべて行うことができます。</p> <p>拡張機能権限は各アプリケーション領域の基本権限と連動して機能します。例えば、タグの「拡張機能」権限を有するには、タグの基本権限も必要です。</p>
Digital Data Exchange API	<p>Digital Data Exchange API は、IBM Digital Analytics のお客様のみ使用可能です。</p> <p>Digital Data Exchange API 権限を持つユーザーには、アプリケーションの「API」セクションにある API 構成ページにアクセスする権限があります。ユーザーは「API のみ」の権限を持っている場合もあります。この場合、ユーザーは API 構成ページにのみアクセスできますが、Digital Data Exchange 内の他の領域にはアクセスできません。</p> <p>より詳細な権限を定義するために、Digital Data Exchange API 権限下のサブグループを選択または選択解除できます。例えば、あるユーザーにはすべての API データに対する権限を持たせる一方で、別のユーザーには、カート・イベントやコンバージョン・イベントといった特定タイプの API データに対してのみ権限を持たせることができます。</p>

表 1: ロールと権限. (続く)	
権限	説明
テストへのデプロイ	テストへのデプロイの権限を持つユーザーには、IBM Digital Data Exchange で作成されたタグをテスト環境にデプロイするアクセス権限があります。
プロダクションへのデプロイ	<p>プロダクションへのデプロイの権限を持つユーザーには、以下のことができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• IBM Digital Data Exchange で作成されたタグをプロダクション環境にデプロイする</li> <li>• プロダクション・ビルドを前のビルドにロールバックする</li> <li>• 作成後にそれらをベンダーに有効にする</li> </ul>

### ユーザー・グループの作成

管理特権を持つユーザーは、「アドミン」メニューからユーザー・グループを管理できます。

グループの作成およびグループへのユーザーの追加に関する基本手順については、「IBM Digital Analytics ユーザー・ガイド」を参照してください。

新規ユーザー・グループを作成するには、以下を実行します。

1. アプリケーション・ヘッダーの「アドミン」をクリックします。
2. 「グループを管理」をクリックします。
3. ユーザー・グループ名、適用可能なクライアント ID、およびこのグループに付与する Digital Data Exchange 権限のレベルを入力します。
4. 「保存」をクリックします。

### ユーザー・アカウントの作成

管理特権を持つユーザーは、「アドミン」メニューからユーザーを管理できます。

新規ユーザーの追加に関する基本手順については、「IBM Digital Analytics ユーザー・ガイド」を参照してください。

新規ユーザー・アカウントを作成するには、以下を実行します。

1. アプリケーション・ヘッダーの「アドミン」をクリックします。
2. 「ユーザーを管理」をクリックします。
3. 新しいユーザー・アカウントを作成します。
4. ユーザー・アカウントをユーザー・グループに割り当てます。
5. ユーザーのロールをユーザー・アカウントに割り当てます。
6. 「保存」をクリックします。

### グローバル設定

グローバル設定は、ページを識別する方法、およびページ・グループのタグ処理を実行する方法を定義します。グローバル設定を指定する必要があります。この設定は、アプリケーションの使用を開始する前に、ご使用の Digital Data Exchange の実装に適用されます。グローバル設定の処理をするには、実行者のユーザー・アカウントに「管理」権限が割り当てられている必要があります。

以下のグローバル設定を構成できます。

- 固有ページ識別子
- ページ・グループ・タグの処理
- 「トラッキングしない」設定

これらのグローバル設定は、Multisite グローバル ID から継承することができます。グローバル設定を継承するには、それぞれのグローバル設定で該当のチェック・ボックスを選択する必要があります。一度、継承が設定されると、そのグローバル設定は、既存および今後のすべてのサイト ID 全体で共有されます。

グローバル設定を管理するには、「管理」>「グローバル設定」をクリックします。

### ページ・グループ・タグの処理

「管理」>「グローバル設定」の「ページ・グループ・タグの処理」オプションを使用して、デプロイ済みページ・グループについて Digital Data Exchange でのタグ処理の実行方法を決定します。この設定は、個々のページが複数のページ・グループに属するときに特に重要です。ページ・グループ・タグの処理を行うには、実行者のユーザー・アカウントに「管理」権限が割り当てられている必要があります。

ページ・グループ・タグの処理オプションは以下のとおりです。

- 「**すべてのページ・グループでタグを実行**」 - このオプションはデフォルトで選択されます。複数のページ・グループがデプロイされている場合、Digital Data Exchange は、グローバル・ページ・グループ内のすべてのタグと、ページ・グループ・ルール条件を満たすすべてのページ・グループ内のタグを実行します。
- 「**最初のページ・グループのみでタグを実行**」 - この設定を選択すると、Digital Data Exchange は、グローバル・ページ・グループ内のすべてのタグと、ページ・グループ・ルール条件を満たす最初のページ・グループ内のタグを実行します。他のページ・グループ内のタグは、実行されません。ページ・グループの順序は、「**選択したページ・グループ**」リストの横の上矢印または下矢印を使用することで管理できます。

Multisite クライアントの場合、ページ・グループ・タグの処理を Multisite グローバル ID から継承することができます。

それぞれに同じページが含まれる複数のページ・グループがあり、それらのページ・グループの全体にわたって同じタグがデプロイされている場合、「**すべてのページ・グループでタグを実行**」オプションを選択すると、そのタグは、複数回シンジケートされます。このシナリオでは、「**最初のページ・グループのみでタグを実行**」オプションを選択すると、複数のページ・グループにデプロイされた同じタグが 2 回以上シンジケートされなくなります。

### 「トラッキングしない」設定

グローバルの「**トラッキングしない**」設定により、特定のブラウザで「**トラッキングしない**」設定が有効に設定されている場合に、そのブラウザでトラッキング・タグが実行されるかどうかが決まります。「**トラッキングしない**」設定を管理するには、実行者のユーザー・アカウントに「管理」権限が割り当てられている必要があります。

デフォルトでは、Digital Data Exchange は常にトラッキング・タグを実行します。「**トラッキングしない**」設定が有効に設定されている場合に、特定のブラウザでトラッキング・タグが実行されないようにするには、「**トラッキングしない設定を受け入れる (Honor DNT settings)**」を選択する必要があります。「**トラッキングしない設定を受け入れる (Honor DNT settings)**」オプションが選択されていないければ、ブラウザの「**トラッキングしない**」設定にかかわらず、トラッキング・タグは実行されます。

Multisite クライアントの場合、「**トラッキングしない**」設定を Multisite グローバル ID から継承することができます。

### 固有ページ識別子

Digital Data Exchange は、サイト・ページ上にある固有ページ識別子に基づくページ・ルール・ロジックに依存しています。固有ページ識別子とは、Digital Data Exchange でタグを管理するすべてのサイト・ページを固有に識別する値 (例えば、文字列を含む JavaScript オブジェクトまたは HTML オブジェクト) のことです。

固有ページ識別子は、ページ・グループ・ルールについて評価するすべてのページ上に存在している必要があります。Digital Data Exchange が固有ページ識別子をページ上で検出できないと、ページ・グループ・ルールを評価できないために、そのページのタグ・データが供給されません。

(オプション) 開発に一定レベルの細分度が必要であるとき、さまざまなタグ・セットを含むページがあり、テストやプロダクションの異なる段階でページに適用されるルールがある場合は、固有ページ識別子を使用して特定の環境でページを一意的に識別できます。プロダクションにさまざまな開発段階のあるページは同じページ ID を持つ場合がありますが、プロダクションのページのバージョンは、開発のページのバー

ジョンと同じにはなりません。ページ・バージョンのそれぞれが、各々に固有のタグ・セットと適用されるルールを必要とする場合、バージョンごとに異なる固有ページ識別子を使用してページ・バージョンを区別することができます。

デフォルトでは、Digital Data Exchange 内の固有ページ識別子は JavaScript オブジェクトです。これらは、Cookie、HTML オブジェクト、URL、ローカル・ストレージまたはセッション・ストレージ、もしくは HTML <meta> タグなど、他のさまざまなメソッドに基づく値である可能性もあります。固有ページ識別子の値は、ページ ID パラメーターの値と同じでかまいませんが、それでも Digital Data Exchange が固有ページ識別子に使用するデータ・オブジェクトを明示的に指定する必要があります。ページ ID に定義される HTML オブジェクトが既にある場合は、その同じオブジェクトを固有ページ識別子のメソッドとして使用することができます。

Multisite クライアントの場合、固有ページ識別子を Multisite グローバル ID から継承することができます。

固有ページ識別子の形式を定義するには、以下の手順に従ってください。

1. 「管理」 > 「グローバル設定」をクリックします。
2. システムのすべての固有ページ識別子に使用するオブジェクト・タイプを指定します。
3. 選択したオブジェクト・タイプに必要なプロパティを定義します。例えば、固有ページ識別子の形式として URL を選択した場合には、追加プロパティは不要ですが、JavaScript を選択した場合は、固有ページ識別子に使用するオブジェクト名を指定する必要があります。
4. 「保存」をクリックして、変更を保存します。

## 例

以下に、「Page Identifier equals product」というページ・グループ・ルールを 1 つ持つページ・グループに固有ページ識別子を定義する場合に使用できる例を示します。

- **JavaScript オブジェクト** - このメソッドを使用して、ページ・グループ・ルールは「グローバル設定」で指定された JavaScript オブジェクトを探します。例えば、「digitalData.pageInstanceID」と入力する場合は、Web サイト上のすべてのページに以下のような JavaScript オブジェクトが存在していることを確認しておく必要があります。ここで、dd-standardpages は固有ページ識別子の値です。

```
var digitalData = {pageInstanceID:"dd-standardpages"};
```

- **URL** - このメソッドを使用して、ページ・グループ・ルールは (URL パラメーターだけでなく) URL 全体と照らし合わせて評価し、それぞれのルール条件に一致した値を検出します。例えば、プロダクト・ページの URL が「http://www.mysite.com/shop/product/dinnerware-4-piece-setting?ID=1234&CategoryID=5678」である場合、ページ・グループ・ルールはページ・グループ・ルール「Page Identifier equals product」に基づいて一致 (その URL に語「product」が含まれている) を見つけます。URL に対してページ・グループ・ルールの「ends with」を使用した場合は、サイトがパラメーターを URL の末尾に付加する可能性があるため、必ずしも機能しない場合があります。
- **HTML** - このメソッドを使用すると、評価の基準となるページ・グループ・ルールに HTML オブジェクトまたは HTML オブジェクトの属性のいずれかを指定できます。

- HTML オブジェクトのみ - ページ・グループ・ルールは、指定した ID を含む HTML オブジェクトを検出し、内側の HTML を見て固有ページ識別子を取得します。例:

```
<p><div id="uniqueIdentifier">product</div></p>
```

- HTML オブジェクトおよび属性 - ページ・グループ・ルールは、指定した ID を持つ HTML オブジェクトを検出し、指定した属性名を探して固有ページ識別子を取得します。例:

```
<p><div id="uniqueId" uniquepageidentifier="product"></div></p>
```

## ベンダー・マッピング

Digital Data Exchange には、ベンダー情報を使用して、ページ・グループ内のタグが実行されるかどうかを指定できる機能があります。ベンダー・マッピングの処理をするには、実行者のユーザー・アカウントに「管理」権限が割り当てられている必要があります。

これは、Digital Data Exchange の中でベンダーを作成し、ベンダーに関連付けたい任意のコードをそのベンダーにマップすることで行います。その後、ベンダーをページ・グループ・タグ・ルールの中で使用して、タグを実行するかどうかを指定できます。

Digital Data Exchange でベンダー・マッピング・フィーチャーを使用するには、アカウントが IBM Digital Analytics 用にプロビジョンされている必要があります。

### 例: タグ・ルール内でのマップされたベンダーの使用

この例では、課金検索という名前のベンダーが作成済みで、このベンダーには、さまざまな課金検索ベンダーのベンダー・コードがマップされています。

課金検索に関連付けられたいずれかのベンダー・コードからクリックが参照された場合に限り、ページ・グループのタグが実行されるようにするには、次のステップを実行します。

1. 編集するページ・グループを選択し、「タグ・ルール」タブをクリックします。
2. 「条件」フィールドに、「リファラー・ソース」を選択します。
3. 条件のフィールドで、「ベンダー」、演算子、マッチングする「ベンダー」の値、および条件を確認する日数を選択します。
4. この条件を適用するタグを1つ以上選択し、「ルールを作成」をクリックします。保存されたルールが、「タグ・ルールのサマリー」に表示されます。
5. 「保存」をクリックして、これらの変更をページ・グループに保存します。ベンダー・ベースの新しいタグ・ルールが、ページ・グループの中の選択されたタグに適用されます。

### ベンダー・マッピングの作成

ベンダーを作成し、それをベンダー・コードにマップするには、以下の手順に従ってください。その後、ベンダーをタグ・ルールの中で使用して、タグを実行するかどうかを指定できます。ベンダーは、それぞれのクライアント ID に固有です。1つのクライアント ID 内で作成したベンダーは、別のクライアント ID では使用できません。この作業を実行するには、実行者のユーザー・アカウントに「管理」権限が割り当てられている必要があります。

### 手順

1. 「管理」> 「ベンダー・マッピング」をクリックします。
2. 「ベンダーの作成」をクリックします。
3. ベンダーの名前を入力し、「保存」をクリックしてこの新規ベンダー名を保存します。
4. 新しいベンダー名にマップするベンダー・コードを収集します。ベンダー・コードは次の2つの方法で検索できます。
  - 日付フィールドまたはカレンダー・ツールを使用し、日付または日付期間を選択して既存のベンダー・コードを検索します。指定した期間内に、IBM Digital Analytics の MMC パラメーターに返されたベンダー・コードは、「使用可能なコード」リストに表示されます。  
検索フィールドにテキスト文字列を入力することによって、返されたベンダー・コードのリストをさらに削減できます。
  - コードを入力し、「コードを追加」をクリックして、コードを直接「選択済みコード」リストに追加します。
5. 「ベンダー名」リストで正しいベンダーが選択されていることを確認し、このベンダー名に関連付けるすべてのベンダー・コードを「選択済みコード」リストに移動します。
6. ベンダー名にマップするベンダー・コードの選択が完了したら、「保存」をクリックします。選択されたベンダー・コードはベンダー名に関連付けられ、ベンダー条件に基づいてタグ・ルールを作成するときに参照できます。

## ベンダー・マッピングの編集

既存のベンダーおよびそのマッピングを編集するには、するには、以下の手順に従ってください。この作業を実行するには、実行者のユーザー・アカウントに「管理」権限が割り当てられている必要があります。

### 手順

1. 「管理」 > 「ベンダー・マッピング」をクリックします。
2. 「ベンダー名」リストから、編集するベンダーを選択します。
3. このベンダーのマッピングに、必要な変更を行います。
4. 「保存」をクリックします。

## ベンダー・マッピングの削除

既存のベンダーおよびそのマッピングを削除するには、するには、以下の手順に従ってください。この作業を実行するには、実行者のユーザー・アカウントに「管理」権限が割り当てられている必要があります。

### 手順

1. 「管理」 > 「ベンダー・マッピング」をクリックします。
2. 「ベンダー名」リストから、削除するベンダーを選択します。
3. 「現在のベンダーを削除」をクリックします。  
削除のために選択したベンダーがページ・グループ・タグ・ルールのもので参照されている場合、影響を受けるページ・グループのリストが表示されます。
4. 「はい」をクリックして、ベンダーの削除を確認します。  
影響を受けるページ・グループの中にある、削除されたベンダーを参照するすべてのタグ・ルールが削除されます。

## 使用

Digital Data Exchange を使用し始める際は、コード・スニペット、ページ・グループ、セグメント、タグ、ベンダー、ベンダー・マッピング、ユーティリティ、およびテスト・ページについてよく理解している必要があります。

### ログイン

以下のいずれかの方法で、IBM Digital Data Exchange にアクセスしてください。

- <http://tagmanager.coremetrics.com> に直接ナビゲートします。Digital Data Exchange には、Digital Analytics のテスト・クライアント ID を使用してログインしないでください。この ID には、6 または 8 で始まるクライアント ID が含まれます。
- 他の IBM Digital Analytics アプリケーションへのアクセス権限がある場合は、ヘッダー・ナビゲーション・メニューで「**Digital Data Exchange**」をクリックします。アプリケーションが起動し、認証が自動的に行われます。

### Digital Data Exchange へのログイン

Digital Data Exchange にログインするには、以下の手順に従ってください。

#### このタスクについて

Digital Data Exchange にログインできるようにするには、その前に「クライアント ID」、「ユーザー・アカウント」、および「パスワード」を割り当ててもらする必要があります。Multisite クライアント ID を入力すると、Digital Data Exchange が Multisite ID 用に構成されていなかった場合には、エラー・メッセージが表示されます。

### 手順

1. Digital Data Exchange の URL (<http://tagmanager.coremetrics.com>) にナビゲートします。
2. 「クライアント ID」を入力します。
3. 「ユーザー名」を入力します。
4. 「パスワード」を入力します。

5. ご使用のログイン情報をブラウザに保存しない場合には、「クライアント ID とユーザー名を保存する」の選択を解除します。
6. Digital Data Exchange を表示する際の言語を選択します。
7. 「ログイン」をクリックします。  
Digital Data Exchange のウェルカム・ページが表示されます。

### Multisite クライアント ID の切り替え

Multisite クライアント ID を切り替えるには、以下の手順に従ってください。

#### 始める前に

Digital Data Exchange に既にログインしている必要があります。

#### 手順

1. Digital Data Exchange のウェルカム・ページの上部で、自分のサイトのドロップダウンを選択します。
2. これからアクセスするサイトを選択します。  
新しいウェルカム・ページが表示されます。
3. このサイト用の「クライアント ID」を調べる必要がある場合には、マウス・カーソルをサイト名の上  
に移動します。  
「クライアント ID」が表示されます。

#### コード・スニペット

Digital Data Exchange では、「拡張」権限があれば、JavaScript またはその他のコードのブロックをコード・スニペットの形で作成、編集、および削除することができます。

コード・スニペットを作成し、それを固有の名前で保存します。そうすると、ページ・グループに関連付けられたページの中で 1 つ以上のコード・スニペットを挿入して、それをページ・グループの中で参照できます。

#### コード・スニペットのベスト・プラクティス

高速デプロイメントのために、コード・スニペットのベスト・プラクティスを採用することができます。以下の注意およびベスト・プラクティスに留意してください。

コード・スニペットでは生の HTML はサポートされていません。ただし、コード・スニペットで JavaScript を使用して iframes やフォームなどの HTML 文書オブジェクトを作成することは可能です。

#### コード・スニペットでの document.write の使用

デフォルト・タグ (Web ページの body セクションに挿入されるタグ) は非同期に実行されるため、デフォルト・タグで使用されるコード・スニペットの中では document.write は使用できません。いつ write アクションが実行されるかを予測することは不可能です。例えば、body レンダリングの終了後で、DOM のロード後にコード・スニペットが実行されると、ページ・コンテンツは全面的に書き込みされます。

ヘッド・タグ (Web ページの head セクションに挿入されるタグ) で使用されるコード・スニペットの中では document.write を使用できます。書き込まれるコンテンツは、常に、body セクションの最初に挿入されます。

#### コード・スニペットの中の、ローカルおよびグローバルの変数および関数

1 つのコード・スニペットの中でキーワード var によって宣言される変数はすべて、そのコード・スニペットに対してローカルです。

1 つのコード・スニペットの中で明示的に宣言されたすべての関数は、そのコード・スニペットによってのみ参照可能です。グローバルに作成された関数のみがすべてのコード・スニペットにわたってアクセス可能です。

グローバルにアクセス可能な関数を作成するには、次のコードをコード・スニペットで使用できます。

```
if (typeof(window["myFunction"]) !== "function")  
{
```

```
    window["myFunction"] = function(param1, param2, ..., paramN)
    {
        alert("This is a global function");
    }
}
```

コード・スニペットは複数のページ・グループで使用でき、しかも、これらのページ・グループの実行順序によって、コード・スニペットが、他のコード・スニペットで宣言されたグローバル関数とグローバル変数にアクセスできるかどうかが決定的に留意してください。ページ・グループで使用するための新しいコード・スニペットを作成する前に、必要とするすべての関数または変数がグローバルに存在していることを確認し、コード・スニペットが、ページ・グループの実行順序に基づいて適切に作成および初期化されることを確認してください。

### コード・スニペットの作成

コード・スニペットを作成するには、以下の手順に従ってください。コード・スニペットでは生の HTML はサポートされていません。ただし、コード・スニペットで JavaScript を使用して iframes やフォームなどの HTML 文書オブジェクトを作成することは可能です。

#### 手順

1. 「資産」 > 「コード・スニペット」 をクリックします。
2. 「新規コード・スニペットを作成」 をクリックします。  
「コード・スニペットを作成」 ウィンドウが表示されます。
3. コード・スニペットの固有の名前を入力します。
4. 「スニペット・コード」 テキスト域にコードを入力します。
5. 自分またはこのコード・スニペットを利用する他のユーザーにとって役立つ可能性のあるコード・スニペットの説明を入力します。
6. 「保存」 をクリックします。  
新しいコード・スニペットがコード・スニペットのリストに表示されます。

### コード・スニペットの編集

コード・スニペットを編集するには、以下の手順に従ってください。

#### 手順

1. 「資産」 > 「コード・スニペット」 をクリックします。
2. 編集するコード・スニペットを見つけます。
3. その下線が付いた名前または行内のどこかをクリックします。  
「コード・スニペットを編集」 ウィンドウが表示されます。
4. 必要に応じて、情報を更新します。
5. 「保存」 をクリックします。

### コード・スニペットの削除

選択したコード・スニペットを削除するには、以下の手順に従ってください。現在、テスト環境またはプロダクション環境にデプロイされているコード・スニペットを削除するには、まずそのコード・スニペットをデプロイメントから削除する必要があります。

#### 手順

1. 「資産」 > 「コード・スニペット」 をクリックします。  
コード・スニペットのリストが表示されます。
2. 削除するコード・スニペットを選択します。
3. 「選択したコード・スニペットを削除」 をクリックします。
4. 「はい」 をクリックして、選択したコード・スニペットの削除を確認します。  
削除用に選択したコード・スニペットが現在テスト環境またはプロダクション環境にデプロイされている場合は、警告が表示されます。

## コード・スニペット内のテキスト文字列の検索

コード・スニペットの中でテキスト文字列を検索するには、以下の手順に従ってください。この検索には、「説明」および「スニペット・コード」の中のテキストが含まれます。

### 手順

1. 「資産」 > 「コード・スニペット」をクリックします。
2. コード・スニペットの「名前」をクリックします。  
「コード・スニペットを編集」ウィンドウが表示されます。
3. 「検索」ボックスに、検索の対象となるテキスト文字列を入力します。  
テキストが太字および下線付きで強調表示されます。

## デプロイメント履歴

Digital Data Exchange では、デプロイメント履歴を使用して、デプロイメント・バージョンの表示と比較、コード・スニペットの編集、ページ・グループの編集、タグの編集、およびコード・スニペットの検索を行うことができます。

## デプロイメント履歴からのコード・スニペットの比較

デプロイメント履歴からコード・スニペットを比較するには、以下の手順に従ってください。

### 手順

1. 「デプロイメント」 > 「履歴」をクリックします。  
ご使用のプロダクション環境に以前デプロイされたバージョンが表示されます。
2. 表示したいデプロイメント履歴で、「操作」列の「デプロイメントの詳細」アイコンをクリックします。  
「プロダクションへのデプロイメントの詳細」ウィンドウが表示されます。
3. デプロイメントの詳細を表示します。
4. 「コード・スニペット」セクションまでスクロールダウンします。
5. 「**現行のスニペットと比較 (Compare to Current Snippet)**」をクリックします。  
コード・スニペットが表示されます。ここから以下の操作を実行できます。
  - 検索ボックスを使用した検索。検索されたテキストが、両方のコード・スニペットにおいて太字および下線付きで表示されます。
  - コード・スニペットの編集。

## デプロイメント履歴からのコード・スニペットの編集

デプロイメント履歴の検討中に、コード・スニペットを容易に編集できます。

### 手順

1. 「デプロイメント」 > 「履歴」をクリックします。  
ご使用のプロダクション環境に以前デプロイされたバージョンが表示されます。
2. 表示したいデプロイメント履歴で、「操作」列の「デプロイメントの詳細」アイコンをクリックします。  
「プロダクションへのデプロイメントの詳細」が表示されます。
3. デプロイメントの詳細を表示します。
4. 「コード・スニペット」セクションまでスクロールダウンします。
5. 「**現行のスニペットと比較 (Compare to Current Snippet)**」をクリックします。  
現行のコード・スニペットが左側に表示され、デプロイ済みのコード・スニペットが右側に表示されます。
6. 「**現行スニペットを編集**」をクリックします。  
コード・スニペットが表示されます。
7. コード・スニペットに変更を加えます。
8. 「完了」をクリックします。

## デプロイメント履歴でのページ・グループの編集

デプロイメント履歴のレビュー時に、簡単にページ・グループを編集できます。

### 手順

1. 「**デプロイメント**」 > 「**履歴**」をクリックします。  
ご使用のプロダクション環境に以前デプロイされたバージョンが表示されます。
2. 表示したいデプロイメント履歴で、「**操作**」列の「**デプロイメントの詳細**」アイコンをクリックします。  
「**プロダクションへのデプロイメントの詳細**」ウィンドウが表示されます。
3. 「**ページ・グループ**」をクリックします。  
「**現行ページ・グループ設定と比較**」ウィンドウが表示されます。
4. 「**現行ページ・グループの編集 (Edit Current Page Group)**」をクリックします。
5. 任意のフィールドを更新します。
6. 「**保存**」をクリックします。

## デプロイメント履歴でのタグの編集

デプロイメント履歴のレビュー時に、簡単にタグを編集できます。

### 手順

1. 「**デプロイメント**」 > 「**履歴**」をクリックします。  
ご使用のプロダクション環境に以前デプロイされたバージョンが表示されます。
2. 表示したいデプロイメント履歴で、「**操作**」列の「**デプロイメントの詳細**」アイコン  をクリックします。  
「**プロダクションへのデプロイメントの詳細**」ウィンドウが表示されます。
3. 「**カスタム・タグ**」をクリックして、タグを編集します。  
「**現行タグ設定と比較**」が表示されます。
4. 「**現行タグの編集 (Edit Current Tag)**」をクリックします。
5. 任意のフィールドを更新します。
6. 「**保存**」をクリックします。

## デプロイメント履歴の検索

デプロイメント履歴を検索するには、以下の手順に従ってください。デプロイメント履歴内のテキスト文字列を検索できます。

### 手順

1. 「**デプロイメント**」 > 「**履歴**」をクリックします。  
ご使用のプロダクション環境に以前デプロイされたバージョンが表示されます。バージョンごとに、種類、名前、デプロイメントの日付、およびデプロイメントを実行したユーザーのユーザー名が表示されます。
2. 検索するデプロイメント履歴で、「**操作**」列内の「**デプロイメントの詳細**」アイコン  をクリックして、デプロイメントの詳細を表示します。
3. 検索ボックスに検索文字列を入力します。  
検索文字列と一致するすべてのオカレンスが黄色で強調表示されます。

## デプロイメント履歴からのコード・スニペットの検索

デプロイメント履歴の検討中に、コード・スニペットの中でテキスト文字列を容易に検索できます。

### 手順

1. 「**デプロイメント**」 > 「**履歴**」をクリックします。  
ご使用のプロダクション環境に以前デプロイされたバージョンが表示されます。
2. 表示したいデプロイメント履歴で、「**操作**」列の「**デプロイメントの詳細**」アイコンをクリックします。  
「**プロダクションへのデプロイメントの詳細**」ウィンドウが表示されます。

3. デプロイメントの詳細を表示します。
4. 「コード・スニペット」セクションまでスクロールダウンします。  
「スニペットを表示」と「現行設定と比較」という2つのリンクが表示されます。
5. 「スニペットを表示」をクリックします。  
コード・スニペットが表示されます。
6. 「検索」ボックスに、検索の対象となるテキスト文字列を入力します。  
テキストが太字および下線付きで強調表示されます。

### デプロイメント履歴の表示

デプロイメント履歴を表示するには、以下の手順に従ってください。デプロイメント履歴は、プロダクション環境の現在と過去のデプロイメント・バージョンを示します。各デプロイメント・バージョンの詳細や、ロールバックや比較などのバージョン間の実行アクションを確認できます。

### 手順

1. 「デプロイメント」>「履歴」をクリックします。  
ご使用のプロダクション環境に以前デプロイされたバージョンが表示されます。バージョンごとに、種類、名前、デプロイメントの日付、およびデプロイメントを実行したユーザーのユーザー名が表示されます。
2. リストされたそれぞれのデプロイメントのバージョンについて、デプロイメントの詳細を表示するには、「操作」列で「**デプロイメントの詳細 (Deployment Details)**」アイコン  をクリックします。  
「プロダクションへのデプロイメントの詳細」ウィンドウに、そのバージョンでデプロイされたすべてのページ・グループが、関連付けられたタグ、タグ・ルール、置換、JavaScript ロケーション、コード・スニペット、その他の詳細の一覧と一緒にリストされます。デプロイメントの詳細ページの下部に、グローバル設定およびベンダー設定が要約されます。
3. 「プロダクションへのデプロイメントの詳細」ウィンドウの中で、下線が付いた青色のラベルをどれかクリックして、デプロイ済みアイテムの現在の構成と比較します。

### ページ・グループ

Digital Data Exchange では、ページに適用するタグに基づいて、Web ページのグループを作成できます。このようにすると、個々のページではなく、ページ・グループ内のすべてのページに同時に作用することができます。例えば、特定のタグに関連付けられているページはすべて、タグ付けされたページに属しているページ・グループをデプロイすることにより、デプロイできます。

選択した固有ページ識別子に基づいてロジック・ルールを設定することによってページ・グループを定義し、作成したページ・グループにそれぞれ名前を付けて、コメントを追加することができます。

Digital Data Exchange では、ページ・グループにタグを追加すると、Web サイトのすべてのページにそのタグが含まれることになる、2つのグローバル・ページ・グループが存在します。これらのグローバル・ページ・グループには、ページ・グループ・ルールがなく、常にすべてのデプロイメントに含まれ、他のどのページ・グループよりも前にデプロイされます。しかし、タグ、コード・スニペット、または JavaScript の場所の追加によってグローバル・ページ・グループを構成しない限り、Web サイトには影響を与えません。グローバル・ページ・グループは、デプロイメントのための「**選択したページ・グループ**」リストに表示されます。リストからグローバル・ページ・グループを削除することも、リストの中の位置を変更することもできません。

「グローバル・ヘッド・グループ」は、ページの <Head> セクションに置かれるタグに使用し、ページのほかの場所に置かれるタグには、「グローバル・デフォルト・グループ」を使用します。

通常のページ・グループの場合、他のどのスクリプトよりも前に `eluminate.js` を呼び出す必要があります。ただし、グローバル・ヘッド・グループでタグをデプロイする場合は、`eluminate.js` が呼び出される前に、`digitalData` オブジェクト、`WebAnalytics` オブジェクト、または `webanalytics` オブジェクトを宣言する必要があります。

### ページ・グループ・リスト

「ページ・グループ・リスト」では、すべてのページ・グループを表示し、ページ・グループを作成、編集、または削除します。

「ページ・グループ・リスト」では、以下のアクションを実行できます。

- ページ・グループ・リストのフィルタリング
- 新規ページ・グループの作成
- ページ・グループの編集
- ページ・グループの削除

列内の値によってリストをフィルタリングしたり検索したりできます。また、列見出しをクリックすると、リストをソートできます。

サイド・ナビゲーション枠で、「資産」>「ページ・グループ」をクリックします。

### ページ・グループごとのタグ・ルール

ページ・グループごとに、タグが実行されるタイミングを制御する1つ以上のタグ・ルールを作成できます。タグ・ルールの条件には、アクティベーション日、リファラー・ソース、セグメント、または Web ページから抽出したカスタム値を組み込むことができます。

#### アクティベーション日に基づくタグ・ルール

アクティベーション日またはアクティベーション解除日、あるいはその両方に基づいてタグ・ルールを作成し、アクティベーション日の後のみタグが実行される、アクティベーション解除日の後にタグの実行が停止される、あるいは、アクティベーション日とアクティベーション解除日の間にのみタグが実行されるようにすることができます。

#### リファラー・ソースに基づくタグ・ルール

タグ・ルールは、リファラー・ソース (さまざまなベンダー・コードにマップされる特定ベンダーなど) に基づいて作成できます。また、特定のベンダーが過去 10 日以内にリファラー・ソースになっている場合に限り特定タグを実行するように指定することもできます。

#### セグメントに基づくタグ・ルール

セグメント・ベースのタグ・ルールでは、Digital Data Exchange でオーディエンス・セグメントを定義し、これらのセグメンテーション・ベースの条件が満たされる場合に限りタグが実行されるよう指定します。

#### カスタム値に基づくタグ・ルール

Web ページから抽出されたカスタム値に基づくタグ・ルールは、非常に高い柔軟性を提供します。タグ値は、Cookie、HTML、JavaScript オブジェクト、ローカル・ストレージまたはセッション・ストレージ、URL、およびその他のメソッドに基づく可能性があります。例えば、ページ上の JavaScript 変数 (例えば年齢など) の値を評価するタグ・ルールを作成できます。必要な年齢制限の条件 (年齢が 18 歳以上であるなど) が満たされた場合に限り、タグを実行することができます。

さらに例を挙げると、ショッピング・サイトのページでページ変数を作成し、現在ショッピング・カートに入っている合計購入金額をトラッキングすることができます。この合計購入金額の変数の値が条件に合致すると、イベント・タグが実行され、顧客に送料無料の資格があることを示すことができます。

または、特定の値あるいはキー名が存在しない場合にのみタグが実行されるようにするタグ・ルールを作成できます。この作成には、例えば、「次と等しくない」や「次を含まない」などの演算子、あるいは「True である」や「False である」といったブール演算子を使用します。

### 例

次の例は、カスタム HTML 値を使用して作成するタグ・ルールを示しています。

ページ・グループの Web ページの HTML コードで以下の値が検出された場合にのみ、タグを実行したいと考えています。

```
<div class="ibm-container" id="ibm-promotion-module">
```

当該のページ・グループを編集用を開き、「タグ・ルール」タブで、タグ・ルール条件として「カスタム値」を選択します。

次に、タグ・ルールのメソッドとして「HTML」を選択し、各フィールドに入力していきます。まず、「エレメント」フィールドに div を入力し、「属性」フィールドに class を入力し、さらに演算子の後の値として ibm-container を入力します。

タグ・ルール条件の指定が完了したら、ルールを適用する1つまたは複数のタグを選択し、「**ルールを作成**」をクリックします。

### ページ・グループの作成

ページ・グループを作成するには、以下の手順に従ってください。タグのセットまたはサブセットが共通している一連の Web サイト・ページを特定してから、複数のページでタグのテストおよびデプロイを容易に行えるようにページ・グループを作成することができます。

#### 手順

1. 「**資産**」 > 「**ページ・グループ**」 をクリックします。
2. 「**新規ページ・グループの作成**」 をクリックします。
3. 「**名前およびコンテナ**」 タブを選択します。
4. ページ・グループの固有名およびカテゴリーを指定します。ページ・グループのタグが ページの Head セクションで実行される必要がある場合は、「**ページ・グループ・コンテナ**」に「**ヘッド**」を選択します。そうでない場合は、「**デフォルト**」を選択します。
5. オプションで、自分またはそのページ・グループを利用する他のユーザーにとって役立つ可能性のあるコメントを追加します。
6. 「**ページ・ルール**」 タブを選択します。  
「**新規ページ・グループの作成**」 ウィンドウが表示されます。
7. 「**ページ・グループ・ルールの追加**」 をクリックして、ページ・グループに属することになるページを決定する条件を指定します。
8. 「**コンテナ・タグ**」 タブを選択します。
9. 現在のページ・グループに関連付けるタグを選択します。ページ・グループに対して 選択したコンテナに応じて、適切なタグ（「**ヘッド**」または「**デフォルト**」）を持つベンダーだけを選択できるようになっています。
  - a) 「**ベンダー**」 を選択します。  
「**使用可能なベンダー・タグ**」 リストが、選択したベンダーから使用可能なタグのリストで更新されます。
  - b) 「**使用可能なベンダー・タグ**」 リストから 1つ以上のタグを選択し、これらのタグを「**選択したベンダー・タグ**」 リストに移動します。
  - c) 現在のページ・グループに適用するタグを持つベンダーごとに、上記のステップを繰り返します。
10. そのページ・グループに属するページが必要に応じてサイト訪問者によってロードされた時に常に呼び出す JavaScript ファイルのパスまたは URL を指定するには、「**ベンダーの JavaScript ロケーションを追加**」 リンクをクリックします。  
この機能を使用できるのは、拡張機能権限がある場合のみです。  
**注:** IBM は、サード・パーティーの JavaScript を認証しないため、サード・パーティーの JavaScript を使用して Digital Data Exchange によって呼び出されたときにベンダー・コードが正しく実行されるかどうかは保証できません。サード・パーティー JavaScript はすべて、プロダクション環境にデプロイする前にテストします。
11. 「**タグ・ルール**」 タブを選択します。
12. オプションで、このページ・グループに関連付けられているタグを実行するかどうかを決定する追加の条件を定義します。
13. 「**コード・スニペット**」 タブを選択します。
14. ページ・グループに実行するコード・スニペットを選択します。
15. 「**保存**」 をクリックします。  
新規ページ・グループが「**ページ・グループ・リスト**」に表示されます。

## ページ・グループの削除

選択したページ・グループをページ・グループ・リストから削除するには、以下の手順に従ってください。テスト環境またはプロダクション環境にデプロイされているページ・グループを削除するには、まずそれらをデプロイメントから削除する必要があります。

### 手順

1. 「資産」 > 「ページ・グループ」 をクリックします。
2. 削除するページ・グループの名前をクリックします。
3. 「選択したページ・グループの削除」 をクリックします。
4. 「はい」 をクリックして、選択したページ・グループの削除を確認します。

削除用に選択したページ・グループが現在テスト環境またはプロダクション環境でデプロイされている場合は、エラー・メッセージが表示されます。デプロイ済みのグループは、デプロイメントから除去されるまでは削除できません。

## ページ・グループ・ルールの定義

ページ・グループ・ルールを定義するには、以下の手順に従ってください。ページ・グループ・ルールは、サイト上のページを定義中のページ・グループに含めるために満たす必要のある条件を定義します。

### このタスクについて

ページ・グループ・ルール式では、正規表現演算子を除いて、大/小文字は区別されません。「拡張機能」権限がある場合は、ページ・グループ・ルールで正規表現を使用できます。演算子ドロップダウン・リストから「正規表現に一致する」を選択し、テキスト・ボックスに正規表現を入力します。例えば、文字列「productdetailpage」（すべて小文字）で始まるすべてのページ識別子と一致させるには、「/^productdetailpage/i」と入力します。

### 手順

1. 「新規ページ・グループの作成」 ページ、または (既存のページ・グループの場合は) 「ページ・グループの編集」 ページで、「ページ・ルール」 タブをクリックします。
2. 「ページ・グループ・ルールの追加」 をクリックするか、(既存のページ・グループの場合は) 「条件を追加」 リンクの1つをクリックします。
3. **If/If not** ドロップダウン・リストおよび演算子ドロップダウン・リストを使用し、演算子が作用するテキスト値を入力して、ページ・グループ・ルールを作成します。
  - a) 「OR」 を使用して条件を追加するには、「**OR** を使用して条件を追加」 リンクをクリックし、表示されたフィールドを使用して条件を指定します。
  - b) 「AND」 を使用して条件を追加するには、「**AND** を使用して条件を追加」 リンクをクリックし、表示されたフィールドを使用して条件を指定します。
  - c) 条件を削除するには、条件の横にある削除アイコン  をクリックします。ルール全体を削除するには、ルールの右上隅にある削除アイコンをクリックします。

### 例: ページ・グループの作成

Web サイト上の、ページ識別子に文字列 `cart` が入っているすべてのページを含み、ただしページ識別子に文字列 `checkout` が入っているページを含まないページ・グループを作成するには、以下のページ・グループ・ルールを追加します。

1. 「If/If Not」 ドロップダウン・リストから「If」を選択します。
2. 最初のオペランドで「部分一致」を選択します。
3. 「部分一致」に続くフィールドに「`cart`」と入力します。
4. 「AND を使用して条件を追加」 をクリックして 2 番目の条件を追加します。
5. 「And/And not」 ドロップダウン・リストから「And not」を選択します。
6. このオペランドで「部分一致」を選択します。

7. 「部分一致」に続くフィールドに「checkout」と入力します。

## ページ・グループの編集

ページ・グループを編集するには、以下の手順に従ってください。

### 手順

1. 「資産」 > 「ページ・グループ」をクリックします。
2. 編集するページ・グループの名前をクリックします。  
「ページ・グループの編集」ウィンドウが表示されます。
3. 変更を行います。
4. 「保存」をクリックします。

## ページ・グループ・リストのフィルタリング

ページ・グループ・リストをフィルタリングするには、以下の手順に従ってください。「ページ・グループ・リスト」のコンテンツをフィルタリングして、表示されるページ・グループの数を減らすことができます。「デプロイメント」列を除く任意の列のテキストと一致するフィルター条件を入力できます。

### 手順

1. 「ページ・グループ・リスト」ツールバーで、ドロップダウン・リストからフィルタリングする列を選択し、「フィルター対象」フィールドにテキストを入力します。  
「ページ・グループ・リスト」が最新表示され、フィルター条件と一致するページ・グループのみが表示されます。
2. フィルターをクリアするには、「フィルター対象」ボックスからテキストを削除します。

## ページ・グループのデプロイメント

ページ・グループは、テスト環境にもプロダクション環境にもデプロイできます。ページ・グループをプロダクション環境にデプロイする前に、まずテスト環境にデプロイしてテストする必要があります。

「デプロイメント」 > 「デプロイメント」ページからデプロイメントを実行することができます。

Digital Data Exchange でのデプロイメントについて、以下の点を理解しておくことが重要です。

- 実行するそれぞれのデプロイメントはデプロイメントの1つのバージョンであり、ご使用の環境は全体として各デプロイメント・バージョンを反映します。「デプロイメント」 > 「デプロイメント」ページの「選択したページ・グループ」リストは、選択された環境の現在の状態を反映します。テスト環境かプロダクション環境かに関係なく、環境に対してデプロイメントを実行する際、「選択したページ・グループ」にリストされたページ・グループにはデプロイメントの新バージョン全体が含まれます。「選択したページ・グループ」から除去したページ・グループはすべて、新規デプロイメントを実行する際にアンデプロイされます。
- グローバル・ページ・グループ（「グローバル・ヘッド・グループ」と「グローバル・デフォルト・グループ」）は、すべてのデプロイメントに常に組み込まれ、常に他のページ・グループよりも前にデプロイされます。「選択したページ・グループ」リストからグローバル・ページ・グループを除去したり、リストの中でその位置を変更することはできません。
- デプロイ済みページ・グループを削除するには、まずそのページ・グループをデプロイメントから除去する必要があります。

## デプロイメント状況

Digital Data Exchange のタグまたはページ・グループのデプロイメント状況を把握するには、さまざまな方法があります。

### 環境によるページ・グループのデプロイメント状況の表示

1. 「デプロイメント」 > 「デプロイメント」をクリックします。
2. 「デプロイ先」フィールドから、表示する環境を選択します。

「選択したページ・グループ」リストには、選択された環境に現在デプロイされているすべてのページ・グループが表示されます。

### ページ・グループのデプロイメント状況の表示

「資産」>「ページ・グループ」リストの「デプロイメント」列に、個々のページ・グループの現在のデプロイメント状況が表示されます。

1. 「資産」>「ページ・グループ」をクリックします。「デプロイメント」列のアイコンは、各ページ・グループのデプロイメント状況を示します。
2. デプロイメント状況アイコンの上にカーソルを移動すると、ページ・グループを最後にデプロイしたユーザーと前回のデプロイメントの日時が表示されます。このページ・グループが選択された環境にこれまで一度もデプロイされたことがなければ、「最終デプロイ」の詳細は空白です。

### タグのデプロイメント状況の表示

システム作成のデフォルトのタグ・ビューを使用すると、デプロイメント状況別にグループ化されたタグのリストを簡単に表示できます。

1. 「タグ」>「デフォルト・ビュー」をクリックします。
2. デフォルト・ビューの1つを選択します。
  - **デプロイ可能タグ:** このビューには、どの環境にもデプロイされていないタグが含まれます。
  - **テストにデプロイ済み:** このビューには、現在テスト環境にデプロイされている、ページ・グループ内のタグが含まれます。
  - **プロダクションにデプロイ済み:** このビューには、現在プロダクション環境にデプロイされている、ページ・グループ内のタグが含まれます。

「デプロイメント」列のアイコンは、各タグのデプロイメント状況を示します。「ページ・グループ」は、そのタグを参照するページ・グループの数を示します。

3. デプロイメント状況アイコンの上にカーソルを移動すると、このタグを含むページ・グループを最後にデプロイしたユーザーと前回のデプロイメントの日時が表示されます。このページ・グループが選択された環境にこれまで一度もデプロイされたことがなければ、「最終デプロイ」の詳細は空白です。

### デプロイメント・アイコンとその意味

次の表に、デプロイメント・アイコンとその意味を示します。

デプロイメント・アイコン	説明
	ページ・グループは、現在、テスト環境にデプロイされていないか、テスト環境に最後にデプロイされて以降の編集を含んでいます。ページ・グループによって参照されるオブジェクトに対する変更(例えば、コード・スニペット内のコードの編集、またはタグ構成の編集)は、デプロイメント状況に影響を及ぼしません。
	ページ・グループは、テスト環境にデプロイされています。
	ページ・グループは、現在、プロダクション環境にデプロイされていないか、プロダクション環境に最後にデプロイされて以降の編集を含んでいます。ページ・グループによって参照されるオブジェクトに対する変更(例えば、コード・スニペット内のコードの編集、またはタグ構成の編集)は、デプロイメント状況に影響を及ぼしません。
	ページ・グループは、プロダクション環境にデプロイされています。

## デプロイメント・バージョンの比較

2つのプロダクション・デプロイメント・バージョンを横並びにして比較するには、以下の手順に従ってください。

### 手順

1. 「**デプロイメント**」 > 「**履歴**」をクリックします。  
以前にデプロイしたバージョンのリストが、現行バージョンを先頭にして表示されます。
2. 「**バージョンの比較**」をクリックします。
3. 比較ビューの各側のドロップダウン・リストからバージョンを選択します。
4. 「**比較**」をクリックします。  
選択したそれぞれのデプロイメント・バージョンのデプロイメントの詳細が横並びに表示されます。「プロダクションへのデプロイメントの詳細」の中で、下線が付いた青色のラベルをどれかクリックして、そのアイテムの現在の設定と比較します。

## ページ・グループのデプロイ

ページ・グループをテスト環境またはプロダクション環境にデプロイするには、以下の手順に従います。

### このタスクについて

ページ・グループは、プロダクション環境にデプロイする前に、テスト環境にデプロイしてテストします。プロダクション環境にデプロイしている場合は、次の情報を把握しておく必要があります。

- **デプロイメント名** - デプロイメントの名前。デプロイメント名は「**デプロイメント**」 > 「**履歴**」に表示されるもので、環境の状況およびデプロイメントまたはロールバックの理由を判別する際に役立つ可能性があります。
- **デプロイメント・コメント** - デプロイメントのコメント。
- **通知 E メール** - デプロイメントの完了時に通知される E メール・アドレス。フォーマットはコンマ区切りリストです。

### 手順

1. 「**デプロイメント**」 > 「**デプロイメント**」 ページで、「**デプロイ先**」ドロップダウン・リストから、「**テスト**」または「**プロダクション**」を選択します。  
現在その環境にデプロイされているページ・グループのリストが「**選択したページ・グループ**」リストに表示されます。
2. プロダクション環境にデプロイする場合、デプロイメント名、デプロイメントについて説明するデプロイメント・コメント、デプロイメント完了時に通知される E メールを指定できます。
3. デプロイするページ・グループを選択するページ・グループ・カテゴリを選択します。  
そのカテゴリのページ・グループが「**選択可能なページ・グループ**」リストに表示されます。
4. 「**選択可能なページ・グループ**」リストで、デプロイするページ・グループを選択して「**選択したページ・グループ**」リストに移動します。
5. 「**選択したページ・グループ**」リストで、ページ・グループの順序を変更するには、ページ・グループを選択し、上矢印と下矢印を使用してそのページ・グループをリスト内で上または下に移動します。
6. 「**デプロイメント設定**」を確認します。変更が必要であれば、「**バンダー**」 > 「**バンダー設定**」に移動します。
7. デプロイメント・オプションの設定が完了したら、「**デプロイ**」をクリックします。  
選択したページ・グループに関連付けられるタグが、選択した環境で、それらのページ・グループのページにデプロイされます。

## 以前のデプロイメントに戻す

現行プロダクション・デプロイメント・バージョンを以前にデプロイしたプロダクション・バージョンにロールバックするには、以下の手順に従ってください。

### 手順

1. 「**デプロイメント**」 > 「**履歴**」をクリックします。  
以前にデプロイしたバージョンのリストが、現行バージョンを先頭にして表示されます。
2. 戻す先のプロダクション・バージョンを選択します。  
そのデプロイメント・バージョンの詳細を表示するには、「**操作**」列で「**デプロイメントの詳細 (Deployment Details)**」アイコンをクリックします。
3. オプションで、ロールバック・アクションの名前とコメントを入力します。
4. 「**ロールバック**」をクリックします。  
デプロイメント・バージョンのリストが更新されます。ロールバックの対象として選択したバージョンは、現行デプロイメントとして表の先頭に表示され、新規デプロイメントの作成に使用されます。選択されたロールバック・バージョンのデプロイメントは、直ちにコンテンツ配信ネットワーク (CDN) に送信されます。その更新はすべての CDN サーバー全体にわたって複製される必要があるため、変更が完全にデプロイされるまで少し時間がかかります。

## ベンダーによってデプロイされたタグを使用可能または使用不可にする

ベンダーによってデプロイされたタグを使用可能または使用不可にするには、以下の手順に従ってください。プロダクション環境にデプロイされている特定のベンダーのタグを素早く使用可能または使用不可にすることができます。

### 手順

1. 「**デプロイメント**」 > 「**ベンダーの有効化**」をクリックします。  
テーブルで、有効化されたタグの付いたベンダーが選択されます。
2. 実行するアクションに応じて、「**プロダクションで有効**」チェック・ボックスをクリアまたは選択します。
  - 現在使用可能なベンダーのタグを使用不可にするには、「**プロダクションで有効**」チェック・ボックスをクリアします。
  - ベンダーのタグをプロダクションで使用可能にするには、「**プロダクションで有効**」チェック・ボックスを選択します。
3. 「**更新およびデプロイ**」をクリックします。  
ベンダーの有効化テーブルが更新されて、変更内容が反映されます。更新されたデプロイメントは直ちにコンテンツ配信ネットワーク (CDN) に送信されます。その更新はすべての CDN サーバー全体にわたって複製される必要があるため、変更が完全にデプロイされるまで少し時間がかかります。

## デプロイメントからのページ・グループの除去

デプロイメントからページ・グループを除去するには、以下の手順に従ってください。

### 手順

1. 「**デプロイメント**」 > 「**デプロイメント**」をクリックします。
2. 「**デプロイ先**」ドロップダウン・リストから、「**テスト**」または「**プロダクション**」を選択します。  
現在その環境にデプロイされているページ・グループのリストが「**選択したページ・グループ**」リストに表示されます。
3. デプロイメントから削除するページ・グループを選択して「**選択可能なページ・グループ**」リストに移動します。
4. 「**デプロイ**」をクリックします。  
グローバル・ヘッド・グループおよびグローバル・デフォルト・グループを含めて、「**選択したページ・グループ**」リスト内のページ・グループは、指定された環境に再デプロイされます。

## セグメント

Digital Data Exchange で作成するオーディエンス・ベースのセグメントを、ページ・グループ内のタグを実行するかどうかの条件として使用します。

Digital Data Exchange でセグメントを作成して使用するには、アカウントが IBM Digital Analytics 用にプロビジョンされている必要があります。セグメントをタグ・ルールの条件として使用するには、Digital Data Exchange を使用してページをタグ付けする必要があります、そのページに少なくとも 1 つの IBM Digital Analytics タグが含まれていなければなりません。これらの要件を満たさなければ、定義済みのセグメントの評価に必要な指標が使用できなかつたり、ご使用のタグ・ルールが正常に機能しない可能性があります。

### オーディエンス・ベースのセグメントの作成

オーディエンス・ベースのセグメントを作成するには、以下の手順に従ってください。

#### 始める前に

Digital Data Exchange でセグメントを作成して使用するには、アカウントが IBM Digital Analytics 用にプロビジョンされている必要があります。セグメント・ベースのタグ・ルールのセグメントを使用するには、Digital Data Exchange を使用してページをタグ付けする必要があります、そのページに少なくとも 1 つの IBM Digital Analytics タグが含まれていなければなりません。

#### 手順

1. 「資産」 > 「セグメント」 をクリックします。
2. 「新規セグメントを作成」 をクリックします。
3. セグメントの名前、カテゴリー、およびオプションの説明を指定してください。
4. 指標の種類と指標、演算子、およびその指標の基準値を選択して、セグメントの条件を指定します。  
「サンプル・レコード」 をクリックすると、現在選択されている指標の種類と値のサンプルが表示されます。
5. 「追加」 をクリックして、完了したそれぞれの条件セットを「条件リスト」 に追加します。
6. セグメントの定義が完了したら、「保存」 をクリックします。  
保存されたセグメントがセグメント・リストに表示されます。

### セグメントの編集

セグメントを編集するには、以下の手順に従ってください。

#### 手順

1. 「資産」 > 「セグメント」 をクリックします。
2. リスト内で編集するセグメントを見つけ、そのリンクされた名前をクリックします。
3. 必要に応じて、情報を更新します。
4. 「保存」 をクリックします。

### セグメントの削除

セグメントを削除するには、以下の手順に従ってください。ただし、タグ・ルールで条件として使用されるセグメントについては、削除する前にそのタグ・ルールのページ・グループから除去する必要があります。

#### 手順

1. 「資産」 > 「セグメント」 をクリックします。
2. 削除するそれぞれのセグメントについて、その行のチェック・ボックスを選択します。
3. 「選択したセグメントの削除」 をクリックします。
4. 「はい」 をクリックして削除することを確認します。

## タグ

Digital Data Exchange では、IBM タグおよび IBM Digital Analytics タグ、または IBM 認定パートナーと他のベンダーからのタグを使用して構成できます。Multisite デプロイメントでは、グローバル ID からサイト ID にカスタム・タグを共有することができます。

Digital Data Exchange は、W3C Customer Experience Digital Data Layer 標準を全面サポートしています。詳しくは、「Customer Experience Digital Data Layer v1.0 Final Report」(<http://www.w3.org/2013/12/ceddl-201312.pdf>) を参照してください。

アカウントに Digital Analytics の権限が含まれている場合は、構成要件なしで IBM Digital Analytics タグをそのまま使用できます。ベンダー・タグは、通常、ページ・グループに追加してデプロイする前に、構成してカスタム・タグとして保存する必要があります。

タグは、ベンダーの種類別にセクションにグループ化されます。

### • IBM タグ

#### • 認定パートナーのタグ

#### • その他のタグ

また、システム作成のデフォルト・ビューを使用してタグにアクセスしたり、自分で保存されたビューを作成したりすることもできます。

相互依存型パートナー・タグの中には、正しい順序で実行しなければならないものがあります。そうしたパートナー・タグは、ページ・グループ・タグ・リストに正しい順序で追加する必要があります。これらのタグが Digital Data Exchange ページ・グループ・デプロイメントに組み込まれている場合、他のタグに対して依存関係のあるタグには、必須の先行タグ・オブジェクトがあるかを検査するコードが含まれています。必須の先行タグが存在しない場合、タイムアウト・エラーが発生し、依存関係を持つタグは送信されません。

### ヘッド・タグ・コンテナーおよびデフォルト・タグ・コンテナー

Digital Data Exchange では、定義する各タグと各ページ・グループに、それぞれに対して指定されたタグ・コンテナー・タイプが必要です。Digital Data Exchange で使用される 2 つのタグ・コンテナー・タイプは、ヘッドとデフォルトと呼ばれます。

タグは、コンテナー・タイプが一致するページ・グループのみに追加できます。例えば、あるページ・グループのコンテナー・タイプがヘッドである場合、このページ・グループに所属できるのはコンテナー・タイプがヘッドのタグです。

「ヘッド」タグと「デフォルト」タグのタイミングおよび振る舞いの違いのために、タグ内で実行されるすべてのコードは、そのタグのタイプ (および配置) によって制約されます。詳しくは、[21 ページの『コード・スニペットのベスト・プラクティス』](#) を参照してください。

### ヘッド・タグ

「ヘッド」コンテナー・タイプのタグは、HTML ページの <Head> セクションに置く必要があります。

これらのタグは、ページの <Head> セクションで同時に開始されます。Body セクションのレンダリングは、すべてのヘッド・タグの呼び出しが完了するまで開始されません。ヘッド・タグは一度だけ実行できます。したがって、ヘッド・タグでの置換はできません。

ヘッド・コンテナーにタグ (グローバル・ヘッド・ページ・グループのタグを含む) をデプロイするには、`eluminate.js` が呼び出される前に、ご使用のヘッド・ページ・グループ内で参照されるすべての変数 (ページ ID を含む) を宣言する必要があります。

### デフォルト・タグ

「デフォルト」コンテナー・タイプのタグは、ページのどの部分ともバインドされません。これらのタグは、<Head> セクションの中か Body セクションの中のどちらかにロードできます。ヘッド・タグは Body レンダリングの開始前に開始されるのに対し、デフォルト・タグは、Body がレンダリングされているときに非同期に開始されます。

## 置換および digitalData の標準

DigitalData タグは、デフォルトで digitalData オブジェクトを使用します。DigitalData オブジェクトには、カート、注文アイテム数、プロダクト、およびその他の同様の情報を格納する配列が含まれています。digitalData オブジェクトに含まれる配列は Digital Data Exchange により認識されています。したがって、IBM Digital Analytics タグに対して実施するように、これらの配列に置換を定義する必要はありません。

digitalData タグには置換が組み込まれていて、タグは配列の各行ごとに実行されます。この例外として、IBM 登録タグおよび digitalData.user オブジェクトがあります。digitalData.user オブジェクトにより、複数のユーザーが各自複数のプロフィールを持つことができるようになります。IBM Digital Analytics はこのオブジェクトをデフォルトで使用します。しかし、登録タグの目的は最初の Web サイト訪問者をトラッキングすることであるため、digitalData ユーザー・オブジェクト全体に対応する必要はありません。デフォルトでは、登録タグはユーザー配列の 1 行目 digitalData.user[0] に格納されたデータのみを使用します。また、最初のユーザーの最初のプロフィール digitalData.user[0].profile[0] も調べます。digitalData.user 配列内のその他の行は、登録タグを実行しません。

## タグ・フィールドでサポートされるメソッド

Digital Data Exchange のタグ・フィールドには、さまざまなメソッドの値を取り込むことができます。すべてのタグ・フィールドがあらゆるメソッドをサポートするわけではありません。編集に使用するタグの種類を選択すると、そのタグの種類でサポートされるメソッドが、「メソッド」ドロップダウン・リストで選択可能な選択項目に反映されます。

メソッド	説明
定数	このフィールドの値には、指定された定数が取り込まれます。
Cookie	値は、指定された Cookie から取得されます。
HTML	値は、指定された HTML オブジェクトまたはその HTML オブジェクトの属性から取得されます。
JavaScript オブジェクト	値は、指定された JavaScript オブジェクトから取得されます。 Digital Data Exchange は、W3C Customer Experience Digital Data Layer 標準を全面サポートしています。
ローカル・ストレージ	値は、HTML5 のグローバル window オブジェクトの localStorage オブジェクトから取得されます。
メタ	値は、HTML <meta> タグから取得されます。
他の Web 分析ベンダー変数	値は、他の Web 分析ベンダーによってサポートされる変数から取得されます。オプションは、選択されたベンダーによって異なります。
セッション・ストレージ	値は、HTML5 のグローバル window オブジェクトの sessionStorage オブジェクトから取得されます。
未割り当て	このタグ・フィールドには値が割り当てられていません。未割り当てのメソッドを使用できるのは、オプションのタグ・パラメーターのみです。
URL	値は、指定された URL パラメーターから取得されます。

## タグ・パラメーター

Digital Data Exchange で維持するタグには、以下のリストで説明するタイプのパラメーターがあります。

### 関数にバインド

現行タグの実行をトリガーする 1 つ以上の関数を指定します。これは、アスタリスク (\*) が付いていない限り、オプションです。

### イベントにバインド)

現行タグの実行をトリガーする 1 つ以上のイベント・タイプを指定します。イベント・タイプを選択し、関連するエレメント名 (必要な場合) を入力します。これは、アスタリスク (\*) が付いていない限り、オプションです。

### バインド遅延(ミリ秒)

タグが次のページに移動するのを遅延させる必要のある時間の長さをミリ秒単位で指定します。この遅延は、一般的にアンカー・タグで使用されます。アンカー・タグでは、新しいページに移動する前にページを完全にロードする必要があるからです。

### タグ・フィールド

タグに関連付けられたすべてのデータ・フィールドが「タグ・フィールド」列にリストされます。必須フィールドは、アスタリスク (\*) 付きでユーザー・インターフェースに示されます。このフィールドを変更することはできません。

### メソッド

各タグ・フィールドに関連付けられたメソッド。ドロップダウン・リスト内の使用可能なオプションからメソッドを選択します。

### オブジェクト名

各タグ・フィールドに関連付けられたオブジェクト名。このフィールドに入力できるテキストの最大長は 2056 文字です。

### データ型

各タグ・フィールドのデータ型。このフィールドを変更することはできません。

### 修飾子

オプションで、テキスト文字列または JavaScript コード (関数を含む) を指定できます。これらは、タグ・フィールド・データの前に付加されるか、または JavaScript の場合にはタグの実行時に実行されます。

タグ・フィールドに修飾子を指定する場合、その修飾子は、タグ構成ページ上で「オブジェクト名」フィールドの一部として表示されます。

タグ・フィールドに修飾子を使用すると、タグ・フィールドの検索の値をカスタマイズできるようになり、「タグ・フィールドの編集」ウィンドウの修飾子フィールドの文字列、演算式、および関数呼び出しを使用して戻される結果をカスタマイズすることができます。修飾子フィールドに含まれる文字列、式、あるいは関数はそれ自体が「タグ・フィールド」値に付加されます。修飾子フィールドには @ 記号を使用してください。@ 記号がタグ・フィールド値に置き換わります。

修飾子は、@ 文字で Web ページの JSON オブジェクトから取得されるタグ・フィールドの値を表します。

ページ・ビュー・タグ (文字列) の例

検索用語のパラメーター値	デジタル
修飾子フィールド:	「検索用語は @ です」
検索用語に返される値:	検索用語はデジタルです。

注文タグの例 (演算式):

注文小計のパラメーター値:	19.98
修飾子フィールド:	100+@
注文に返される値:	119.98

注文タグの例 (関数):

注文小計のパラメーター値:	119.98
修飾子フィールド:	deductPerc(@) //ref function definition below
注文に返される値:	107.982

### 操作

この列には、各タグ・フィールドで利用可能なアクション (例えば、「編集」) を表すアイコンが表示されます。

### 置換戦略

(オプション) 置換戦略は、複数の置換が存在する場合のみ効果があります。デフォルトでは、戦略は「線形置換」です。

### 置換

1つ以上の置換を作成する場合、作成したそれぞれの置換の名前がこの列に表示されます。

### 値

作成する置換ごとに、タグ・フィールドに代入される値のリストがこの列に表示されます。

### 操作 (置換)

作成する置換ごとに、利用可能なアクション (例えば、「削除」) を表すアイコンが、「置換」リストのこの列に表示されます。

## タグ・ビュー

タグ・ビューはタグの集合で、Digital Data Exchange にあるデフォルト・ビューか、ユーザーが作成したカスタムの保存されたタグ・ビューのいずれかです。タグ・ビューを使用することで、頻繁に処理するタグを見つける手間を省くことができます。

### デフォルトのタグ・ビュー

デフォルトのタグ・ビューを編集したり削除したりすることはできません。デフォルトのタグ・ビューには、サイド・ナビゲーション枠の「タグ」>「デフォルト・ビュー」からアクセスします。

これらのシステム作成のビューは、タグを以下の3つのカテゴリーにグループ化します。

- デプロイ可能なタグ (テスト環境にもプロダクション環境にもデプロイされていない、ページ・グループ内のタグ)
- テストにデプロイ済み (Deployed to Test)
- プロダクションにデプロイ済み (Deployed to Production)

### 保存されたタグ・ビュー

ユーザー作成のタグ・ビューには、サイド・ナビゲーション枠の「タグ」>「保存されたビュー」からアクセスします。これらのビューは、ユーザーが選択し、自分が使用するために保存したタグの集合です。ユーザーが作成するタグ・ビューは、システムのすべてのユーザーに対して表示されます。作成したタグ・ビューを、他のユーザーが変更したり削除したりすることも可能です。

### タグの追加

タグを追加するには、以下の手順に従ってください。既存のタグのカスタマイズ・バージョンを作成し、それを別の名前で作成することで、Digital Data Exchange にタグを追加することができます。

### 手順

1. 「タグ」をクリックし、以下のいずれかの方法でタグにアクセスします。
  - コピーするタグを含む保存されたビューまたはデフォルト・ビューを選択します。
  - ベンダーの種類に合ったグループを開きます。

タグ・ビューには、現在選択されている種類のタグのみがリストされます。1つのベンダーのすべてのタグ、または1つのビュー内のすべてのタグを表示するには、「種類」ドロップダウン・リストから「すべてのタグの種類」または「すべてのベンダーの種類」を選択してください。

2. 新規タグのベースにするタグの名前をクリックします。
3. 各列のタグ・フィールド値をクリックするか、「操作」列のアイコンをクリックして、変更を行います。
4. 「保存」(カスタマイズされたタグに限り使用可能)をクリックしてタグを同じ名前で保存するか、「名前を付けて保存」をクリックしてタグを別の名前で保存します。
5. 既存のタグ構成に変更を加えます。  
「名前を付けて保存」ボタンが有効になります。
6. 「名前を付けて保存」をクリックし、新規タグ名を入力します。  
タグが、同じベンダーおよびタグ・タイプの下で、新規名を使用して保存されます。

### タグの編集

標準の IBM タグ、認定パートナー・タグ、またはその他のベンダー・タグを編集する場合は、「カスタム・タグの作成」を使用して、変更したタグを別の名前で保存する必要があります。カスタム・タグに限り、編集して同じ名前で保存することができます。

### 手順

1. 「タグ」をクリックし、以下のいずれかの方法でタグにアクセスします。
  - 編集するタグを含む保存されたビューまたはデフォルト・ビューを選択します。
  - ベンダーの種類に合ったグループを開きます。

タグ・ビューには、現在選択されている種類のタグのみがリストされます。1つのベンダーのすべてのタグ、または1つのビュー内のすべてのタグを表示するには、「種類」ドロップダウン・リストから「すべてのタグの種類」または「すべてのベンダーの種類」を選択してください。

2. 編集するタグの名前をクリックします。
3. 各列のタグ・フィールド値をクリックするか、「操作」列のアイコンをクリックして、変更を行います。
4. 「保存」(カスタマイズされたタグに限り使用可能)をクリックしてタグを同じ名前で保存するか、「カスタム・タグの作成」をクリックしてタグを別の名前で保存します。

### 複数のデータ値を収集する置換の作成

配列または HTML テーブルなどのオブジェクトから複数のデータ値を収集するためには、Digital Data Exchange で置換を作成してその置換をタグに使用します。

### 始める前に

digitalData 標準タグを使用する場合、配列は組み込まれるため、複数の値を収集するために置換を使用する必要はありません。1つの例外として、digitalData 登録タグは、digitalData.user 配列の1行目に格納されたデータのみを使用します。[35 ページの『置換および digitalData の標準』](#)を参照してください。

### このタスクについて

Digital Data Exchange 置換は最大 101 までの配列 (0 行から 100 行) をサポートします。101 を超える行が指定された場合でも、最初の 101 行のみがキャプチャーされます。

### 手順

1. 「タグ」をクリックします。
2. データを収集する対象のベンダーの名前をクリックします。
3. 置換を作成する対象のタグの「種類」を選択します。
4. 置換を作成する対象に対する特定の「タグ」を選択します。  
ページが最新表示され、タグ・フィールドと、選択したタグの構成の詳細が示されます。
5. 「置換の作成」をクリックします。

- 置換および置換値のコンマ区切りリストの名前を入力します。多くの場合、置換値はターゲット・オブジェクトから読み取る行のカウンター数です。

時間を節約するために、値が、一定の値で増分する一連の数値からなる場合、「**値を生成**」をクリックすると、一連の数値が生成され、それらの値が「**コンマで区切られた値**」フィールドに自動的に入力されます。その後、生成された値をさらに編集することができます。詳しくは、[42 ページの『タグの数字の置換値を生成』](#)を参照してください。

通常、配列は 0 行目から開始されますが、タグを任意の行から開始するように指定できます。カウンターの停止位置を定義する場合、以降の反復を停止させる特定の行がない限り、置換の終了値を配列内で可能な行数よりも大きな数字に設定することが推奨されます。終了値がオブジェクトの行数よりも大きい場合、Digital Data Exchange は、配列の最終行に到達すると自動的に停止します。

コンマで区切られたリストに入れることができる文字数の最大は、2000 です。コンマで区切られた値の間に、スペースは必要ありません。リストの中にスペースを含めると、そのスペースの数も 2000 文字の制限の中に含まれます。

- 置換値の変更が終了したら、「**OK**」をクリックします。  
行が置換テーブルのページ下部に追加され、指定した置換名および値が表示されます。
- さらに置換を作成する場合は、ステップ 4 から 6 を繰り返します。
- このタグと一緒に使用する置換の作成を終了したら、置換の影響を受けるタグ・フィールドごとに「**編集**」アイコン  をクリックし、置換名が含まれるように「オブジェクト名」を編集します。  
置換名は必ず疑問符 (?) のペアで囲んでください。例えば、置換が mySubstitution という名前の場合、?mySubstitution? という名前を使用するタグ・フィールドのオブジェクト名に入力します。  
JavaScript を使用していて、置換値のリストが配列を参照する場合は、置換名と疑問符を大括弧で囲んでください。例えば、[?mySubstitution?]
- 複数の置換を使用している場合は、それらの置換値が他の置換定義でどのように使用されるかを指定する必要があります。「**置換戦略**」ドロップダウン・リストから戦略を 1 つ選択します。

## 例: 置換の作成

この例では、IBM Digital Analytics ショッピング・アクション 5 の JavaScript タグでの置換の作成と使用について説明しています。

「目玉商品」ページに 2 つの商品があります。各商品は別々にショッピング・カートに追加できます。この商品のデータは以下の表で示します。

プロダクト名	プロダクト ID	商品カテゴリー	数量	価格
TV トレイ	Tv1234	TV	1	9.99
TV リモート制御	Tv5678	TV	1	29.99

商品データが配列に格納されると、コードは次のようになります。

FeaturedProducts[0].productName= "TV トレイ"	FeaturedProducts[1].productName= "TV リモート制御"
FeaturedProducts[0].productID= "Tv1234"	FeaturedProducts[1].productID= "Tv5678"
FeaturedProducts[0].productCategory= "TV"	FeaturedProducts[1].productCategory= "TV"
FeaturedProducts[0].quantity=1	FeaturedProducts[1].quantity=1
FeaturedProducts[0].price=9.99	FeaturedProducts[1].price=29.99

このページが訪問された際に、この 2 つの商品のそれぞれについて「プロダクト ID」、「プロダクト名」、「プロダクト・カテゴリー」、「数量」、および「価格」を取り込みたいとします。これを行うには、タグが配列

の各商品に対して1回実行されるように、ショッピング・アクション 5 タグと一緒に使用する置換を作成します。

1. 「タグ」をクリックし、次に「ショッピング・アクション 5」タグ・タイプをクリックします。
2. 「置換の作成」をクリックして、IBM Digital Analytics 「ショッピング・アクション 5 Javascript」標準タグを編集します。
3. 新規置換の行をクリックして、デフォルトの名前を mySubstitution で、デフォルトのコンマ区切り値を 0,1 で置き換えます。
4. 「OK」をクリックして置換を保存します。
5. タグ構成ページに戻って「プロダクト ID」タグ・フィールドの横にある「編集」アイコンをクリックし、mySubstitution 置換名を含むように「オブジェクト名」を変更します。そうすると、「オブジェクト名」は product[?mySubstitution?].productID となります。
6. 他のタグ・フィールドでも同様に、mySubstitution 置換変数名を含むように「オブジェクト名」を変更します。例えば、FeaturedProducts[?myCounter?].productName。
7. 「名前を付けて保存」をクリックすると、カスタマイズしたショッピング・アクション 5 タグが Featured Specials Shop Action 5 という新しい名前で作成されます。

### 単一タグの使用による複数データ値の収集

単一のタグを複数回実行して複数のデータ値を収集する必要がある場合、置換を作成して IBM Digital Analytics タグで置換を使用できます。

置換のない場合、配列またはテーブルの各行に対して個別のタグをセットアップする必要があります。置換を使用すると、Digital Data Exchange は、JavaScript の配列または HTML テーブルなどのオブジェクトを実行して配列またはテーブルの各行のタグを起動できます。配列をサポートするタグ・フィールドで置換を使用できます。

digitalData 標準タグを使用する場合、配列は組み込まれるため、複数の値を収集するために置換を使用する必要はありません。1つの例外として、digitalData 登録タグは、digitalData.user 配列の1行目に格納されたデータのみを使用します。

### 例: 置換の使用

Digital Data Exchange がショッピング・カートのデータを格納する配列を通して反復処理を行い、カウンターが繰り返されるごとにショッピング・アクション 5 を起動できるように、置換を作成したいと考えています。Digital Data Exchange インターフェースでは、適切なタグ・フィールドが「FeaturedProducts」配列を参照し、読み取る配列の行を指定する値を含む置換を使用できるように、デフォルトのショッピング・アクション 5 タグを修正します。

目玉商品ページの2つの製品の ID、名称、数量、および価格は、「Featured Products」と呼ばれる JavaScript 配列に格納されます。この配列のコードは次のようになります。

FeaturedProducts[0].productName="TV トレイ"	FeaturedProducts[1].productName="TV リモート・コントロール"
FeaturedProducts[0].productID="Tv1234"	FeaturedProducts[1].productID="Tv5678"
FeaturedProducts[0].productCategory="TV"	FeaturedProducts[1].productCategory="TV"
FeaturedProducts[0].quantity=1	FeaturedProducts[1].quantity=1
FeaturedProducts[0].price=9.99	FeaturedProducts[1].price=29.99

最初に、ショッピング・アクション 5 のタグを修正し、このタグに関連する置換を作成します。置換名には任意の名前を使用できるように myCounter を選択します。置換値は、置換の「カウンター」の開始および終了の位置を指定します。配列の0行目と1行目をタグを使って読み取りたい場合、置換値として 0 および 1 をコンマで区切って入力します。

通常、配列は0行目から開始されますが、タグを任意の行から開始するように指定できます。カウンターの停止位置を定義する場合、以降の反復を停止させる特定の行がない限り、置換の終了値を配列内で可能

な行数よりも大きな数字に設定することが推奨されます。終了値がオブジェクトの行数よりも大きい場合、Digital Data Exchange は、配列の最終行に到達すると自動的に停止します。

また、反復ごとに連続する行を読み取ったり、一定の行数の間隔で読み取れるように指定することもできます。この間隔は入力する置換値を反映します。例えば、0、1、2、3 の値は配列のすべての行を読み取ることを意味し、0、2、4、6 の値は1行おきに読み取ることを意味しています。

最後に、ショッピング・アクション 5 の各タグ・フィールドのオブジェクト名を編集して、データが検索される配列および適切な行を読み取る置換を参照できるようにします。例えば、ProductID tag フィールドでは、オブジェクト名を FeaturedProducts[?myCounter?].productID に編集します。疑問符で置換のイテレーターを囲むことにより、Digital Data Exchange が myCounter という名前の別の変数を検索しないように指定します。また、JavaScript を使用していて、置換値のリストが配列を参照する場合は、置換名と疑問符を大括弧で囲んでください。

## タグの比較

任意のタグ・ビューまたはベンダー・タグ・ページから同じ種類の2つのタグを選択し、それらの構成を横並びにして比較できます。ビュー内で同じ種類のタグが複数存在する場合に限り、「タグの比較」ボタンが有効になります。

### 手順

1. 「タグ」をクリックし、以下のいずれかの方法でタグにアクセスします。

- 比較するタグを含む保存されたビューまたはデフォルト・ビューを選択します。
- ベンダーの種類に合ったグループを開きます。

タグ・ビューには、現在選択されている種類のタグのみがリストされます。1つのベンダーのすべてのタグ、または1つのビュー内のすべてのタグを表示するには、「種類」ドロップダウン・リストから「すべてのタグの種類」または「すべてのベンダーの種類」を選択してください。

2. 「タグの比較」をクリックします。

3. 比較ビューの各側のドロップダウン・リストからタグを選択します。左側がソース・タグ、右側が宛先タグと見なされています。構成をソース・タグから宛先タグにコピーすることはできますが、宛先タグからソース・タグにコピーすることはできないことに留意してください。

4. 「比較」をクリックします。

選択したそれぞれのタグの構成の詳細が横並びに表示されます。2つのタグの間に表示されたアイコンは、その行に対して実行できるアクションを示します。青い矢印は、宛先タグに設定をコピーできることを示しています。赤いX印は、その行を宛先タグから削除できることを示しています。

5. 2つのタグ構成の間のアイコンを使用して、宛先タグに変更を加えます。

6. 「変更をすべて適用」をクリックすると、比較ダイアログに変更が反映されます。

宛先タグに対する変更はまだ保存されていません。

7. 変更を加えた宛先タグを保存するには「保存」を、変更を保存しない場合は「キャンセル」をクリックしてください。

## タグの削除

タグを削除するには、以下の手順に従ってください。カスタマイズしたタグのみ削除することができます。標準の IBM タグ、認定パートナー・タグ、またはその他のベンダー・タグを削除することはできません。チェック・ボックスおよび「タグの削除」ボタンは、削除可能なタグに対してのみ有効になっています。

### 手順

1. 「タグ」をクリックし、以下のいずれかの方法でタグにアクセスします。

- 削除するタグを含む保存されたビューまたはデフォルト・ビューを選択します。
- ベンダーの種類に合ったグループを開きます。

タグ・ビューには、現在選択されている種類のタグのみがリストされます。1つのベンダーのすべてのタグ、または1つのビュー内のすべてのタグを表示するには、「種類」ドロップダウン・リストから「すべてのタグの種類」または「すべてのベンダーの種類」を選択してください。

2. 削除するカスタマイズしたタグの横にあるチェック・ボックスを選択します。
3. 「タグの削除」をクリックします。
4. 「はい」をクリックして、選択したタグの削除を確認します。

### タグの数字の置換値を生成

数字の置換値を生成するには、以下の手順に従ってください。タグの置換を作成するとき、値が、一定の値で増分する一連の数値であれば、置換のためのコンマ区切りの値を簡単に入力することができます。生成される値の最大数は 256 です。

### 手順

1. 置換を追加するタグ構成ページで、その置換の「操作」列にある「編集」をクリックします。
2. 「値を生成」をクリックします。
3. 一連の値の開始と終了の値、および増分値を指定します。  
コンマで区切られたリストに入れることができる文字数の最大は、2000 です。
4. 該当する場合は、生成する数値の長さを文字数 (最大 99 文字) で指示します。その長さになるまで、開始と終了の数値の前にゼロが付加されます。
5. 「プレビュー」をクリックして、生成された値を表示します。
6. 「OK」をクリックします。そうすると、「コンマで区切られた値」フィールドに、置換の生成された値が入力されます。  
その後、生成された値をさらに編集することができます。

### 例

置換値として使用したい 10 個のプロダクト ID (0000001、0000002、0000003 から 0000010) があります。

これらの値を置換に手動で入力するのではなく、「値を生成」をクリックし、「数字の置換値を生成」で入力します。

### タグの名前変更

タグを名前変更するには、以下の手順に従ってください。カスタマイズしたタグのみ名前変更ができます。標準の IBM タグ、認定パートナー・タグ、またはその他のベンダー・タグを名前変更することはできません。「タグの名前変更」ボタンは、名前変更可能なタグに対してのみ有効になっています。基本タグを名前変更することはできません。

### 手順

1. 「タグ」をクリックし、以下のいずれかの方法でタグにアクセスします。
  - 名前変更するタグを含む保存されたビューまたはデフォルト・ビューを選択します。
  - ベンダーの種類に合ったグループを開きます。  
タグ・ビューには、現在選択されている種類のタグのみがリストされます。1つのベンダーのすべてのタグ、または1つのビュー内のすべてのタグを表示するには、「種類」ドロップダウン・リストから「すべてのタグの種類」または「すべてのベンダーの種類」を選択してください。
2. 名前変更するカスタマイズしたタグの横にあるチェック・ボックスを選択します。
3. 「タグの名前変更」をクリックします。
4. タグの新規名を入力します。
5. 「保存」をクリックします。

## 既存のタグにおけるタイムアウトの設定

既存のタグにタイムアウトを設定するには以下の手順に従ってください。タイムアウトは、アンカー・タグまたはページ間をナビゲートするタグに追加するのが一般的です。タイムアウトを追加することによって、カーソルが新しいページに移動する前に、コードをすべてロードする余裕が生まれます。

### 手順

1. 「タグ」をクリックします。
2. タイムアウト遅延を追加する対象となる「タグ」の名前をクリックします。
3. 「関数にバインド」または「イベントにバインド」のいずれかをクリックします。  
「関数にバインド」と「イベントにバインド」には、同じタイムアウト属性が含まれています。
4. 「バインド遅延(ミリ秒)」に時間をミリ秒単位で入力します。
5. 「保存」をクリックします。

## Multisite クライアント ID に対するタグの共有

Multisite クライアント ID に対するタグを共有するには、以下の手順に従ってください。Multisite ユーザーは、Digital Data Exchange 内の対応するクライアント ID に対するカスタム・タグを共有できます。

### このタスクについて

Multisite グローバル ID を持つユーザーのみが対応するサイト ID とカスタム・タグを共有できます。カスタム・タグがサイト ID と共有されたら、それらのカスタム・タグでページ・グループを作成し、作成されたページ・グループをそのサイト ID を使用してデプロイできます。

### 手順

1. 「タグ」をクリックします。
2. 「IBM タグ」、「認定パートナーのタグ」、または「その他のタグ」を展開します。
3. 検討するタグを選択します。
4. 「共有」という名前の列を見つけます。  
列に緑色のチェック・マークがある場合、そのタグは現在、サイトに共有されています。
5. 編集するタグを選択します。
6. 「サイトへ共有」をクリックします。
7. 「共有サイト」のリストを確認します。
8. このタグを別のサイトと共有するには、「表示可能なサイト」リストから「共有サイト」リストにその追加サイトを移動し、「OK」をクリックします。
9. 「編集」ダイアログ ボックスを閉じます。

## タグ・ビューの作成

タグ・ビューを作成するには、以下の手順に従ってください。複数のベンダーのタグのカスタム・リストを作成して保存することができます。保存されたタグ・ビューを使用すれば、頻繁に処理するタグに簡単にアクセスすることが可能です。

### 手順

1. 既存のタグ表示ページ、または「タグ」の任意のベンダー・ページから、「ビューの作成」をクリックします。
2. タグ・ビューの名前を入力します。
3. 1つ以上の「ソース」チェック・ボックスを選択します。これらのオプションにより、選択の対象となるタグがフィルタリングされます。
4. 1つ以上の「デプロイメント」チェック・ボックスを選択します。これらのオプションにより、選択の対象となるタグがフィルタリングされます。
5. 「タグの種類」を選択します。

選択したベンダーのタグが「**使用可能なタグの種類**」リストに表示されます。このリストは、「ソース」オプションと「**デプロイメント**」オプションで行った選択に基づいてフィルタリングされたものです。

6. タグ・ビューに含めるタグを、矢印ボタンを使用して「**使用可能なタグの種類**」リストから「**選択されたタグの種類**」リストに移動して選択します。
7. 別のベンダーのタグについても、このタグの選択を繰り返します。  
各ベンダーの選択済みタグは、他のベンダーのタグを選択しても「**選択されたタグの種類**」リストに残ります。
8. タグの選択が完了したら、「**保存**」をクリックします。

### タグ・ビューの編集

タグ・ビューを編集するには、以下の手順に従ってください。ユーザー作成のタグ・ビューは、いつでも変更することができます。

#### 手順

1. 「**タグ**」 > 「**保存されたビュー**」を選択します。
2. 編集するタグ・ビューを選択します。
3. 「**ビューの編集**」をクリックします。
4. 必要に応じて、タグ・ビューを更新します。
5. 「**保存**」をクリックします。

### タグ・ビューの削除

タグ・ビューを削除するには、以下の手順に従ってください。ユーザー作成のタグ・ビューは、いつでも削除することができます。

#### 手順

1. 「**タグ**」 > 「**保存されたビュー**」を選択します。
2. 削除する保存されたタグ・ビューを選択します。
3. 「**ビューを削除**」をクリックします。
4. 「**はい**」をクリックして削除することを確認します。

### タグ・ルールの作成

ページ・グループのタグがいつ実行されるかを指定するタグ・ルールを作成するには、以下の手順に従ってください。

#### このタスクについて

タグにルールを定義するには、その前に、そのタグがページ・グループに追加されている必要があります。日付ベースおよび時間ベースのルールで使用されるタイム・ゾーンは、ログインに使用したクライアントIDに関連付けられているタイム・ゾーンです。

セグメント・ベースのタグ・ルールの場合、セグメントを正常に評価できるようにするために、満たすべき特定の要件があります。詳しくは、[33 ページの『セグメント』](#)を参照してください。

#### 手順

1. 「**新規ページ・グループの作成**」 ページ、または定義しているページ・グループの「**ページ・グループの編集**」 ページで、「**タグ・ルール**」 タブをクリックします。
2. 「**条件**」 をクリックして、最初のタグ・ルールの基盤とする条件を選択します。
3. タグ・ルールの詳細を指定し、このルールを適用するタグを選択します。
4. タグ・ルールの定義を完了したら、「**ルールを作成**」 をクリックします。  
定義されたルールは「**タグ・ルールのサマリー**」の下に表示されます。
5. 必要な数のタグ・ルールを作成し、各ルールの定義が完了したら、「**ルールを作成**」 をクリックします。
6. 「**保存**」 をクリックします。

## タスクの結果

Digital Data Exchange ページ・グループ資産の実行順序は次のとおりです。

1. 任意の外部ライブラリー (組み込まれている場合)。
2. 任意のコード・スニペット (組み込まれている場合)。
3. 任意のネイティブ Digital Analytics タグ。これらのタグは、ページ・グループのタグ・リストに表示されるのと同じ順序で実行されます。

たとえ、これらの外部ライブラリー、コード・スニペット、およびタグを、Digital Data Exchange インターフェイスにリストされる順序でターゲット Web サイト・ページに組み込んでも、これらが同じ順序で完了しない可能性があります。

## テスト・ツール

テスト環境へのページ・デプロイメント後に、テスト・ツールを使用してページの実装を即時にテストすることができます。

以下のオプションを使用してテスト・ツールを構成する必要があります。

### • 開く場所:

- 別サイトおよびテスト・ウィンドウ - 診断ウィンドウを使用してテスト対象ページを区別するため、より柔軟な選択を提供します。

### - シンプル・テスト・ウィンドウ

### • ページ・タグ・テスト・オプション:

- タグ・データの表示のみ - 実際にデータを送信しなくてもタグ・フィールド・データが使用可能で、正しいことを確認します。
- タグ・データの表示および送信 - タグ・データをそのターゲットに送信します。最初のオプションでタグが正しくセットアップされていることを確認したものの、実際のデータが正しく送信されるかどうか不明な場合に便利です。

「デプロイメント」 > 「テスト・ツール」をクリックして、テスト・ツールにアクセスします。

## テスト・ツールのトラブルシューティングとデバッグの処理

テスト・ツールを使用し始めるとき、エラーをトラブルシューティングするガイドとして以下のフローチャートを使用します。

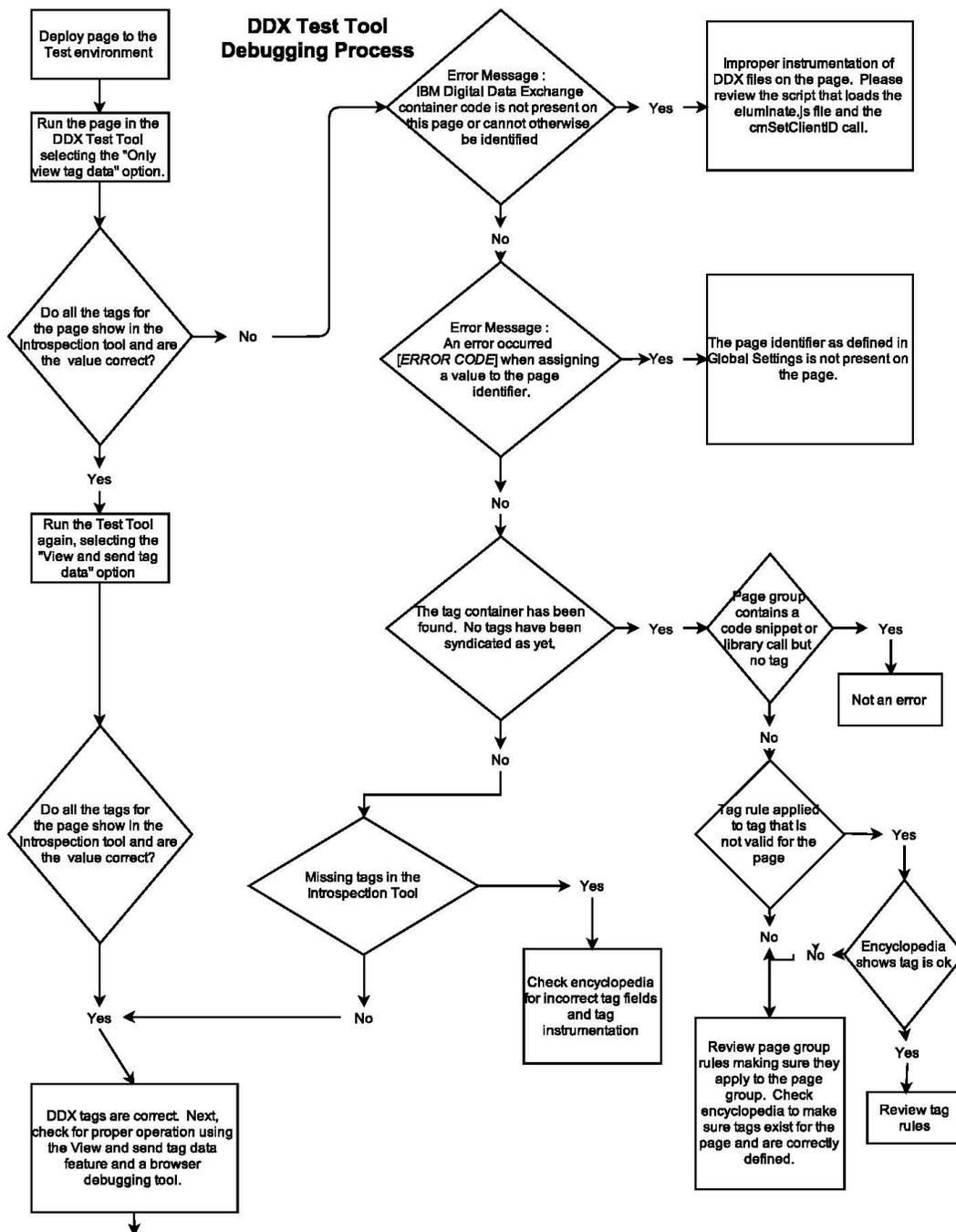


図 1: テスト・ツールのトラブルシューティングとデバッグの処理のフローチャート

## テスト環境とプロダクション環境

テストおよびプロダクションの2つのレポート環境が用意されます。

- タグの開発中 (開発環境とステージング環境にある場合) は、テスト環境を使用します。
- プロダクション環境は、タグを稼働中のプロダクション・サイトに移動した後に使用してください。

## テスト環境の詳細

テスト環境のデータ収集ドメインおよびレポート URL を以下の表に示します。

パラメーター	説明
クライアント ID	8桁、9シリーズのプロダクション・クライアント ID (ただし、最初の桁は「6」で置き換えられます)。  例: プロダクション・クライアント ID「92345678」には、対応するテスト・クライアント ID「62345678」があります。
データ収集ドメイン	テスト環境のデータ収集ドメインは、 <code>testdata.coremetrics.com</code> です。
レポート URL	テスト環境のレポート URL は、 <code>http://welcome.coremetrics.com</code> です。

## テスト・ツール・エンサイクロペディア

テスト・ツールを実行すると、結果は、メイン・テスト・ウィンドウのテスト結果テーブルに表示されます。テスト結果テーブルの「エンサイクロペディア」リンクをクリックすると、「エンサイクロペディア」ページが開きます。タグ実行の詳細およびタグによって参照されたエレメントまたはオブジェクトの詳細を表示できます。

## アクティブ・ページ・グループ

この表には、ページ・ルールが満たされたページ・グループのみ表示されます。ページ・グループ・タイプは、1つ以上のアイコンで示されます。例えば、「グローバル・ヘッド・グループ」での「ヘッド」()または「グローバル」()、あるいは両方のアイコンなどです。表示されるアイコンがない場合、ページ・グループはデフォルトのページ・グループです。

## タグ・カウンター

この表には、実行されたタグが表示されます。チェック列は、タグが正常にシンジケートされた回数を示します。X列は、タグの実行またはシンジケートが失敗した回数を示します。

## HTML エレメント

この表には、Web ページで検出された HTML エレメントがリストされます。最初の列のアイコンは、タグ・パラメーターが、関数を通して呼び出されるか()、イベント・ハンドラーにバインドされるか()、またはタグ・パラメーターはバインドされていないが、ページのロード直後に実行されるか()を示します。それぞれのエレメントのエレメント ID、属性、属性値、および結果が表示されます。「結果」列がブランクの場合、これは、ページにエレメントが存在するが、呼び出されなかったことを示します。「結果」列が「X」の場合、これは、エレメントが検出されなかったことを示します。タグの1つのエレメントが検出されない場合、そのエレメントの残りのパラメーターは調べられず、「結果」列はブランクになります。複数のタグで同じパラメーターが使用される場合、最初のパラメーターのみが検出および記録の対象となります。同じパラメーターが別のタグで検出されても、それは検索されず、最初の検出以外、「結果」列はブランクになります。

## JavaScript オブジェクト

この表には、Web ページで検出された JavaScript オブジェクトが、検索の順番に表示されます。最初の列のアイコンは、タグ・パラメーターが、関数を通して呼び出されるか()、イベント・ハンドラーにバインドされるか()、またはタグ・パラメーターはバインドされていないが、ページのロード直後に実行されるか()を示します。それぞれのオブジェクトの値 (修飾子の詳細を含めて) と結果が表示されます。

「結果」列がブランクの場合、これは、ページにオブジェクトが存在するが、呼び出されなかったことを示します。「結果」列が「X」の場合、これは、オブジェクトが検出されなかったことを示します。タグ・パラメーターが検出されない場合、そのタグの残りのパラメーターは検索されず、「結果」列はブランクになります。複数のタグで同じパラメーターが使用される場合、最初のパラメーターのみが検

出および記録の対象となります。同じパラメーターが別のタグで検出されても、それは検索されず、最初の検出以外、「結果」列はブランクになります。

### URL パラメーター

この表には、ページの URL の中のすべてのパラメーターと、それぞれのパラメーターの結果がリストされます。

最初の列のアイコンは、タグ・パラメーターが、関数を通して呼び出されるか (🔗)、イベント・ハンズドラーにバインドされるか (👤)、またはタグ・パラメーターはバインドされていないが、ページのロード直後に実行されるか (📌) を示します。それぞれのオブジェクトの値 (修飾子の詳細を含めて) と結果が表示されます。

「結果」列がブランクの場合、これは、ページにオブジェクトが存在するが、呼び出されなかったことを示します。「結果」列が「X」の場合、これは、オブジェクトが検出されなかったことを示します。タグ・パラメーターが検出されない場合、そのタグの残りのパラメーターは検索されず、「結果」列はブランクになります。複数のタグで同じパラメーターが使用される場合、最初のパラメーターのみが検出および記録の対象となります。同じパラメーターが別のタグで検出されても、それは検索されず、最初の検出以外、「結果」列はブランクになります。

### JavaScript 修飾子の関数

この表には、タグ修飾子の中で参照されているすべての関数がリストされます。「結果」列には、それぞれの関数または修飾子式が正常に解決されたかどうかが表示されます。

### JavaScript バインド済み関数

この表には、Web ページの要素にバインドされているすべての関数がリストされます。「結果」列には、それぞれの関数が正常に解決されたかどうかが表示されます。

### HTML コールバック・エレメント

この表には、Web ページのすべてのコールバック・エレメントがリストされます。それぞれのエレメントの「コールバック」と「結果」が表示されます。

### テスト・ツールのエラー・メッセージ

テスト・ツールを実行中に、エラー・メッセージが表示される場合があります。

エラー・メッセージ	エラー状態について考えられる原因
ページ ID に値を割り当て中にエラーが発生しました [NO_SUCH_HS_VARIABLE]。このため、DDX ルールは実行されず、タグのシンジケーションも実行されません。	このエラーは、グローバル設定に定義されたページ ID が該当ページに見つからない場合に発生します。大括弧 [] 内のメッセージは、ページ ID の種類 (例えば、URL、JavaScript 変数) によって変わる可能性があります。
IBM Digital Data Exchange のコンテナ・コードが、このページに存在していないか、そうでないとするば、それを識別できません。	このエラーは以下の場合に発生します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• DDX のインスツルメンテーションに問題があります。eluminare.js ライブラリーがロードされていない、または、cmSetClientID 関数呼び出しが実行されていないか、正しくない値を使用して実行されています。</li> <li>• コード・スニペットが原因で、DDX のライブラリーとコードのロードに影響を与える障害が発生しています。</li> </ul>

表 3: エラー・メッセージ (続く)

エラー・メッセージ	エラー状態について考えられる原因
タグ・コンテナが見つかりませんでした。シンジケートされたタグはまだありません。	このメッセージは、ページがページ・グループ・コードにより適切に識別されたものの、タグが見つからない場合に表示されます。ライブラリーまたはコード・スニペットのロードのみをするページ・グループの場合、これはエラーではありません。タグが予期される場合、 <a href="#">エンサイクロペディア</a> ・リンクがエラー・メッセージと一緒に表示されます。 <a href="#">エンサイクロペディア</a> ・リンクをクリックして、そのページのタグと依存関係のリストを確認します。そのページ・グループに割り当てられているタグが、そのフィールドおよびそのフィールドが正しくインスタンス化されたかどうかと一緒にリストされます。

### タグ結果テーブル

タグ結果テーブルは、ページ・グループのテスト時にブラウザー・ウィンドウの下部に表示され、現行ページで実行されたタグの結果を示します。結果の表示をフィルタリングしたりカスタマイズしたりするには、テーブルの上のコントロールを使用します。

### ページ・グループ

テスト環境でデプロイされたすべてのページ・グループの結果を表示するか、または特定のページ・グループを選択してそのページ・グループのタグ実行結果のみを表示するかを選択します。

### ベンダー

テスト環境でデプロイされたすべてのベンダー・タグの結果を表示するか、または特定のベンダーを選択してそのベンダーのタグ実行結果のみを表示するかを選択します。

### エラーのみを表示

このオプションを選択すると、例えば `invalid datatype` など、エラーのみがタグ結果テーブルに表示されます。エラーなしで正常に実行されたタグはテーブルに表示されません。

### 重複を抑制

このオプションにより、複数行の重複データの表示が抑制されます。例えば、1つのタグに複数のタグ・データ項目行があるが、それらの各タグ・データ項目で「日付/時刻」、「ページ・グループ」、「カテゴリ」、「ベンダー」、「タグ関数」、および「タグ名」が同じである場合、これらはそのタグの最初の行に一度だけ表示されます。このオプションはデフォルトで選択されています。

### エンサイクロペディア

このリンクをクリックすると、テスト・ページで実行されるエレメント、関数、およびタグのサマリーが表示されます。ページが変更された後、最新表示にするには、「[エンサイクロペディア](#)」ウィンドウを閉じて、再度開く必要がある場合があります。

見つからないか、シンジケートできないタグは、エンサイクロペディアの中でXを付けて表示されます。無効なデータ型の値 (例えば、タグ値がタグの予期されるデータ型と一致しない) を戻すタグが、アラートと一緒に表示されます。

### 設定

このリンクをクリックすると、現行のグローバル設定が表示されます。「拡張機能」権限がある場合は、サイド・ナビゲーション枠で「[管理](#)」>「[グローバル設定](#)」をクリックしてこれらの設定を変更できます。

列	説明
日付/時刻	タグが実行された日時。

列	説明
ページ・グループ	テストされたページが属するページ・グループの名前。ページ・グループ・タイプは、1つ以上のアイコンで示されます。例えば、「グローバル・ヘッド・グループ」での「ヘッド」(👤)または「グローバル」(🌐)、あるいは両方のアイコンなどです。アイコンが何も表示されなければ、ページ・グループは、デフォルト・ページ・グループです。
カテゴリー	テストされたページが属するページ・グループのカテゴリー。
ベンダー	タグを管理またはホストするベンダーの名前。
タグ関数	タグが呼び出した関数の名前。
タグ・データ項目	タグに関連付けられたタグ・データ・フィールドの名前。1つのタグに複数のタグ・データ・フィールドがあることもあります。
戻り値	<p>タグによってタグ・データ項目用に取り込まれた値。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>タグ・データ項目は見つかったものの、それにデータが含まれていない場合、あるいは、タグが unassigned に設定された場合、NULL 値が表示されますが、NULL 値はエラーとは見なされません。カーソルをこの列の上に移動すると、値についての詳細情報がさらに表示されます。</li> <li>タグから返される値がタグのデータ型と一致しない場合、invalid(&lt;datatype&gt;) エラーが表示されます。ここで、&lt;datatype&gt; は、そのタグによって予期されるデータ型です。</li> </ul>

### テスト環境へのデータの送信

6 シリーズのクライアント ID を使用してテスト環境にデータ収集を送信するには、非プロダクション・ページで `cmSetClientID(...)` 関数呼び出しを変更する必要があります。

これらは、サポートされている `cmSetClientID(...)` パラメーターの唯一の組み合わせです。サポートされていない組み合わせを使用すると、データ収集が行われなかったり、プロダクション・レポートにテスト・データが表示されたり、テスト・レポートにプロダクション・データが表示されたりすることがあります。

次のページはテスト・レポートをポイントします。データをテスト環境に送信するとき、クライアント ID パラメーターの最初の桁が「6」に変更され、クライアント管理対象パラメーターが `false` に設定されます。ここで、「9」シリーズまたは「5」シリーズのプロダクション ID を指定すると、「データ収集ドメイン」パラメーターで指定されるドメインに関係なく、プロダクション・レポートにテスト・データが表示されます。

**注:** タグ・データを送信するクライアントは、`testdata.coremetrics.com` 下でサード・パーティー Cookie を受け入れる必要があります。サード・パーティー Cookie を受け入れることができない場合は、「データ収集方式」を「true」に変更し、「Cookie ドメイン」には必ず、テスト・ページを扱う実際のテスト・ドメインを設定してください(実際のテスト・ドメインは `localhost` や `127.0.0.1` になります)。

例:

```
<head>
<script type="text/javascript" src="//libs.coremetrics.com/eluminate.js">
</script>
<script type="text/javascript">
```

```

// Standard 6-series Test Client ID
cmSetClientID("69999999",false,"testdata.coremetrics.com","thesite.com");

// Standard 6-series Test Client ID - Europe Data Center
cmSetClientID("69999999",false,"testdata.de.coremetrics.com","thesite.com");

// Multisite 8-series Test Client ID
cmSetClientID("89999999|<SiteID>",false,"testdata.coremetrics.com",
"thesite.com");

// Multisite 8-series Test Client ID - Europe Data Center
cmSetClientID("89999999|<SiteID>",false,"testdata.de.coremetrics.com",
"thesite.com");
</script>
// Example of the JavaScript Object declaration for using the default 'JavaScriptObject'
Method for Digital Analytics tag parameters:
<script type="text/javascript">

digitalData = {
  pageInstanceID: 'Standard Page',
  page: {
    pageInfo: {
      pageID: 'Shopping Cart',
      onsiteSearchTerm: "",
      onsiteSearchResults: ""
    },
    category: {
      primaryCategory: 'Checkout'
    },
    attributes: {
      exploreAttributes: "",
      extraFields: ""
    }
  }
};</script>
</head>

```

次のページはプロダクション・レポートに対するものです(クライアント管理対象ファースト・パーティー)。

**例:**

```

<head>
<script type="text/javascript" src="//libs.coremetrics.com/eluminate.js">
</script>
<script type="text/javascript">
// Standard 9-series Production Client ID
cmSetClientID("99999999",true,"data.coremetrics.com","thesite.com");

// Standard 9-series Production Client ID - Europe Data Center
cmSetClientID("99999999",true,"data.de.coremetrics.com","thesite.com");

// Multisite 5-series Production Client ID
cmSetClientID("59999999|<SiteID>",true,"data.coremetrics.com","thesite.com");

// Multisite 5-series Production Client ID - Europe Data Center
cmSetClientID("59999999|<SiteID>",true,"data.de.coremetrics.com","thesite.com");
</script>
<script type="text/javascript">

digitalData = {
  pageInstanceID: 'Standard Page',
  page: {
    pageInfo: {
      pageID: 'Shopping Cart',
      onsiteSearchTerm: "",
      onsiteSearchResults: ""
    },
    category: {
      primaryCategory: 'Checkout'
    },
    attributes: {
      exploreAttributes: "",
      extraFields: ""
    }
  }
};

```

```
</script>
</head>
```

## テスト・ツールを使用してページをテストする

ページ・グループをテスト環境にデプロイした後、そのページ・グループに含まれている任意のページをテストして、そのページに対するタグ実行の結果を表示することができます。

## このタスクについて

テストは、テスト環境にデプロイした最新のページ・グループ・ロジックに基づいて実行されます。その他の考慮事項は以下のとおりです。

- ページ・テスト機能を使用するには、ブラウザはHTML5に準拠している必要があります。
- Internet Explorerでは、テスト・ページとテスト・ツールを別々のウィンドウに開く能力はサポートされていません。IBM Digital Analytics テスト・システムでテスト・レポートをアクティブにするには、IBM サポートにお問い合わせください。
- ご使用のページ・グループが IBM Digital Analytics タグを使用している場合にそのページ・グループをテスト環境にデプロイすると、そのグループのページの Cookie ドメインが `testdata.coremetrics.com` にオーバーライドされます。それらのページのタグ・データはテスト・クライアント ID に送られます。

## 手順

1. 「**デプロイメント**」 > 「**テスト・ツール**」をクリックします。
2. テストを開始するページの URL を指定します。
3. テスト・ページおよびテスト・ツールを別々のウィンドウで開くか、同じウィンドウで開くかを指定します。1つのテスト・ウィンドウにテスト結果を開く場合、iFrames が必要です。
4. タグ・データを表示するのみか、または、(テスト構成がサポートされており、「**ベンダー**」 > 「**ベンダー設定**」で構成されている場合は) テストのためにタグ・データを IBM Digital Analytics に送信するかどうかを指定します。
5. テスト・オプションの選択が完了したら、「**テストを開始**」をクリックします。  
テスト・ページおよびタグ実行結果は、イントロスペクション・ツールに表示されます。「**タグ・イントロスペクション**」ウィンドウが表示され、これにはエンサイクロペディアと設定へのリンクが含まれます。
6. Web ブラウザーと同じように、表示されたページ内をナビゲートします。表示されたページ上のリンクをクリックするか、または「**サイト URL**」フィールドに別のページ URL を入力して「**移動**」をクリックすると、タグ結果テーブルが最新表示され、現行ページ・タグのテスト結果が示されます。

## ブラウザのテスト

イントロスペクション・ツールによりタグが確認された後、そのページでタグ・コードが行っている内容の詳細な検討が必要な場合があります。

ブラウザのテストは、以下の判断をする場合に便利です。

- タグによりロードされたライブラリーが正常にロードされたかどうか
- タグ・フィールド修飾子が、予期されるデータ値フォーマットを生成したかどうか
- タグ・コードにより、ページに正しいオブジェクトが作成されているかどうか

通常、このブラウザ・テストは、対象ベンダーの適切なサポート・スタッフからの支援を受けながら実行されます。

使用するブラウザ・デバッグ・ツールの決定は、クライアントに任されています。このツールは、テスト・ツールのテスト・ページに適用する必要があります。

## ベンダー

自社のデジタル・エコシステムをデプロイし、管理し、さらに認定パートナーおよびベンダーの IBM のネットワークと接続することができます。

自社のサード・パーティーのマーケティング・ベンダーをデプロイしたり、Digital Data Exchange API を使用して Digital Analytics データを直接ベンダーにシンジケートしたりするには、Digital Data Exchange を使用します。

### 「すべての認定パートナー」リスト

「すべての認定パートナー」リストを使用して、Digital Data Exchange 内の IBM 認定パートナーに関する基本情報を表示することができます。

「ベンダー」 > 「すべての認定パートナー」をクリックして、パートナーのリストを表示します。

以下を実行できます。

- 列ヘッドをクリックすると、列を昇順および降順でソートできます。
- 「フィルター対象」テキストを使用して、入力したテキストに一致する詳細を含むパートナーのみを表示できます。
- 「パートナー設定」にアクセスできます。
- 「タグ設定」にアクセスできます。
- パートナーのロゴをクリックすると、パートナーの外部 Web サイトにアクセスできます。
- 「Web サイト URL」をクリックすると、パートナーのクライアント・ポータルにアクセスできます。

### ベンダー・タグ監査

Digital Data Exchange では、アカウントが IBM Digital Analytics 用にプロビジョンされている場合は、ベンダー・タグ監査を有効にして、ベンダー・タグのパフォーマンスをトラッキングできます。タグの監査結果は、「ベンダー・タグ監査レポート」に表示されます。

**重要:** ベンダー・タグ監査を有効にすると、トラッキング対象のベンダー・タグごとに IBM Digital Analytics Element タグが送信されるため、追加のサーバー課金が発生します。ベンダー・タグ監査は、アカウントが IBM Digital Analytics 用にプロビジョンされている場合にのみ使用可能です。

ベンダー・タグの監査を有効にするには、以下の IBM Digital Analytics エlement タグの 2 つの属性がタグのトラッキングに使用されるように指定します。

- 1 つの属性は、自動的に DDX ベンダー・タグ・データ収集と別名設定され、タグとタグ実行に関する情報の収集に使用されます。
- 2 つ目の属性は、自動的に DDX ベンダー・タグ URL と別名設定され、タグがロードされるページの URL を取り込みます。トラッキングされているベンダー・タグが実行されると、IBM Digital Analytics Element タグも実行され、指定された属性の監査情報を返します。

### ベンダー監査レポート

ベンダー監査レポートは、パートナー・タグ (外部とレガシーの両方) についてのみ使用可能です。IBM Digital Analytics タグには使用できません。ベンダー監査レポートが有効にされていると、すべてのパートナー・タグ (レガシーおよび外部で追加されたパートナーの両方) に対して IBM Digital Analytics Element タグが実行されます。

ベンダー・タグ監査に加え IBM Digital Analytics Explore ライブ・レポートも有効にすると、ベンダー監査レポートに監査タグのリアルタイム・データを表示できます。

ベンダー監査レポートは、Digital Data Exchange API からリアルタイム・データを取り出して、各ベンダーの監査タグを表示します。これは、ベンダー名、タグ名、およびページ ID で識別されます。「タグ・カウント」列には、このタグがレポート期間中に正しく実行された回数が表示されます。

デフォルトでは、このレポートには現在の日付のデータが表示され、API から取りだされる新しいデータに基づいて、5 分ごとに更新されます。異なる期間を選択して表示することもできます。レポートの期間を新しく選択した場合や、レポート・ビューを更新した場合は、使用可能な最新のデータでレポートが更新されます。

ベンダー・タグ監査は、アカウントが IBM Digital Analytics 用にプロビジョンされている場合にのみ使用可能です。さらに、ベンダー監査レポートでデータを表示できるのは、IBM Digital Analytics Explore ライブ・レポートが有効にされている場合のみです。

サイド・ナビゲーション枠で、「ベンダー」>「ベンダー監査レポート」をクリックします。

### ベンダー・タグ監査

Digital Data Exchange では、アカウントが IBM Digital Analytics 用にプロビジョンされている場合は、ベンダー・タグ監査を有効にして、ベンダー・タグのパフォーマンスをトラッキングできます。タグの監査結果は、「ベンダー・タグ監査レポート」に表示されます。

**重要:** ベンダー・タグ監査を有効にすると、トラッキング対象のベンダー・タグごとに IBM Digital Analytics Element タグが送信されるため、追加のサーバー課金が発生します。ベンダー・タグ監査は、アカウントが IBM Digital Analytics 用にプロビジョンされている場合にのみ使用可能です。

ベンダー・タグの監査を有効にするには、以下の IBM Digital Analytics エlement タグの 2 つの属性がタグのトラッキングに使用されるように指定します。

- 1 つの属性は、自動的に DDX ベンダー・タグ・データ収集と別名設定され、タグとタグ実行に関する情報の収集に使用されます。
- 2 つ目の属性は、自動的に DDX ベンダー・タグ URL と別名設定され、タグがロードされるページの URL を取り込みます。トラッキングされているベンダー・タグが実行されると、IBM Digital Analytics Element タグも実行され、指定された属性の監査情報を返します。

### ベンダー・タグの構成

ベンダー・タグを構成するには、以下の手順に従ってください。

#### 手順

1. 以下のいずれかの方法でベンダー・タグにアクセスします。
  - 保存されたタグ・ビューまたはデフォルトのタグ・ビューで、ベンダー名とタグの種類を選択します。
  - 「タグ」を選択します。次に、「**IBM タグ**」、「**認定パートナーのタグ**」、または「**その他のタグ**」を選択します。いずれかのリストからベンダー名をクリックし、次に「**種類**」ドロップダウン・リストからタグの種類を選択します。
  - 認定パートナーの場合、「ベンダー」>「**すべての認定パートナー**」を選択します。認定パートナー・リストで、設定するタグを持つパートナーを見つけて、「**操作**」列で「**タグ設定**」をクリックします。
2. 構成するタグの名前をクリックします。
3. 各列のタグ・フィールド値をクリックするか、「**操作**」列のアイコンをクリックして、変更を行います。
4. 「**保存**」(カスタマイズされたタグに限り使用可能)をクリックしてタグを同じ名前で作成するか、「**名前を付けて保存**」をクリックしてタグを別の名前で作成します。

#### 次のタスク

ベンダーの Web サイトおよび資料のページへのリンクは、各ベンダーのタグの構成ページおよび「ベンダー」>「ベンダー設定」ページにあります。

### ベンダー・タグ監査を構成する

ベンダー・タグ監査を構成するには、以下の手順に従ってください。ベンダー・タグ監査を構成するには、IBM Digital Analytics Element タグの 2 つの属性がベンダー・タグのトラッキングに使用されるように指定します。ベンダー・タグ監査を有効にすると、トラッキング対象のタグごとに IBM Digital Analytics Element タグが送信されるため、追加のサーバー課金が発生します。ベンダー・タグ監査は、アカウントが IBM Digital Analytics 用にプロビジョンされている場合にのみ使用可能です。

#### このタスクについて

アカウントが IBM Digital Analytics 用にプロビジョンされている場合は、ベンダー・タグ監査をいつでも有効または無効にできます。

**重要:** ベンダー・タグ監査を有効にすると、トラッキング対象のベンダー・タグごとに IBM Digital Analytics エlement・タグが送信されるため、追加のサーバー課金が発生します。

## 手順

1. 「管理」 > 「ベンダー監査設定」をクリックします。
2. 「ベンダー・タグ監査を有効にする」を選択します。  
「エレメント・タグの定義」セクションが有効になります。「エレメント・タグの定義」セクションでは、エレメント・タグの別名設定されていない属性のみが2つのドロップダウン・リストに選択肢として表示されます。別名設定されていない属性がない場合は、少なくとも2つの属性から別名を削除しないと、Digital Data Exchange のベンダー監査を有効にできません。
3. ベンダー・データ収集に使用する属性を1つ選択し、ページ URL の取得に使用する属性を1つ選択します。
4. 「保存」をクリックします。

## タスクの結果

選択した属性には、自動的に DDX ベンダー・タグ収集と DDX ベンダー・タグ URL という別名が設定され、Digital Data Exchange によってベンダー・タグのトラッキングが開始されます。「ベンダー」 > 「ベンダー監査レポート」では、ベンダー・タグの監査詳細を表示できます。

## ベンダーによってデプロイされたタグを使用可能または使用不可にする

ベンダーによってデプロイされたタグを使用可能または使用不可にするには、以下の手順に従ってください。プロダクション環境にデプロイされている特定のベンダーのタグを素早く使用可能または使用不可にすることができます。

## 手順

1. 「デプロイメント」 > 「ベンダーの有効化」をクリックします。  
テーブルで、有効化されたタグの付いたベンダーが選択されます。
2. 実行するアクションに応じて、「プロダクションで有効」チェック・ボックスをクリアまたは選択します。
  - 現在使用可能なベンダーのタグを使用不可にするには、「プロダクションで有効」チェック・ボックスをクリアします。
  - ベンダーのタグをプロダクションで使用可能にするには、「プロダクションで有効」チェック・ボックスを選択します。
3. 「更新およびデプロイ」をクリックします。  
ベンダーの有効化テーブルが更新されて、変更内容が反映されます。更新されたデプロイメントは直ちにコンテンツ配信ネットワーク (CDN) に送信されます。その更新はすべての CDN サーバー全体にわたって複製される必要があるため、変更が完全にデプロイされるまで少し時間がかかります。

## ベンダー設定の指定

ベンダー設定を指定するには、以下の手順に従ってください。ベンダー設定は、選択されたベンダーに関連付けられたすべてのタグに適用されるデプロイメント設定が対象です。Multisite クライアントの場合、サイト ID のベンダー設定をグローバル ID から継承することができます。すべてのベンダーに設定があるわけではありませんが、ベンダー設定が存在する場合は、ベンダー・タグをデプロイする前に設定する必要があります。

## 手順

1. 「ベンダー」 > 「ベンダー設定」をクリックするか、ベンダー・タグの「編集」ページから、「ベンダー設定」をクリックします。ベンダーにいかなる設定も存在しない場合は、ベンダー・タグの「編集」ページにある「ベンダー設定」ボタンは無効になります。
2. 設定を構成する対象のベンダーを選択します。  
ウィンドウが更新され、選択したベンダーに関する設定が表示されます。
3. 実行するアクションに応じて、「グローバル ID からパートナー設定を継承 (Inherit Partner Settings from Global ID)」チェック・ボックスをクリアまたは選択します。

- 継承を有効にするには、「**グローバル ID からパートナー設定を継承 (Inherit Partner Settings from Global ID)**」チェック・ボックスを選択します。一度、継承が設定されると、そのベンダー設定は、既存および今後のすべてのベンダー全体で共有されます。
- 継承を無効にするには、「**グローバル ID からパートナー設定を継承 (Inherit Partner Settings from Global ID)**」チェック・ボックスをクリアします。

4. ご使用の実装でのベンダーの設定を指定します。

5. 「保存」をクリックします。

## 次のタスク

「ベンダー設定」ページからベンダーの Web サイトまたは資料にアクセスするには、「ベンダー・サイト」または「ベンダー・ヘルプ」をクリックします。Digital Data Exchange 内からリンクを利用できない場合、これらのボタンは無効です。

IBM Digital Analytics 終了タグのデプロイメント設定について詳しくは、「IBM Digital Analytics インプリメンテーション・ガイド」を参照してください。

## ユーティリティー

Digital Data Exchange には、ページのコンテンツや機能を動的に追加するために使用できるユーティリティー・タグが一式用意されています。

これらのユーティリティー・タグは、Digital Data Exchange の他のタグと同じ方法で定義します。通常、ユーティリティー・タグには、ヘッド・コンテナーを使用するページ・グループへの配置用と、デフォルト・コンテナーを使用するページ・グループへの配置用の、2つの異なるバージョンがあります。タグを Web ページのヘッドか本文に配置するにはその配置に適したタグ・フィールドが必要なため、タグの2つのバージョンには、いくつかのバリエーションがある場合があります。Digital Data Exchange の他のタグと同様に、タグ・フィールドを定義してカスタム・タグを保存すると、そのカスタム・タグは「**IBM DDX ユーティリティー (IBM DDX Utilities)**」タグ・リストに追加されます。

以下のタグが含まれています。

- 「デフォルト」の「コンテンツの追加/置換 (Add/Replace Content)」
- 「ヘッド」の「コンテンツの追加/置換 (Add/Replace Content)」
- 「デフォルト」の「関数のロード (Load Function)」
- 「ヘッド」の「関数のロード (Load Function)」
- 「デフォルト」の「ライブラリーのロード (Load Library)」
- 「ヘッド」の「ライブラリーのロード (Load Library)」
- 「デフォルト」の「ピクセルのロード (Load Pixel)」
- 「ヘッド」の「ピクセルのロード (Load Pixel)」
- 「デフォルト」の「手動リンク・クリック (Manual Link Click)」タグ
- 「デフォルト」の「手動ページ・ビュー (Manual Pageview)」タグ
- 「ヘッド」の「手動ページ・ビュー (Manual Pageview)」タグ
- Retrieve IBM Analytics Cookie ID

これらのタグを検索するには、「タグ」 > 「**IBM DDX ユーティリティー (IBM DDX Utilities)**」をクリックします。

## 「デフォルト」タグの「コンテンツの追加/置換 (Add/Replace Content)」

Digital Data Exchange の「デフォルト」タグ内の「コンテンツの追加/置換 (Add/Replace Content)」は、「新規コンテンツ (New Content)」フィールドに定義された HTML コードを使用して、2つ目のタグ・フィールドで選択された値に応じて、親コンテナー内にコンテンツを挿入するか、親コンテナー内のコンテンツを置換します。

### 「ヘッド」タグの「コンテンツの追加/置換 (Add/Replace Content)」

Digital Data Exchange の「ヘッド」タグ内の「コンテンツの追加/置換 (Add/Replace Content)」は、ヘッド・ページ・グループの親コンテナ内でコンテンツを置換したり追加したりできるようにします。

「ヘッド」タグ内の「コンテンツの追加/置換 (Add/Replace Content)」は、万一必要な場合にヘッド・ページ・グループにそのタグを配置できるようにするためにのみ含まれています。このタグは、「新規コンテンツ (New Content)」フィールドで定義された HTML コードを使用して、2 つ目のタグ・フィールドで選択された値に応じて、コンテンツを挿入または置換します。

### 「デフォルト」タグの「関数のロード (Load Function)」

Digital Data Exchange の「デフォルト」タグ内の「関数のロード (Load Function)」は、クライアントがデフォルト・セクションのページ・グループ内に JavaScript 関数を定義できるようにします。

「関数 JavaScript コード (Function JavaScript Code)」フィールドは関数内のコードです。「関数パラメーター (Function Parameters)」フィールドにはそのコードが必要とする関数パラメーターを入力します。「関数 JavaScript コード (Function JavaScript Code)」フィールドは、コンマ区切りのフィールドです。

### 「ヘッド」タグの「関数のロード (Load Function)」

Digital Data Exchange の「ヘッド」タグ内の「関数のロード (Load Function)」は、クライアントがヘッド・セクションのページ・グループ内に JavaScript 関数を定義できるようにします。

「関数 JavaScript コード (Function JavaScript Code)」フィールドは関数内のコードです。「関数パラメーター (Function Parameters)」フィールドにはそのコードが必要とする関数パラメーターを入力します。「関数 JavaScript コード (Function JavaScript Code)」フィールドは、コンマ区切りのフィールドです。

### 「デフォルト」タグの「ライブラリーのロード (Load Library)」

Digital Data Exchange の「デフォルト」タグ内の「ライブラリーのロード (Load Library)」は、デフォルト・コンテナのページ・グループで使用するよう設計されています。

ライブラリーは、ページの「本文 (Body)」セクションにロードされます。このタグには、以下のフィールドがあります。

- ライブラリーに必要な URL
- ライブラリーに ID を割り当てるためのオプションのフィールド
- コールバック関数

コールバック関数は、パラメーターの受け渡しを許可しません。また、その値は、その関数の JavaScript コードでなければなりません。このタグは、その関数を作成し、ライブラリーのロード時にそれを呼び出します。

### 「ヘッド」タグの「ライブラリーのロード (Load Library)」

Digital Data Exchange の「ヘッド」タグ内の「ライブラリーのロード (Load Library)」は、ヘッド・コンテナのページ・グループで使用するよう設計されています。

ライブラリーは、ページの「ヘッド」セクションにロードされます。このタグには、以下のフィールドがあります。

- ライブラリーに必要な URL
- ライブラリーに ID を割り当てるためのオプションのフィールド
- コールバック関数

コールバック関数は、パラメーターの受け渡しを許可しません。また、その値は、その関数の JavaScript コードでなければなりません。このタグは、その関数を作成し、ライブラリーのロード時にそれを呼び出します。

### 「デフォルト」タグの「ピクセルのロード (Load Pixel)」

Digital Data Exchange の「デフォルト」タグ内の「ピクセルのロード (Load Pixel)」は、デフォルト・セクション内でピクセル要求を送信します。

選択したピクセルのタイプが IMAGE であり、オプションのキャッシュ・バスター以外のパラメーターがない場合、イメージ要求はメモリー内で作成され、ページの登録には影響を与えません。

ピクセルのタイプが IMAGE または IFRAME であり、「親 Div (Parent Div)」フィールドに値がある場合、適切なタグ・フィールドを使用して「親 Div (Parent Div)」にピクセルが挿入されます。「親 Div (Parent Div)」は、ピクセルのタイプが IFRAME の場合には必須です。

### 「ヘッド」タグの「ピクセルのロード (Load Pixel)」

Digital Data Exchange の「ヘッド」タグ内の「ピクセルのロード (Load Pixel)」は、ヘッド・セクション内でピクセル要求を送信します。

ピクセル要求はヘッド内で送信されるため、オプションのキャッシュ・バスター以外に必要なタグ・フィールドはありません。イメージ要求はメモリー内で作成され、ページの登録には影響を与えません。

### 「手動リンク・クリック (Manual Link Click) タグ

Digital Data Exchange の「手動リンク・クリック (Manual Link Click)」タグは、リンク・クリック・タグを実行します。

「手動リンク・クリック (Manual Link Click)」タグは、Digital Analytics がページ内のリンク・コレクションに自動的に追加する標準のリンク・クリック・タグを再現するように設計されています。このタグは、クリック可能なオブジェクトの onclick イベントで使用するよう設計されており、オブジェクト・イベント、またはそのオブジェクトの onclick イベントによって呼び出される関数にバインドする必要があります。

### 「デフォルト」タグの「手動ページ・ビュー (Manual Pageview)」タグ

Digital Data Exchange の「デフォルト」タグ内の「手動ページ・ビュー (Manual Pageview)」タグには IBM の標準ページ・ビュー・タグと同じパラメーターがすべて用意されていますが、このタグは宛先や参照元 URL の値も設定できます。

「デフォルト」タグ内の「手動ページ・ビュー (Manual Pageview)」タグは、タグ付けできないページ (PDF ファイルなど) に事前にタグ付けするか、オフ・サイト・ページを追跡するために使用します。通常、このタグは、アンカー・タグ、onclick イベント、または訪問者をターゲット・ページに誘導する類似したオブジェクトに配置します。

このタグは、宛先または参照元 URL の値を、Web ページ以外の値に設定する必要がある場合のみ使用します。このバージョンでは、デフォルト・コンテナのページ・グループにこのタグを含めることが許可されています。

### 「ヘッド」タグの「手動ページ・ビュー (Manual Pageview)」タグ

Digital Data Exchange の「ヘッド」タグ内の「手動ページ・ビュー (Manual Pageview)」には IBM の標準ページ・ビュー・タグと同じパラメーターがすべて用意されていますが、このタグは宛先や参照元 URL の値も設定できます。

「ヘッド」タグ内の「手動ページ・ビュー (Manual Pageview)」は、タグ付けできないページ (PDF ファイルなど) に事前にタグ付けするか、オフ・サイト・ページを追跡するために使用します。通常、このタグは、アンカー・タグ、onclick イベント、または訪問者をターゲット・ページに誘導する類似したオブジェクトに配置します。

このタグは、宛先または参照元 URL の値を、Web ページ以外の値に設定する必要がある場合のみ使用します。このバージョンでは、ヘッド・コンテナのページ・グループにこのタグを含めることが許可されています。

### Retrieve IBM Analytics Cookie ID

Digital Data Exchange の Retrieve IBM Analytics Cookie ID は、ヘッドで実行するように設計されています。これは、JSON オブジェクトである `digitalData.page.pageInfo.attribute.IBM_Cookie` に IBM Digital Analytics の永続 Cookie ID を取り込みます。

Retrieve IBM Analytics Cookie ID ユーティリティにはパラメーターがありません。したがって、ページ・グループ内の他のどのタグよりも先にロードする必要があります。

`digitalData.page.pageInfo.attribute.IBM_Cookie` は、特定のデバイス上で訪問者に固有の ID を提供する際に役に立ちます。

## Digital Data Exchange タグをデプロイするためのクイック・スタート・ワークフロー

このワークフローを使用して Digital Data Exchange タグを速やかに実装します。

### 手順

1. プロダクション ID を使用して、Digital Data Exchange にログインします。
2. 固有ページ識別子を定義します。最も一般的なメソッドは **JavaScriptObject** で、これはデフォルトで推奨の `digitalData` オブジェクトを使用します。  
[17 ページの『固有ページ識別子』](#)を参照してください。
3. カスタム IBM Digital Analytics タグを作成します。ナビゲーション枠で、「タグ」 > 「IBM タグ」 > 「IBM Digital Analytics」を選択します。
4. 新規コード・スニペットを作成し、固有の名前を指定します。これはオプションです。  
[22 ページの『コード・スニペットの作成』](#)を参照してください。
5. 新規ページ・グループを作成します。ナビゲーション枠で、「資産」 > 「ページ・グループ」 > 「新規ページ・グループの作成」を選択します。
  - a) 「ページ・ルール」タブで、「ページ ID」を指定します。
  - b) 「デフォルト・コンテナ」タブで、ページ・グループに属するページに対して実行したいタグを選択します。また、必須の JavaScript ロケーションも追加します。
  - c) 「タグ・ルール」タブで、ページ・グループ用に構成したタグを実行する必要があるかを判別する追加ロジックを指定します。
  - d) 「コード・スニペット」タブで、ページ・グループ内のページに実行するスニペットを選択します。これはオプションです。  
[27 ページの『ページ・グループの作成』](#)を参照してください。
6. 「テスト」環境にページ・グループをデプロイします。  
[29 ページの『ページ・グループのデプロイメント』](#)を参照してください。
7. ページをテストします。  
[52 ページの『テスト・ツールを使用してページをテストする』](#)を参照してください。
8. テストが成功したら、そのページ・グループを「プロダクション」環境にデプロイします。  
[29 ページの『ページ・グループのデプロイメント』](#)を参照してください。

### HTML スクリプト・ブロックの要件

Web ページのコーディングの要件

- ページの `<head>` セクションの `<script>` 内にある `eluminate.js` というデータ収集ライブラリーを参照します。
- 例に示すように、ページの `<head>` セクションの `<script>` ブロック内で `cmSetClientID()` 呼び出しを参照します。
- ページの `<head>` セクションの `<script>` 内で `digitaldata` オブジェクトを定義します。JavaScript オブジェクト名に入力される値は、タグ構成内の「オブジェクト名」フィールドに入力されているとおりに、ページ上に存在している必要があります。
- デプロイメントにデフォルトの JavaScript オブジェクト・ページ ID を使用している場合は、DDX ページ・グループ・ルールが評価できるように各 Web ページに `pageInstanceID` 値を定義してください。

次の例は、Digital Analytics が使用する標準値を含む IBM Digital Analytics ページ・ビュー・タグと、サンプル・データが設定されたすべてのパラメーターを示しています。

```
<HEAD><TITLE></TITLE>
<script type="text/javascript" src="//libs.coremetrics.com/eluminate.js"></script>
<script type="text/javascript">
  cmSetClientID("69999999 or 59990000|siteid", false, "testdata.coremetrics.com",
    "yoursite.com"); //send data to test reporting.
</script>
<script type="text/javascript"> digitalData = { page:{pageInfo:
  {pageID:'UNIQUE PAGE ID VALUE',onsiteSearchTerm:",onsiteSearchResults:"},
  category:{primaryCategory:"},attributes:{exploreAttributes:",ExtraFields:"}},
  pageInstanceID:'standard-page' };
```

```
</script>  
</HEAD>
```

## IBM 認定パートナー・タグをデプロイするためのクイック・スタート・ワークフロー

このワークフローを使用して、IBM 認定パートナー・タグを速やかに実装します。

### 手順

1. プロダクション ID を使用して、Digital Data Exchange にログインします。
2. カスタム認定パートナーのタグを作成します。
  - a) 「タグ」 > 「認定パートナーのタグ」をクリックします。
  - b) 認定パートナーのリストからパートナーを選択します。
  - c) タグの種類を選択します。
  - d) タグ名をクリックして、タグ・フィールドを編集します。
3. ページ・グループを作成します。「資産」 > 「ページ・グループ」を選択し、「新規ページ・グループの作成」をクリックします。
  - a) 「名前およびコンテナ」タブで、以下を実行します。
    - ・ 固有のページ・グループ名を指定します。
    - ・ ページ・グループ・カテゴリを選択するか、そのページ・グループに新規カテゴリを作成します。
    - ・ ページ・グループのタグをページの <head> セクションで実行する必要がある場合、「ヘッド」を「ページ・グループ・コンテナ」として選択します。そうでない場合は、「デフォルト」を選択します。
  - b) 「ページ・ルール」タブに、ページに適用する必要があるタグに基づいて、どのページ・グループを相互に関連付けするかを判別するロジックを、固有ページ識別子オブジェクトを使用して指定します。
  - c) 「デフォルトのコンテナ・タグ」タブで、前に作成したカスタム・タグを選択します。「使用可能なベンダー・タグ」リストから「選択したベンダー・タグ」リストにタグを移動します。  
作成したタグが「デフォルトのコンテナ・タグ」タブで使用できない場合は、「名前およびコンテナ」タブの「ページ・グループ・コンテナ」に正しい値を選択していることを確認してください。
  - d) 新規ページ・グループを保存します。  
[27 ページの『ページ・グループの作成』](#)を参照してください。
4. ページ・グループをテストまたはプロダクションにデプロイします。「テスト」にデプロイされるパートナー・タグは、テスト・レポートにリダイレクトされる Digital Analytics タグとは異なり、実際のパートナー・プロダクション・タグを送信します。  
[29 ページの『ページ・グループのデプロイメント』](#)を参照してください。
5. ターゲット Web ページを更新して、データをパートナー・タグ・フィールドに受け渡すためのパートナー・タグのソース・コードを組み込みます。
6. テスト・ツールを使用してテスト Web ページをテストします。テストを実行するには、「デプロイメント」 > 「テスト・ツール」を使用します。
  - ・ ターゲット Web ページの URL を「開始テスト・ページの URL」フィールドに貼り付けます。
  - ・ 「単一テスト・ウィンドウ」と「タグ・データの表示および送信」を選択します。
  - ・ 「テストを開始」をクリックします。
  - ・ ブラウザーの開発ツールまたは HTTP/HTTPS 要求ログ・ビューアーを使用して、パートナー・タグが送信されることを確認します。

Digital Data Exchange テスト・ツールを使用して、ページ・グループ・デプロイメントが成功したかどうかを確認できます。

[29 ページの『ページ・グループのデプロイメント』](#)を参照してください。

# IBM Digital Data Exchange API

## API の使用

IBM Digital Data Exchange Digital Analytics API は、Digital Data Exchange のアプリケーションの 1 つです。この API を使用すると、生成される URL を介して、要求されたデータを返す API 呼び出しを要求できます。

API にアクセスできるのは、アカウントが IBM Digital Analytics 用にプロビジョンされており、Digital Data Exchange API への権限が付与されたユーザー・ロールに属している場合のみです。また、アクセスは特定のデータ・イベント・タイプに制限されている場合があります。ユーザー許可についてご不明な点がある場合は、システム管理者にお問い合わせください。

### API フィード

API 要求は、一連の標準のデータ・イベント・タイプ (例えば、コンバージョン・イベント、ページ・ビュー・イベント、カート・イベント、または購入イベント) に基づいて Digital Data Exchange で構成します。オプションで、必要なデータのみを返すよう、要求をフィルタリングできます。

独自の API 要求を構成して、保存された API フィードとして保存して別名設定された URL を生成するか、構成を保存せずにすぐに使用するために URL を生成することができます。さらに、イベント・タイプごとに基本構成を提供するベスト・プラクティス API フィードを活用することもできます。

### 保存された API フィードの作成

名前を付けて保存して、いつでも再利用できる API 要求を構成するには、以下の手順に従ってください。

#### 手順

1. 「**API**」 > 「**API フィード**」をクリックします。
2. 「**新規 API フィードの作成**」をクリックします。
3. 「**保存されたビュー API フィードの作成**」を選択してから、「**OK**」をクリックします。
4. 保存された API フィードの名前を入力します。
5. データを抽出するデータ・イベントのタイプについて詳細を指定します。
  - a) 返されるデータのフォーマットを選択します。
  - b) 返されるデータの言語を選択します。
  - c) API 要求用にデータ・イベントのタイプを選択します。
6. 「**使用可能なデータ・フィールド**」リストから抽出するデータ・フィールドを選択し、それらを「**選択したデータ・フィールド**」リストに移動します。

選択しない場合、デフォルトでは、選択されたデータ・イベント・タイプに関連付けられたすべてのデータ・フィールドがデータ要求に含まれます。
7. オプションで、API 要求で返されるコンテンツを制限するフィルター条件を追加します。
8. オプションで、「**ロード ID**」をクリックするか、「**ロード ID 要求 URL**」をコピーしてブラウザのアドレス・バーに貼り付けて、使用可能な最新のロード ID を取得します。
9. API フィードの構成が終了したら、「**保存**」をクリックします。

保存された API フィードの URL が示された「**別名設定されたフィードの URL**」ダイアログが表示されます。
10. この URL をコピーしてブラウザのアドレス・バーに貼り付けて、抽出したデータにアクセスします。
11. 「**OK**」をクリックし、ダイアログを閉じます。

「**API フィード**」ページに戻り、保存された API フィードがテーブルに追加されます。

### 保存された API フィードの編集

いつでも保存された API フィードを変更するには、以下の手順に従ってください。保存された API フィードは、システムのすべてのユーザーと共有されます。自分が作成した API フィードを他のユーザーが変更または削除できることに注意してください。

#### 手順

1. 「API」 > 「API フィード」をクリックします。
2. 編集する API フィードを見つけます。
3. API フィード名をクリックします。
4. 変更を行います。
5. 「保存」をクリックします。

### 保存された API フィードの削除

保存された API フィードを削除するには、以下の手順に従ってください。保存された API フィードは、システムのすべてのユーザーと共有されます。自分が作成した API フィードを他のユーザーが変更または削除できることに注意してください。

#### 手順

1. 「API」 > 「API フィード」をクリックします。
2. 削除する保存された各 API フィードのチェック・ボックスを行で選択します。
3. 「選択した API フィードの削除」をクリックします。
4. 「はい」をクリックして削除することを確認します。

### 保存された API フィードを使用したデータのフェッチ

保存された API フィードに関連付けられたデータをフェッチするには、以下の手順に従ってください。

#### 手順

1. 「API」 > 「API フィード」をクリックします。
2. データは 2 つの方法で取得できます。データをフェッチする API フィードで、以下のようになります。
  - 「操作」列で「データのフェッチ」アイコン () をクリックします。
  - 「フィードの URL」列でリンクされた URL をクリックしてから、「別名設定されたフィードの URL」ダイアログから URL をコピーして、ブラウザのアドレス・フィールドに貼り付けます。

API フィード・データは、要求されたフォーマットでダウンロードできます。

### API 出力のフィルター処理

API 要求にフィルター条件を指定するには、以下の手順に従ってください。API 要求を作成する際に、返される内容を制限するためのフィルターを作成できます。フィルター条件は、要求に対して選択したデータ・イベント・タイプに固有です。

#### 手順

1. 「API」 > 「API フィード」をクリックします。
2. 既存の API フィードを開くか、「新規 API フィードの作成」をクリックします。
3. 「API フィード構成 (API feed configuration)」ページで、API 要求で返したいデータ・フィールドを選択した後、「フィルターに条件を追加」リンクをクリックします。
4. 少なくとも 1 つの条件を API データ要求のフィルタリング用に追加します。
5. フィルター条件の指定が終了したら、保存されたフィードの場合は「保存」、保存されていない API 要求の場合は「API URL の生成」をクリックします。  
結果の API URL には、フィルター条件を満たしたデータのみが含まれます。保存された API フィードの編集時に、新規データ・イベント・タイプを選択するとフィルター条件はリセットされます。ただし、「保存」をクリックするまで変更は保存されません。

## ベスト・プラクティス API フィードの使用

ベスト・プラクティス API フィードは、既存の事前選択されたデータ・フィールドとともに使用するか、変更することができます。変更したベスト・プラクティス・フィードは名前変更して、保存された API フィードとして保存することができます。

### 手順

1. 「API」 > 「ベスト・プラクティス API フィード」をクリックします。
2. API 要求を行うために使用するベスト・プラクティス・フィードの名前または行をクリックします。
3. 「URL の生成」ダイアログで、API 要求の詳細を指定します。
  - a) 返されるデータのフォーマットを選択します。
  - b) 返されるデータの言語を選択します。
4. 「選択したデータ・フィールド」の事前選択されたリストに変更を加えます。
5. オプションで、API 要求で返されるコンテンツを制限するフィルター条件を追加します。
6. オプションで、「ロード ID」をクリックするか、「ロード ID 要求 URL」をコピーしてブラウザのアドレス・バーに貼り付けて、使用可能な最新のロード ID を取得します。
7. API フィードの構成が終了したら、「API URL の生成」をクリックします。URL が生成され、ページの下部に表示されます。
8. 「データのフェッチ」をクリックするか、URL をコピーしてブラウザのアドレス・バーに貼り付けて、抽出したデータにアクセスします。
9. このベスト・プラクティス・フィードから API URL を生成し終わったら、「閉じる」をクリックするか、「名前を付けて保存」をクリックして構成したベスト・プラクティス・フィードを保存された API フィードとして保存します。

### 生成される URL のフォーマット

Digital Data Exchange API インターフェースによって生成される URL のフォーマットは、このトピックに記載されている構造に従っています。

API インターフェースは、構成したレポート・データに基づいて URL を生成します。例えば、同じ API 呼び出しをさまざまな間隔で繰り返し行うことができるように、URL を変更してクエリを操作することができます。

基本 URL 構造は、`https://welcome.coremetrics.com/analyticswebapp/api/1.0/report-data/ddx/`で、後に以下が続きます。

1. データ・イベント・タイプ (例えば、`orders.ftl`、`cookielogins.ftl`)
2. クライアント ID
3. レポートを要求するユーザーのユーザー名
4. レポート・ファイル・フォーマット (`xls`、`csv`、`xml`、または `json`)
5. 認証鍵 (API によって自動生成されます)
6. 言語およびロケール ID (例えば、中国語 (簡体字) は `zh_CN`、英語 (英国) は `en_UK`、ドイツ語 (ドイツ) は `de_DE` です)
7. 表示 ID (例えば、`default.ftl`)
8. ロード ID およびその他のデータ・フィルター
9. 選択した指標 (データ・フィールド)

### URL の例

この例では、見やすさのために URL を複数行に分けています。実際の URL に改行はありません。

```
https://welcome.coremetrics.com:8080/analyticswebapp/api/1.0/  
/report-data/ddx/orders.ftl?clientId=<clientid>&username=<userid>  
&format=xls&userAuthKey=<authKey>&language=en_US&viewID=default.ftl  
&metrics=CLIENT_ID,CLIENT_ORDER_NUMBER,EVENT_DATE,LOAD_ID,ORDER_TOTAL
```

## 保存されていないフィードの URL の作成

API フィード構成を保存せずに、すぐに使用するための URL を生成します。データ要求またはロード ID を変更するには、URL を再生成する必要があります。

### 手順

1. サイド・ナビゲーション枠で、「API」>「API フィード」をクリックします。
2. 「API フィード」 ページで、「新規 API フィードの作成」をクリックします。
3. 「保存されていないフィードの URL の作成」を選択してから、「OK」をクリックします。
4. データを抽出するデータ・イベントのタイプについて詳細を指定します。
  - a) 返されるデータのフォーマットを選択します。
  - b) 返されるデータの言語を選択します。
  - c) API 要求用にデータ・イベントのタイプを選択します。
5. 「使用可能なデータ・フィールド」リストから抽出するデータ・フィールドを選択し、それらを「選択したデータ・フィールド」リストに移動します。

選択しなければ、デフォルトでは、選択されたデータ・イベント・タイプに関連付けられたすべてのデータ・フィールドがデータ要求に含まれます。
6. オプションで、API 要求で返されるコンテンツを制限するフィルター条件を追加します。
7. オプションで、「ロード ID」をクリックするか、「ロード ID 要求 URL」をコピーしてブラウザのアドレス・バーに貼り付けて、使用可能な最新のロード ID を取得します。
8. API フィードの構成が終了したら、「API URL の生成」をクリックします。URL が生成され、ページの下部に表示されます。
9. 「データのフェッチ」をクリックするか、URL をコピーしてブラウザのアドレス・バーに貼り付けて、抽出したデータにアクセスします。
10. API URL の生成が終了したら、「閉じる」をクリックします。

### 次のタスク

データ要求またはロード ID を変更する場合、新規 URL を生成します。

### API 要求のトラブルシューティング

以下では、API 要求を実行依頼したときに発生する可能性のあるエラーをリストします。

API 要求の結果 (例)	エラーの説明
<pre>{ "errorCodes":   [ "INVALID_LOAD_ID",     "lastloadid": "1333125300",     "minloadid": "1332776700" ] }</pre>	getLoadIdsAfter パラメーターに指定されたロード ID が、データベースの中で見つかりませんでした。応答には、minloadid (データベース内で最も古いロード ID) と lastloadid (データベース内で見つかった最新のロード ID) が含まれます。
<pre>{ "loadids": [] }</pre>	getLoadIdsAfter パラメーターにロード ID が指定されていませんでした。
<pre>{ "errorCodes":   [ "USER_AUTHENTICATION     _FAILED" ] }</pre>	ユーザー名が間違っているか見つかりませんでした。あるいは、認証鍵が無効であるか見つかりませんでした。
<pre>{ "errorCodes":   [ "API_USER_AUTHENTICATION     _FAILED" ] }</pre>	クライアント ID が間違っているか見つかりませんでした。 注: Digital Data Exchange API に対してクライアント ID が有効になっていなければ、API 要求を行うことはできません。
<pre>{ "errorCodes":   [ "INVALID_LOAD_ID" ] }</pre>	指定されたロード ID は整数ではありませんでした。

API 要求の結果 (例)	エラーの説明
<code>{"loadid":null}</code>	データベース内にロード ID がありません。
<code>{"errorCodes": ["PLEASE_CONTACT_CUSTOMER_SUPPORT"]}</code>	認証にもロード ID 検証にも関連しないエラーが発生しました。お客様サポートに連絡してください。

### ベスト・プラクティス API フィード

ベスト・プラクティス API フィードは、データ・イベント・タイプ (カート・イベント、購入イベント、コンバージョン・イベント、注文イベントなど) ごとに事前構成されたフィードです。

各ベスト・プラクティス・フィードでは、最もよく使用されるデータ・フィールドが既に選択されています。必要なデータを提供するようにフィードを構成してから、別名設定された URL を生成します。ベスト・プラクティス・フィードへの変更は保存できませんが、独自の保存された API フィードとして保存することができます。

### ベスト・プラクティス・カート放棄登録 API フィード

ベスト・プラクティス・カート放棄登録 API フィードは、登録データおよびカート放棄データと結合するときに、最後に提供された登録 ID を使用します。

登録 ID の重複エントリは無視されます。カート放棄フィードは、その訪問からの最後に認識された値のみを呼び出します。

### ロード ID

開始する前に、データ収集とロード ID が、Digital Data Exchange API でどのように機能するのかを理解しておく必要があります。

一部のデータ・イベント・タイプは、それらに関連付けられた訪問が完了するまで完全なデータを返しません。例えば、ページ・ビューのイベント・データは、そのイベントが発生すると同時に、訪問者が現行の訪問を終了する前に収集できます。しかし、購入イベント・データまたはカート放棄イベント・データは完了した訪問のデータから計算する必要があるため、それらのイベント・データは訪問が完了するまで送信されません。API 要求を行うと、返されるデータには完了したイベントのみが含まれます。

API 要求は、現在のロード ID の前の 8 日間のロード ID に関連付けられたデータを返すよう構成できます。8 日より前のロード ID のデータは使用できません。

収集されたデータは、5 分おきにデータベースにロードされます。それぞれの新規のデータのバッチは、固有のロード ID で識別されます。ロード ID は、そのデータのバッチを処理したシステムによって割り当てられた番号です。ロード ID は、一定量の新規のデータのバッチごとに増分し、そのロードに含まれる最終バッチ・エポック時間の値によって定義されます。エポック・コンバージョンについては、URL <http://www.epochconverter.com/epoch/timezones.php> を参照してください。

API 要求を行うときに、ロード ID は、API 要求 URL 中のパラメーターとして必要です。ある期間にわたってデータを連続して取得するには、連続的に増分するロード ID を持つ API 要求 URL を渡すために反復プロセスを作成する必要があります。

ロード ID は、フィルター処理の目的で、API からデータを要求するために使用できます。また、ロード ID は、最新データを継続的に更新するために、API 呼び出し内でプログラマチックにデータを要求するためにも使用できます。

### ロード ID を使用したフィルター処理

ロード ID は、要求されているデータのバッチを識別し、API 要求 URL 内の必須パラメーターです。

### 手順

1. 要求する一群のデータを表すロード ID を取得します。
2. API 要求 URL を変更します。これは、URL の最後に、文字列 `&filter=load_id+eq+nnnnnnnnnn` を追加して変更します。ここで、nnnnnnnnnn は、ロード ID 番号です。

## 例: ロード ID が 1335478800 のデータのみを要求する

ロード ID 1335478800 に関連付けられたデータの要求に使用する URL は、次のようになります。

```
https://welcome.coremetrics.com:8080/analyticswebapp/api/1.0//report-data/  
ddx/carts.ftl?clientId=<clientid>&username=<userid>&format=xls  
&userAuthKey=<authKey>&language=en_US&viewID=default.ftl  
&filter=load_id+eq+1335478800
```

## すべての有効なロード ID の取得

レポート・データが含まれているすべてのロード ID のリストを取得するには、getAllLoadIds API 要求を行います。

### 手順

1. 「API」 > 「API フィールド」 をクリックします。
2. 既存の API フィールドを開くか、「新規 API フィールドの作成」 をクリックします。
3. 保存された API フィールドまたは保存されていない API フィールドの「API フィールド構成 (API feed configuration)」 ページで、ロード ID 要求 URL をコピーします。ロード ID 要求 URL の形式は次のとおりです。http://welcome.coremetrics.com/analyticswebapp/api/1.0/getLastLoadId?userAuthKey=<authKey>&clientId=<clientid>&username=<userid>
4. getLastLoadId パラメーターを getAllLoadIds と置き換えます。
5. URL をプログラマチックに使用するか、単に、Web ブラウザーのアドレス・フィールドに貼り付けます。

すべての有効なロード ID は次の形式で返されます。

```
{"loadids":["nnnnnnnnn1","nnnnnnnnn2","nnnnnnnnn3"]}
```

ここで、nnnnnnnnn1、nnnnnnnnn2、および nnnnnnnnn3 は、固有のロード ID です。

## 指定されたロード ID の次のロード ID の取得

指定されたロード ID の後に生成された、すべての使用可能なロード ID を取得するには、getLoadIdsAfter API 要求を行います。

### 手順

1. 「API」 > 「API フィールド」 をクリックします。
2. 既存の API フィールドを開くか、「新規 API フィールドの作成」 をクリックします。
3. 保存された API フィールドまたは保存されていない API フィールドの「API フィールド構成 (API feed configuration)」 ページで、ロード ID 要求 URL をコピーします。ロード ID 要求 URL の形式は次のとおりです。http://welcome.coremetrics.com/analyticswebapp/api/1.0/getLastLoadId?userAuthKey=<authKey>&clientId=<clientid>&username=<userid>
4. getLastLoadId パラメーターを getLoadIdsAfter と置き換えます。
5. ロード ID &load\_id=nnnnnnnnnn を追加します。

getLoadIdsAfter API 要求を行うために使用される URL の正しい形式については、次の例を参照してください。

6. URL をプログラマチックに使用するか、単に、Web ブラウザーのアドレス・フィールドに貼り付けます。

指定したロード ID の後に生成された、使用可能なロード ID は、次の形式で返されます。

```
{"loadids":["nnnnnnnnn1","nnnnnnnnn2","nnnnnnnnn3"]}
```

ここで、nnnnnnnnn1、nnnnnnnnn2、および nnnnnnnnn3 は、固有のロード ID です。

## 例: ロード ID 1333581000 を指定した getLoadIdsAfter

ロード ID 133358100 の後に使用可能な ロード ID を取得するために使用する URL は次のようになります。

```
http://welcome.coremetrics.com/analyticswebapp/api/1.0/getLoadIdsAfter?userAuthKey=<authKey>&clientId=<clientid>&username=<userid>&load_id=1333581000
```

## 最新のロード ID の取得

最新のロード ID は、ユーザー・インターフェースから、あるいは、API 要求を行うことで取得できます。

### ユーザー・インターフェースから

1. 「API」 > 「API フィード」 をクリックします。
2. 既存の API フィードを開くか、「新規 API フィードの作成」 をクリックします。
3. 保存された API フィードと保存されていない API フィードの両方の「API フィード構成 (API feed configuration)」 ページの右上隅に、最新のロード ID が表示されます。「ロード ID」 をクリックするたびに「ロード ID」 フィールドが更新され、最新の使用可能なロード ID が表示されます。

### GetLastLoadID API 要求を行う

1. 「API」 > 「API フィード」 をクリックします。
2. 既存の API フィードを開くか、「新規 API フィードの作成」 をクリックします。
3. 保存された API フィードまたは保存されていない API フィードの「API フィード構成 (API feed configuration)」 ページで、ロード ID 要求 URL をコピーします。ロード ID 要求 URL の形式は次のとおりです。

```
http://welcome.coremetrics.com/analyticswebapp/api/1.0/getLastLoadId?userAuthKey=<authKey>&clientId=<clientid>&username=<userid>
```

4. URL をプログラマチックに使用するか、単に、Web ブラウザーのアドレス・フィールドに貼り付けます。

最新の使用可能なロード ID 番号が、次の形式で返されます。

{ "loadid": "nnnnnnnnnn" } ここで、nnnnnnnnnn は、ロード ID 番号です。

## レポート

Digital Data Exchange API 使用レポートには、レポートで選択した一定の期間に API に対して行われた要求のリストが表示されます。要求ごとに、日時、データ・イベント・タイプ、ユーザー名、要求 IP アドレス、および返されたレコード数が表示されます。

### API 使用レポート

Digital Data Exchange API 使用レポートには、レポートで選択した一定の期間に API に対して行われた要求のリストが表示されます。

API 使用レポートにより以下が示されます。

- 日時
- データ・イベント・タイプ
- ユーザ名
- 要求 IP アドレス
- 返されたレコードの数

以下を実行できます。

- 特定の項目を検索するには、「テーブル内を検索」 フィールドに検索テキストを入力します。
- 各列を昇順または降順にソートするには、各列見出しの隅にある矢印をクリックします。

- ・「期間」コントロールを使用して、レポート内に表示されるデータをフィルタリングします。「レポート・オプション」をクリックして、カレンダー・オプションおよびフィルター・オプションにアクセスすることもできます。

### API レポートのフォーマット

Digital Data Exchange API は、レポートを以下のフォーマットで返します。

#### XLS

レポート・ファイルは、\*.xls で、download.xls という名前になります。

#### CSV

レポート・ファイルは、\*.csv で、download.csv という名前になります。

#### XML

ブラウザ内に XML フォーマット・データが設定された Web ページが返されます。

#### JSON

ブラウザ内に JSON フォーマット・データが設定された Web ページが返されます。

## Digital Data Exchange API データ・フィールド・リファレンス

Digital Data Exchange API の各種データ・イベント・タイプ・レポートで使用可能なデータ・フィールドを以下の表にリストします。各データ・フィールドについて、データ型、最大文字数、説明、および指標名が示されています。

### カート・イベント

データ・フィールド	データ型 (char 型)	説明	指標
基本価格	数値 (16,2)	アイテムの価格	BASE_PRICE
クライアント ID	数値 (8,0)	8 桁のクライアント ID	CLIENT_ID
Cookie ID	数値 (30,0)	永続 Cookie ID。訪問者のコンピュータの固有 ID として機能します。	COOKIE_ID
イベントの日付	タイム・ゾーンなしのタイム・スタンプ	データを受信した時刻。	EVENT_DATE
時間 ID	数値 (2,0)	データを受信した時間。	HOURL_ID
ロード ID	数値	API ロード ID	LOAD_ID
プロダクト ID	VARCHAR (256)	カートに入ったアイテムの固有のユーザー ID。	PRODUCT_ID
プロダクト名	VARCHAR (256)	カートに入ったアイテムの名前。	PRODUCT_NAME
プロダクト数	数値 (8,0)	カートに入ったアイテムの数量。	PRODUCT_QUANTITY
訪問 ID	数値 (38,0)	訪問者の訪問の Cookie 値。	SESSION_ID
ショッピング属性カート・イベント・フィールド 1 から 50	VARCHAR (256)	Explore 即時レポートのために渡されたユーザー値。値と注文はユーザーによって決定されません。	RPT_ATTRIBUTE_1、RPT_ATTRIBUTE_2、... RPT_ATTRIBUTE_50
サイト ID	VARCHAR (256)	Enterprise Analytics サイト ID。	SITE_ID
サイトのロケーション ID	VARCHAR (256)	カテゴリ定義ファイル内にあるプロダクトのカテゴリ ID。	SITE_LOCATION_ID

データ・フィールド	データ型 (char 型)	説明	指標
サイトのロケーション名	VARCHAR (256)	カテゴリ定義ファイル内にあるプロダクトのカテゴリ名。	SITE_LOCATION_ID

### コンバージョン・イベント

データ・フィールド	データ型 (char 型)	説明	指標
クライアント ID	数値 (8,0)	8 桁のクライアント ID	CLIENT_ID
コンバージョン・イベント・アクションの種類	数値 (2,0)	イベント・アクションのタイプ。ここで、1 は「開始」で、2 は「終了」です。	CONVERSION_EVENT_ACTION_TYPE
コンバージョン・イベント属性フィールド 1 から 50	VARCHAR (256)	Explore 即時レポートのために渡されたユーザー値。値と注文はユーザーによって決定されます。	RPT_ATTRIBUTE_1、RPT_ATTRIBUTE_2、... RPT_ATTRIBUTE_50
コンバージョン・イベント・カテゴリ	VARCHAR (256)	コンバージョン・イベント・グループのユーザー提供のカテゴリ。	CONVERSION_EVENT_CATEGORY
コンバージョン・イベント ID	VARCHAR (256)	コンバージョン・イベントのユーザー提供の固有 ID。	CONVERSION_EVENT_ID
コンバージョン・イベント・ポイント	数値 (8,0)	レポートにおけるコンバージョン・イベントの加重のユーザー提供の値。	CONVERSION_EVENT_POINTS
Cookie ID	数値 (30,0)	永続 Cookie ID。訪問者のコンピューターの固有 ID として機能します。	COOKIE_ID
イベントの日付	タイム・ゾーンなしのタイム・スタンプ	データを受信した時刻。	EVENT_DATE
時間 ID	数値 (2,0)	データを受信した時間。	HOURL_ID
ロード ID	数値	API ロード ID	LOAD_ID
訪問 ID	数値 (38,0)	訪問者の訪問の Cookie 値。	SESSION_ID
サイト ID	VARCHAR (256)	Enterprise Analytics サイト ID。	SITE_ID

### Cookie ログイン

データ・フィールド	データ型 (char 型)	説明	指標
クライアント ID	数値 (8,0)	8 桁のクライアント ID	CLIENT_ID
Cookie ID	数値 (30,0)	永続 Cookie ID。訪問者のコンピューターの固有 ID として機能します。	COOKIE_ID
離脱ページ ID	VARCHAR (256)	訪問で最後にタグ付けされたページのページ ID。	DEPARTURE_PAGE_ID
離脱サイトのロケーション ID	VARCHAR (256)	訪問で最後にタグ付けされたページのカテゴリ ID。	DEPARTURE_PAGE_SITE_LOC_ID

データ・フィールド	データ型 (char 型)	説明	指標
宛先 URL	VARCHAR (1024)	訪問で最初にタグ付けされたページ URL の DOM 値。	DESTINATION_URL
エントリー・ページ ID	VARCHAR (256)	訪問の最初にタグ付けされたページのページ ID。	ENTRY_PAGE_ID
エントリー・サイトのロケーション ID	VARCHAR (256)	訪問で最初にタグ付けされたページの 카테고리 ID。	ENTRY_SITE_LOC_ID
イベントの日付	タイム・ゾーンなしのタイム・スタンプ	データを受信した時刻。	EVENT_DATE
初回訪問フラグ	VARCHAR (1)	新規訪問者フラグ。	FIRST_VISIT_FLAG
時間 ID	数値 (2,0)	データを受信した時間。	HOUR_ID
IP アドレス	VARCHAR (256)	訪問者の IP アドレス。	IP_ADDRESS
ロード ID	数値	API ロード ID	LOAD_ID
MMC フラグ	VARCHAR (1)	MMC 帰因訪問とみなされます。	MMC_FLAG
参照名	VARCHAR (256)	参照元ソースの名前。	REFERRAL_NAME
参照タイプ	VARCHAR (1)	リファラーのタイプ。	REFERRAL_TYPE
参照元 URL	VARCHAR (1024)	参照元サイトの URL	REFERRAL_URL
検索リンク	VARCHAR (1024)	検索エンジンのリンク	SEARCH_LINK
検索語	VARCHAR (256)	検索エンジンの検索語	SEARCH_WORD
訪問 ID	数値 (38,0)	訪問者の訪問の Cookie 値。	SESSION_ID
訪問あたりのページ・ビュー回数	数値 (10,0)	訪問あたりのページ・ビュー回数	SESSION_PAGE_VIEWS
訪問あたりの滞在時間	数値 (6,0)	訪問期間	SESSION_TIME_SPENT
ユーザー・エージェント	VARCHAR (256)	ユーザー・エージェント文字列	USER_AGENT

### エレメント・イベント

データ・フィールド	データ型 (char 型)	説明	指標
クライアント ID	数値 (8,0)	8 桁のクライアント ID	CLIENT_ID
Cookie ID	数値 (30,0)	永続 Cookie ID。訪問者のコンピュータの固有 ID として機能します。	COOKIE_ID
エレメント属性フィールド 1 から 50	VARCHAR (256)	Explore 即時レポートのために渡されたユーザー値。値と注文はユーザーによって決定されます。	RPT_ATTRIBUTE_1、 RPT_ATTRIBUTE_2、... RPT_ATTRIBUTE_50
エレメント・カテゴリー	VARCHAR (50)	エレメント・カテゴリー。	ELEMENT_CATEGORY
エレメント ID	VARCHAR (50)	固有のエレメント ID	ELEMENT_ID

データ・フィールド	データ型 (char 型)	説明	指標
イベントの日付	タイム・ゾーンなしのタイム・スタンプ	データを受信した時刻。	EVENT_DATE
時間 ID	数値 (2,0)	データを受信した時間。	HOUR_ID
ロード ID	数値	API ロード ID	LOAD_ID
訪問 ID	数値 (38,0)	訪問者の訪問の Cookie 値。	SESSION_ID
サイト ID	VARCHAR (256)	Enterprise Analytics サイト ID。	SITE_ID

### アイテム放棄イベント

データ・フィールド	データ型 (char 型)	説明	指標
基本価格	数値 (16,2)	アイテムの価格	BASE_PRICE
クライアント ID	数値 (8,0)	8 桁のクライアント ID	CLIENT_ID
Cookie ID	数値 (30,0)	永続 Cookie ID。訪問者のコンピューターの固有 ID として機能します。	COOKIE_ID
イベントの日付	タイム・ゾーンなしのタイム・スタンプ	データを受信した時刻。	EVENT_DATE
時間 ID	数値 (2,0)	データを受信した時間。	HOUR_ID
ロード ID	数値	API ロード ID	LOAD_ID
プロダクト ID	VARCHAR (256)	カートに入ったアイテムの固有のユーザー ID。	PRODUCT_ID
プロダクト名	VARCHAR (256)	カートに入ったアイテムの名前。	PRODUCT_NAME
プロダクト数	数値 (8,0)	カートに入ったアイテムの数量。	PRODUCT_QUANTITY
訪問 ID	数値 (38,0)	訪問者の訪問の Cookie 値。	SESSION_ID
ショッピング属性アイテム放棄イベント・フィールド 1 から 50	VARCHAR (256)	Explore 即時レポートのために渡されたユーザー値。値と注文はユーザーによって決定されます。	RPT_ATTRIBUTE_1、RPT_ATTRIBUTE_2、... RPT_ATTRIBUTE_50
サイト ID	VARCHAR (256)	Enterprise Analytics サイト ID。	SITE_ID
サイトのロケーション ID	VARCHAR (256)	カテゴリ定義ファイル内にあるプロダクトのカテゴリ ID。	SITE_LOCATION_ID
サイトのロケーション名	VARCHAR (256)	カテゴリ定義ファイル内にあるプロダクトのカテゴリ名。	SITE_LOCATION_ID

### アイテム購入イベント

データ・フィールド	データ型 (char 型)	説明	指標
基本価格	数値 (16,2)	アイテムの価格	BASE_PRICE
クライアント ID	数値 (8,0)	8 桁のクライアント ID	CLIENT_ID

データ・フィールド	データ型 (char 型)	説明	指標
Cookie ID	数値 (30,0)	永続 Cookie ID。訪問者のコンピュータの固有 ID として機能します。	COOKIE_ID
イベントの日付	タイム・ゾーンなしのタイム・スタンプ	データを受信した時刻。	EVENT_DATE
時間 ID	数値 (2,0)	データを受信した時間。	HOUR_ID
ロード ID	数値	API ロード ID	LOAD_ID
プロダクト ID	VARCHAR (256)	カートに入ったアイテムの固有のユーザー ID。	PRODUCT_ID
プロダクト名	VARCHAR (256)	カートに入ったアイテムの名前。	PRODUCT_NAME
プロダクト数	数値 (8,0)	カートに入ったアイテムの数量。	PRODUCT_QUANTITY
訪問 ID	数値 (38,0)	訪問者の訪問の Cookie 値。	SESSION_ID
ショッピング属性アイテム購入イベント・フィールド 1 から 50	VARCHAR (256)	Explore 即時レポートのために渡されたユーザー値。値と注文はユーザーによって決定されません。	RPT_ATTRIBUTE_1、RPT_ATTRIBUTE_2、... RPT_ATTRIBUTE_50
サイト ID	VARCHAR (256)	Enterprise Analytics サイト ID。	SITE_ID
サイトのロケーション ID	VARCHAR (256)	カテゴリ定義ファイル内にあるプロダクトのカテゴリ ID。	SITE_LOCATION_ID
サイトのロケーション名	VARCHAR (256)	カテゴリ定義ファイル内にあるプロダクトのカテゴリ名。	SITE_LOCATION_ID

### MMC クリック

データ・フィールド	データ型 (char 型)	説明	指標
クライアント ID	数値 (8,0)	8 桁のクライアント ID	CLIENT_ID
Cookie ID	数値 (30,0)	永続 Cookie ID。訪問者のコンピュータの固有 ID として機能します。	COOKIE_ID
イベントの日付	タイム・ゾーンなしのタイム・スタンプ	データを受信した時刻。	EVENT_DATE
時間 ID	数値 (2,0)	データを受信した時間。	HOUR_ID
マーケティング・プログラム属性フィールド 1 から 50	VARCHAR (256)	Explore 即時レポートのために渡されたユーザー値。値と注文はユーザーによって決定されません。	RPT_ATTRIBUTE_1、RPT_ATTRIBUTE_2、... RPT_ATTRIBUTE_50
ロード ID	数値	API ロード ID	LOAD_ID
パラメーター 1 (Parameter 1)	VARCHAR (256)	cm_mmc 引数のベンダー値	PARAMETER_1
パラメーター 2 (Parameter 2)	VARCHAR (256)	cm_mmc 引数のカテゴリ値	PARAMETER_2

データ・フィールド	データ型 (char 型)	説明	指標
パラメーター 3 (Parameter 3)	VARCHAR (256)	cm_mmc 引数のプレースメント値	PARAMETER_3
パラメーター 4 (Parameter 4)	VARCHAR (256)	cm_mmc 引数のアイテム値	PARAMETER_4
訪問 ID	数値 (38,0)	訪問者の訪問の Cookie 値。	SESSION_ID
サイト ID	VARCHAR (256)	Enterprise Analytics サイト ID。	SITE_ID

### 注文イベント

データ・フィールド	データ型 (char 型)	説明	指標
クライアント ID	数値 (8,0)	8 桁のクライアント ID	CLIENT_ID
クライアントの注文数	数値 (30,0)	クライアントの注文数	CLIENT_ORDER_NUMBER
Cookie ID	数値 (30,0)	永続 Cookie ID。訪問者のコンピューターの固有 ID として機能します。	COOKIE_ID
イベントの日付	タイム・ゾーンなしのタイム・スタンプ	データを受信した時刻。	EVENT_DATE
時間 ID	数値 (2,0)	データを受信した時間。	HOURL_ID
ロード ID	数値	API ロード ID	LOAD_ID
注文合計	数値 (16,2)	送料を除く合計注文価格	ORDER_TOTAL
注文/トランザクション属性フィールド 1 から 50	VARCHAR (256)	Explore 即時レポートのために渡されたユーザー値。値と注文はユーザーによって決定されます。	RPT_ATTRIBUTE_1、RPT_ATTRIBUTE_2、... RPT_ATTRIBUTE_50
訪問 ID	数値 (38,0)	訪問者の訪問の Cookie 値。	SESSION_ID
送料	数値 (16,2)	注文の送料	SHIPPING_CHARGES
サイト ID	VARCHAR (256)	Enterprise Analytics サイト ID。	SITE_ID
合計行数	数値 (3,0)	注文での行項目の数。	TOTAL_LINES

### ページ・ビュー・イベント

データ・フィールド	データ型 (char 型)	説明	指標
クライアント ID	数値 (8,0)	8 桁のクライアント ID	CLIENT_ID
Cookie ID	数値 (30,0)	永続 Cookie ID。訪問者のコンピューターの固有 ID として機能します。	COOKIE_ID
宛先 URL	VARCHAR (1024)	DOM から派生したページ URL。	DESTINATION_URL
イベントの日付	タイム・ゾーンなしのタイム・スタンプ	データを受信した時刻。	EVENT_DATE
時間 ID	数値 (2,0)	データを受信した時間。	HOURL_ID

データ・フィールド	データ型 (char 型)	説明	指標
ロード ID	数値	API ロード ID	LOAD_ID
サイト内検索語	VARCHAR (256)	内部サイトの検索語	ONSITE_SEARCH_WORD
ページ ID	VARCHAR (256)	レポートにおけるページの固有値。	PAGE_ID
ページ名	VARCHAR (256)	ページ名	PAGE_NAME
ページ滞在時間	数値 (6,0)	ページで費やした時間。	PAGE_TIME_SPENT
ページ・ビュー属性フィールド 1 から 50	VARCHAR (256)	Explore 即時レポートのために渡されたユーザー値。値と注文はユーザーによって決定されます。	RPT_ATTRIBUTE_1、 RPT_ATTRIBUTE_2、... RPT_ATTRIBUTE_50
参照元 URL	VARCHAR (1024)	DOM から派生した参照元 URL。	REFERRAL_URL
検索結果数	数値 (10,0)	内部検索用語に対して返された検索結果の数。	SEARCH_RESULT_COUNT
訪問 ID	数値 (38,0)	訪問者の訪問の Cookie 値。	SESSION_ID
サイト ID	VARCHAR (256)	Enterprise Analytics サイト ID。	SITE_ID
サイトのロケーション ID	VARCHAR (256)	カテゴリ定義ファイル内にあるページ・カテゴリ ID。	SITE_LOCATION_ID
サイトのロケーション名	VARCHAR (256)	カテゴリ定義ファイル内にあるページ・カテゴリ名。	SITE_LOCATION_ID

### プロダクト・ビュー・イベント

データ・フィールド	データ型 (char 型)	説明	指標
クライアント ID	数値 (8,0)	8 桁のクライアント ID	CLIENT_ID
Cookie ID	数値 (30,0)	永続 Cookie ID。訪問者のコンピュータの固有 ID として機能します。	COOKIE_ID
イベントの日付	タイム・ゾーンなしのタイム・スタンプ	データを受信した時刻。	EVENT_DATE
時間 ID	数値 (2,0)	データを受信した時間。	HOUR_ID
ロード ID	数値	API ロード ID	LOAD_ID
ページ ID	VARCHAR (256)	レポートにおけるページの固有値。	PAGE_ID
プロダクト ID	VARCHAR (256)	カートに入ったアイテムの固有のユーザー ID。	PRODUCT_ID
プロダクト名	VARCHAR (256)	カートに入ったアイテムの名前。	PRODUCT_NAME
プロダクト・ビュー属性フィールド 1 から 50	VARCHAR (256)	Explore 即時レポートのために渡されたユーザー値。値と注文はユーザーによって決定されます。	RPT_ATTRIBUTE_1、 RPT_ATTRIBUTE_2、... RPT_ATTRIBUTE_50
訪問 ID	数値 (38,0)	訪問者の訪問の Cookie 値。	SESSION_ID

データ・フィールド	データ型 (char 型)	説明	指標
サイト ID	VARCHAR (256)	Enterprise Analytics サイト ID。	SITE_ID
サイトのロケーション ID	VARCHAR (256)	カテゴリ定義ファイル内にあるプロダクトのカテゴリ ID。	SITE_LOCATION_ID
サイトのロケーション名	VARCHAR (256)	カテゴリ定義ファイル内にあるプロダクトのカテゴリ名。	SITE_LOCATION_ID

### リアル・エステート・クリック

データ・フィールド	データ型 (char 型)	説明	指標
クライアント ID	数値 (8,0)	8 桁のクライアント ID	CLIENT_ID
Cookie ID	数値 (30,0)	永続 Cookie ID。訪問者のコンピューターの固有 ID として機能します。	COOKIE_ID
イベントの日付	タイム・ゾーンなしのタイム・スタンプ	データを受信した時刻。	EVENT_DATE
時間 ID	数値 (2,0)	データを受信した時間。	HOUR_ID
ロード ID	数値	API ロード ID	LOAD_ID
パラメーター 1 (Parameter 1)	VARCHAR (256)	リンク・クエリ文字列におけるリアル・エステート引数の最初の値。	PARAMETER_1
パラメーター 2 (Parameter 2)	VARCHAR (256)	リンク・クエリ文字列におけるリアル・エステート引数の 2 番目の値。	PARAMETER_2
パラメーター 3 (Parameter 3)	VARCHAR (256)	リンク・クエリ文字列におけるリアル・エステート引数の 3 番目の値。	PARAMETER_3
パラメーター 4 (Parameter 4)	VARCHAR (256)	リンク・クエリ文字列におけるリアル・エステート引数の 4 番目の値。	PARAMETER_4
訪問 ID	数値 (38,0)	訪問者の訪問の Cookie 値。	SESSION_ID
サイト ID	VARCHAR (256)	Enterprise Analytics サイト ID。	SITE_ID

### 登録データ・アクセス

データ・フィールド	データ型 (char 型)	説明	指標
年齢	数値 (3,0)	年齢。	AGE
都市	VARCHAR (256)	都市	CITY
クライアント ID	数値 (8,0)	8 桁のクライアント ID	CLIENT_ID
Cookie ID	数値 (30,0)	永続 Cookie ID。訪問者のコンピューターの固有 ID として機能します。	COOKIE_ID
国/地域	VARCHAR (256)	国または地域	COUNTRY

データ・フィールド	データ型 (char 型)	説明	指標
学歴	VARCHAR (256)	学歴。	EDUCATION_LEVEL
E メール・アドレス	VARCHAR (256)	E メール・アドレス	EMAIL_ADDRESS
イベントの日付	タイム・ゾーンなしの タイム・スタンプ	データを受信した時刻。	EVENT_DATE
性別	CHAR (1)	性別 (M または F)	GENDER
時間 ID	数値 (2,0)	データを受信した時間。	HOURL_ID
ロード ID	数値	API ロード ID	LOAD_ID
最高所得水準	数値 (14,2)	収入の最高レベル。	MAX_INCOME_LEVEL
最低所得水準	数値 (14,2)	収入の最低レベル。	MIN_INCOME_LEVEL
登録属性フィールド 1 から 50	VARCHAR (256)	Explore 即時レポートのために 渡されたユーザー値。値と注文 はユーザーによって決定されま す。	RPT_ATTRIBUTE_1、 RPT_ATTRIBUTE_2、... RPT_ATTRIBUTE_50
登録 ID	VARCHAR (256)	ユーザーが割り当てた訪問者 ID。	REGISTRATION_ID
サイト ID	VARCHAR (256)	Enterprise Analytics サイト ID。	SITE_ID
都道府県名	VARCHAR (256)	都道府県名。	STATE
郵便番号	VARCHAR (256)	郵便番号。	ZIP_CODE

### サイト・プロモーション・クリック

データ・フィールド	データ型 (char 型)	説明	指標
クライアント ID	数値 (8,0)	8 桁のクライアント ID	CLIENT_ID
Cookie ID	数値 (30,0)	永続 Cookie ID。訪問者のコン ピューターの固有 ID として機 能します。	COOKIE_ID
イベントの日付	タイム・ゾーンなしの タイム・スタンプ	データを受信した時刻。	EVENT_DATE
時間 ID	数値 (2,0)	データを受信した時間。	HOURL_ID
ロード ID	数値	API ロード ID	LOAD_ID
パラメーター 1 (Parameter 1)	VARCHAR (256)	リンク・クエリ文字列における サイト・プロモーション引数の 最初の値。	PARAMETER_1
パラメーター 2 (Parameter 2)	VARCHAR (256)	リンク・クエリ文字列における サイト・プロモーション引数の 2 番目の値。	PARAMETER_2
パラメーター 3 (Parameter 3)	VARCHAR (256)	リンク・クエリ文字列における サイト・プロモーション引数の 3 番目の値。	PARAMETER_3
パラメーター 4 (Parameter 4)	VARCHAR (256)	リンク・クエリ文字列における サイト・プロモーション引数の 4 番目の値。	PARAMETER_4

データ・フィールド	データ型 (char 型)	説明	指標
訪問 ID	数値 (38,0)	訪問者の訪問の Cookie 値。	SESSION_ID
サイト ID	VARCHAR (256)	Enterprise Analytics サイト ID。	SITE_ID

### テクニカル・プロパティ

データ・フィールド	データ型 (char 型)	説明	指標
ブラウザ名	VARCHAR (100)	ブラウザの名前。	BROWSER_NAME
クライアント ID	数値 (8,0)	8 桁のクライアント ID	CLIENT_ID
画面の色	VARCHAR (30)	画面の色	COLOR_DEPTH
Cookie ID	数値 (30,0)	永続 Cookie ID。訪問者のコンピュータの固有 ID として機能します。	COOKIE_ID
イベントの日付	タイム・ゾーンなしのタイム・スタンプ	データを受信した時刻。	EVENT_DATE
時間 ID	数値 (2,0)	データを受信した時間。	HOURL_ID
モバイル・デバイス	VARCHAR (1)	モバイル・デバイスかどうか (Y または N)	IS_MOBILE_DEVICE
JavaScript バージョン	VARCHAR (30)	JavaScript バージョン。	JAVASCRIPT_VERSION
言語	VARCHAR (100)	言語。	LANGUAGE
ロード ID	数値	API ロード ID	LOAD_ID
モバイル Cookie サポート	VARCHAR (1)	モバイル Cookie サポート・フラグ。	COOKIE_SUPPORT
モバイル・デバイス	VARCHAR (100)	モバイル・デバイス・フラグ	DEVICE_NAME
モバイル・デバイス・マーケティング名	VARCHAR (100)	モバイル・デバイス・マーケティング名	DEVICE_MARKETING_NAME
モバイル・デバイス・モデル	VARCHAR (30)	モバイル・デバイス・モデル	DEVICE_MODEL
モバイル・デバイス・タイプ	VARCHAR (30)	モバイル・デバイス・タイプ	DEVICE_TYPE
モバイル・デバイス・ベンダー	VARCHAR (100)	モバイル・デバイス・ベンダー	DEVICE_VENDOR
モバイル Flash サポート	VARCHAR (1)	モバイル Flash サポート・フラグ	FLASH_SUPPORT
モバイル・タッチ・スクリーン	VARCHAR (1)	モバイル・タッチ・スクリーン・フラグ	TOUCH_SCREEN
モバイル・ビデオ 3GP サポート	VARCHAR (1)	モバイル・ビデオ 3GP サポート・フラグ	VIDEO_3GP_SUPPORT
モバイル・ビデオ MP4 サポート	VARCHAR (1)	モバイル・ビデオ MP4 サポート・フラグ	VIDEO_MP4_SUPPORT

データ・フィールド	データ型 (char 型)	説明	指標
モバイル・ビデオ WMV サポート	VARCHAR (1)	モバイル・ビデオ WMV サポート・フラグ	VIDEO_WMV_SUPPORT
オペレーティング・システム	VARCHAR (100)	オペレーティング・システム	OPERATING_SYSTEM
画面解像度	VARCHAR (30)	画面解像度	SCREEN_RESOLUTION
訪問 ID	数値 (38,0)	訪問者の訪問の Cookie 値。	SESSION_ID
サイト ID	VARCHAR (256)	Enterprise Analytics サイト ID。	SITE_ID
タイム・ゾーン	VARCHAR (30)	クライアントのタイム・ゾーン	TIME_ZONE

## その他の連絡先情報

製品改良のための推奨情報については、IBM (cm\_feedback@us.ibm.com) にご連絡ください。

製品に関して支援が必要な場合は、IBM Client Support Center (<https://support.ibmcloud.com>) にご連絡ください。

また、お客様の地域の IBM 営業所にご連絡いただくこともできます。

米国	
<p>IBM 1001 E Hillsdale Boulevard Foster City, CA 94402 フリー・ダイヤル: 1.866.493.2673</p>	<p>IBM Austin 11501 Burnet Road Building 905, Floor 2 Austin, TX 78758-3400 フリー・ダイヤル: 1.866.493.2673</p>
<p>IBM Dallas 750 W John Carpenter Freeway Irving, TX 75039 フリー・ダイヤル: 1.866.493.2673</p>	
ヨーロッパ	
<p>IBM United Kingdom Limited 3 Furzeground Way Stockley Park Uxbridge Middlesex UB11 1EZ U.K. 電話: 020 8867 8003</p>	<p>IBM GmbH Beim Strohhause 17 D-20097 Hamburg Germany 電話: 0800-180-2597</p>
<p>IBM France 17 Avenue de l'Europe 92275 Bois Colombes Cedex France 電話: 0800 91 4912</p>	

アジア太平洋	
<p>IBM Hong Kong Limited Silvercord Tower 2 Room 907 30, Canton Road Tsim Sha Tsui Kowloon Hong Kong SAR, China 電話: +852 8201 0823 FAX: +852 8201 0832</p>	<p>IBM Australia and New Zealand 60 Southgate Ave Southgate VIC 3006 AUSTRALIA (オーストラリア) 1800 69 CORE (ニュージーランド) 0800 69 CORE</p>

### IBM はお客様のご意見をお待ちしています

ご意見をお寄せいただくときは、次の宛先をご利用ください。

IBM Bay Area Lab  
1001 E Hillsdale Boulevard  
Foster City, California 94404  
USA

次のいずれかの方法を使用すると、電子的にご意見をお寄せいただくことができます。

フリー・ダイヤル  
1+866-493-2673

サポート・センター:  
<https://support.ibmcloud.com>

**World Wide Web:**  
[www.ibm.com/marketing-solutions/](http://www.ibm.com/marketing-solutions/)

ご意見またはコメントには、必ず次の情報を含めてください。

- 本資料のタイトル
- お客様のご意見に関連のあるページ番号またはトピック

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

## サポート

### サポート・センター

サポート・サイトには <https://support.ibmcloud.com> からアクセスすることができます。また、アプリケーション・メニュー・バーにある「サポート」リンクをクリックしてアクセスすることもできます。

サポート・センター・サイトには、以下に示すような内容が含まれています。

- **検索可能な知識ベース** 質問に対する回答を得たり、基本的な資料 (実装ガイド、指標用語集、ユーザー・ガイド、リリース・ノートなど) に簡単にアクセスしたりすることができます。
- **研修ツール Web** ベースのトレーニングやアーカイブ済みのオンライン・セミナーなど。
- **マーケティング情報** ケース・スタディー、ホワイト・ペーパー、および今後のイベント (クライアント・サミットなど) が含まれています。
- **通知** サポートからの通知です。
- **問題のトラッキング** チケットの作成から解決に至るまでの過程をトラッキングし、お客様の問い合わせの処理状況を十分に把握できるようにします。

- **フィードバック** ここから、サポート・サイトの改善に関してご提案いただくことができます。(アプリケーションに関するフィードバックは [cm\\_feedback@us.ibm.com](mailto:cm_feedback@us.ibm.com) までお寄せください)
- **チャット** ここから、当社のベスト・プラクティス担当者と同様に直接対話していただくことができます。

## 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒 103-8510

東京都中央区日本橋箱崎町 19 番 21 号

日本アイ・ビー・エム株式会社

法務・知的財産

知的財産権ライセンス 渉外

**以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。** IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

*IBM Director of Licensing IBM Corporation*

*North Castle Drive, MD-NC119*

*Armonk, NY 10504-1785 US*

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

記載されている性能データとお客様事例は、例として示す目的でのみ提供されています。実際の結果は特定の構成や稼働条件によって異なります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

表示されている IBM の価格は IBM が小売り価格として提示しているもので、現行価格であり、通知なしに変更されるものです。卸価格は、異なる場合があります。

本書はプランニング目的としてのみ記述されています。記述内容は製品が使用可能になる前に変更になる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。これらのサンプル・プログラムは特定物として現存するままの状態を提供されるものであり、いかなる保証も提供されません。IBM は、お客様の当該サンプル・プログラムの使用から生ずるいかなる損害に対しても一切の責任を負いません。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生的創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。

© Copyright IBM Corp. 2017 . All rights reserved.

## 商標

---

IBM、IBM ロゴおよび [ibm.com](http://ibm.com) は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。

## 製品資料に関するご使用条件

---

これらの資料は、以下のご使用条件に同意していただける場合に限りご使用いただけます。

### 適用される条件

IBM Web サイトの「ご利用条件」に加えて、以下のご使用条件が適用されます。

### 個人使用

これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずに、これらの資料ま

たはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布（頒布、送信を含む）または表示（上映を含む）することはできません。

## 商業的使用

これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示することはできません。

## 権利

ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入 関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。

IBM は、これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。

## プライバシー・ポリシーに関する考慮事項

サービス・ソリューションとしてのソフトウェアも含めた IBM ソフトウェア製品（「ソフトウェア・オファリング」）では、製品の使用に関する情報の収集、エンド・ユーザーの使用感の向上、エンド・ユーザーとの対話またはその他の目的のために、Cookie はじめさまざまなテクノロジーを使用することがあります。Cookie とは Web サイトからお客様のブラウザに送信できるデータで、お客様のコンピューターを識別するタグとしてそのコンピューターに保存されることがあります。多くの場合、これらの Cookie により個人情報が収集されることはありません。ご使用の「ソフトウェア・オファリング」が、これらの Cookie およびそれに類するテクノロジーを通じてお客様による個人情報の収集を可能にする場合、以下の具体的事項をご確認ください。

このソフトウェア・オファリングは、展開される構成に応じて、セッション管理、お客様の利便性の向上、または利用の追跡または機能上の目的のために、それぞれのお客様のユーザー名、およびその他の個人情報を、セッションごとの Cookie および持続的な Cookie を使用して収集する場合があります。これらの Cookie は無効にできますが、その場合、これらを有効にした場合の機能を活用することはできません。

Cookie およびこれに類するテクノロジーによる個人情報の収集は、各国の適用法令等による制限を受けます。この「ソフトウェア・オファリング」が Cookie およびさまざまなテクノロジーを使用してエンド・ユーザーから個人情報を収集する機能を提供する場合、お客様は、個人情報を収集するにあたって適用される法律、ガイドライン等を遵守する必要があります。これには、エンド・ユーザーへの通知や同意取得の要求も含まれますがそれらには限られません。

お客様は、IBM の使用にあたり、(1) IBM およびお客様のデータ収集と使用に関する方針へのリンクを含む、お客様の Web サイト利用条件（例えば、プライバシー・ポリシー）への明確なリンクを提供すること、(2) IBM がお客様に代わり閲覧者のコンピューターに、Cookie およびクリア GIF または Web ビーコンを配置することを通知すること、ならびにこれらのテクノロジーの目的について説明すること、および (3) 法律で求められる範囲において、お客様または IBM が Web サイトへの閲覧者の装置に Cookie およびクリア GIF または Web ビーコンを配置する前に、閲覧者から合意を取り付けること、とします。

このような目的での Cookie を含む様々なテクノロジーの使用の詳細については、IBM の『IBM オンラインでのプライバシー・ステートメント』（<http://www.ibm.com/privacy/details/jp/ja/>）の『クッキー、ウェブ・ビーコン、その他のテクノロジー』を参照してください。



